

平成22年度水戸市内遺跡発掘調査報告書

2022

水戸市教育委員会



台渡里官衙遺跡（第 69 次）で検出された斜め方位を採る 7 世紀後葉の柵列 SA01（南から）



台渡里官衙遺跡（第 69 次）で検出された柵列 SA01 の柱穴土層断面（西から）

原色図版 2



一戦塚遺跡（第1地点）本発掘調査 SI01 から出土した古墳時代前期後葉～末葉の土師器



文京1丁目遺跡（第1地点区画 No.2）の古墳周溝内から出土した黒斑を有する埴輪群（縮尺 10分の1）

ごあいさつ

歴史的文化遺産のひとつである埋蔵文化財は、工事や開発などにより一度破壊されると二度と原状に復すことができないため、私たちが大切に保存しながら後世へ伝えていかなければならない貴重な財産です。近年の大規模開発等による都市化の様相が強まる中で、埋蔵文化財の現状保存は非常に困難になりつつありますが、本市においてもその意義や重要性を踏まえ、文化財保護法及び関係法令に基づいた保護保存に努めているところです。

本書は、平成 22 年度に水戸市内において実施した国庫補助による試掘・確認調査、本発掘調査、立会調査の報告書です。

平成 22 年度に実施した試掘・確認調査は 77 件に及び、個人住宅建築に伴う記録保存を目的とした本発掘調査は 6 件を実施しました。この 83 という件数は茨城県内では最も多く、それだけ市内で開発が行われていることを物語っています。本書には、これらの調査によって得られた縄文時代から近代に及ぶ数々の興味深い成果が盛り込まれております。

それぞれの調査面積・期間はささやかなものですが、その成果を一つ一つ積み重ねていくことにより、水戸の歴史をより豊かなものにし、郷土の歴史的資源を活かした風格のあるまちづくりの一助となることを願ってやみません。

最後になりましたが、発掘調査に際して多大な御理解と御協力をいただきました事業者・土地所有者の皆様、並びに種々の御指導・御助言をいただきました文化庁文化財部記念物課（現文化財第二課）埋蔵文化財部門、茨城県教育庁総務企画部文化課、水戸市史跡等整備検討専門委員の皆様方に心から感謝を申し上げます。そしてここに刊行する本書が、かけがえのない郷土の文化財に対する意識の高揚と、学術研究等の資料として、広く御活用いただけることを期待し、ごあいさつといたします。

令和 4 年 3 月

水戸市教育委員会
教育長 志田 晴美

例 言

1. 本書は平成 22 年度に国庫補助を受けて水戸市教育委員会が直営事業として実施した市内に所在する遺跡の発掘調査報告書である。

2. 調査時の体制は以下のとおりである。

(平成 22 年)

	鯨岡 武	水戸市教育委員会教育長
事 務 局	内田秀泰	水戸市教育委員会事務局教育次長
	宮崎賢司	同文化振興課大串貝塚ふれあい公園所長
	米川暢敬	同文化財主事
	山戸祐子	同嘱託員
	田中恭子	同嘱託員
	金子千秋	同嘱託員
整理担当者	川口武彦	同主幹
	色川順子	同嘱託員

3. 整理作業は以下の体制で平成 23 年以降も継続して実施した。

	鯨岡 武	水戸市教育委員会教育長 (平成 16 年 10 月 5 日～平成 24 年 10 月 4 日)
	本多清峰	水戸市教育委員会教育長 (平成 24 年 10 月 5 日～令和元年 10 月 4 日)
	東小川昌夫	水戸市教育委員会教育長職務代理者 (令和元年 10 月 5 日～令和元年 12 月 27 日)
	志田晴美	水戸市教育委員会教育長 (令和元年 12 月 28 日～)
事 務 局	会沢俊郎	水戸市教育委員会事務局教育次長 (平成 23 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日)
	中里誠志郎	同教育次長 (平成 25 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)
	七字裕二	同教育部長 (平成 28 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)
	増子孝伸	同教育部長 (平成 30 年 4 月 1 日～)
	五上義隆	同埋蔵文化財センター所長 (平成 23 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)
	飯村博史	同埋蔵文化財センター所長 (平成 26 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)
	長谷川仁	同埋蔵文化財センター所長 (平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)
	関口慶久	同埋蔵文化財センター所長 (平成 29 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日)
	川口武彦	同埋蔵文化財センター所長 (平成 31 年 4 月 1 日～)
	渥美賢吾	同埋蔵文化財センター文化財主事／主幹 (平成 23 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)
	米川暢敬	同埋蔵文化財センター主幹／調査係長 (平成 22 年 4 月 1 日～)
	新垣清貴	同埋蔵文化財センター文化財主事／主幹 (平成 28 年 4 月 1 日～)
	廣松滉一	同埋蔵文化財センター文化財主事 (平成 30 年 4 月 1 日～)
	太田勇陽	同埋蔵文化財センター文化財主事 (平成 31 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日)
	丸山優香里	同埋蔵文化財センター文化財主事 (令和 3 年 4 月 1 日～)
	金子千秋	同埋蔵文化財センター嘱託員 (平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)
	三浦健太	同埋蔵文化財センター嘱託員 (平成 22 年 10 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)
	額賀大輔	同埋蔵文化財センター嘱託員 (平成 23 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)
	鈴木達也	同埋蔵文化財センター嘱託員 (平成 23 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)
	鈴木 学	同埋蔵文化財センター嘱託員 (平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)
	昆 志穂	同埋蔵文化財センター嘱託員／会計年度任用職員 (平成 26 年 4 月 1 日～)
	丸山優香里	同埋蔵文化財センター嘱託員／会計年度任用職員 (平成 26 年 6 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日)
	下山はる奈	同埋蔵文化財センター嘱託員 (平成 28 年 10 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)
	染井千佳	同埋蔵文化財センター嘱託員 (平成 29 年 5 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日)
	松浦史明	同埋蔵文化財センター嘱託員／会計年度任用職員 (平成 29 年 10 月 17 日～)
	外山綾乃	同埋蔵文化財センター嘱託員 (平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 4 月 30 日)
	藤本 咲	同埋蔵文化財センター会計年度任用職員 (令和 3 年 6 月 1 日～令和 4 年 2 月 28 日)
	庄司 優	同埋蔵文化財センター会計年度任用職員 (令和 3 年 4 月 1 日～)

	栗原秀英	同埋蔵文化財センター会計年度任用職員（令和3年8月1日～）
	大津郁子	同埋蔵文化財センター嘱託員（平成21年4月1日～平成22年9月30日）
	田中恭子	同埋蔵文化財センター嘱託員（平成22年4月1日～平成23年3月31日）
	木村貴子	同埋蔵文化財センター嘱託員（平成23年6月1日～平成24年3月31日）
	木本雪佳	同埋蔵文化財センター嘱託員（平成24年4月1日～平成25年6月30日）
	大谷純奈	同埋蔵文化財センター嘱託員（平成25年7月1日～平成26年11月30日）
	菅谷瑛奈	同埋蔵文化財センター嘱託員（平成27年6月1日～平成29年3月31日）
	有田洋子	同埋蔵文化財センター嘱託員／会計年度任用職員（平成29年4月1日～）
	山戸祐子	同埋蔵文化財センター嘱託員（平成18年4月1日～平成28年3月31日）
	杉山洋子	同埋蔵文化財センター嘱託員（平成28年4月1日～平成29年3月31日）
整理担当者	川口武彦	同埋蔵文化財センター所長（平成31年4月1日～）
	米川暢敬	同埋蔵文化財センター主幹／調査係長（平成22年4月1日～）
	色川順子	同埋蔵文化財センター嘱託員（平成22年4月1日～平成24年3月31日）
	坂本幸子	同埋蔵文化財センター嘱託員（平成24年10月1日～平成25年3月31日）
	太田有里乃	同埋蔵文化財センター嘱託員／主事（平成25年4月1日～平成29年3月31日）

4. 発掘調査と整理事業には以下の者が参加した。

発掘調査参加者

石川 勉, 石崎寿子, 石崎洋子, 榎澤由紀江, 海老原四郎, 岡野政雄, 小山司農夫, 片西登美江, 加藤利男, 川又恵美子, 河原井俊吉郎, 久保木きよ子, 久保田馨, 栗原芳子, 黒須秀昭, 鈴木潤一, 高柳悦子, 高安幸且, 飛田とし子, 富田 仁, 中山忠雄, 廣水一真, 福原雅美, 三浦健太, 皆川明子, 皆川幸子, 村上巧兒, 山崎武司, 渡辺恵子

整理事業参加者

安島町子, 飯田貴代子, 石原幸子, 小澤弥代, 柏千枝子, 川又美穂, 郡司由紀子, 斉藤千左乃, 杉崎明美, 鈴木加代子, 須藤裕美, 田上雪枝, 橋本祥子, 人見よね子, 平根真由美, 広瀬文子, 深澤貞子, 三浦悦子, 山戸祐子, 和田正治

5. 本書の執筆は、各現場の担当者が分担し、全体の編集及び図版作成及び出土遺物の大部分の観察表作成・解説文執筆は川口が、中世以降の遺物の観察表作成及び解説文執筆は関口慶久が担当した。
6. 本書に関わる資料は、水戸市教育委員会が保管している。
7. 遺構の写真撮影は現場担当者が行った。
8. 発掘調査から本書の刊行に至るまで、下記の方々・諸機関より御指導・御教示・御協力を賜った。記して深く感謝いたします（五十音順・敬称略）。

【個人】 青山俊明, 井 博幸, 稲田健一, 今尾文昭, 梅田由子, 大塚初重, 大橋泰夫, 岡本東三, 片平雅俊, 川崎純徳, 瓦吹 堅, 木本孝周, 黒澤彰哉, 小杉山大輔, 後藤一成, 後藤孝行, 後藤道雄, 斉藤 新, 斎藤弘道, 佐々木憲一, 佐々木義則, 鈴木素行, 蓼沼香未由, 田中 裕, 谷口陽子, 生田目和利, 日高 慎, 吹野富美夫, 三井 猛, 宮内良隆, 谷仲俊雄, 山中敏史, 横倉要次

【機関】 文化庁文化財部記念物課（現文化財第二課）埋蔵文化財部門, 茨城県教育庁総務企画部文化課

凡 例

1. 遺構平面図・断面図の縮尺は統一していない。縮小率は各図面に示したスケールを参照願いたい。
2. 遺構断面図及び土層堆積図の標高は、その都度図中に示している。
3. 本書中の色調に関する表現は新版標準土色帖（農林水産技術会議事務局監修 2000年版）に従った。
4. 遺物の観察表は遺物の材質毎に分けて、個別の報告の後に一括して提示した。
5. 引用・参考文献は、一括して本書の最後に提示した。
6. 表紙に使用した遺物の実測図は、文京1丁目遺跡（第1地点区画No.2）出土の円筒埴輪である。
7. 釜神町遺跡（第24地点）については、幸町遺跡（第1地点）として実績報告書に記載されたが、その後の整理の過程で、幸町遺跡ではなく、釜神町遺跡内であったことが判明したため、釜神町遺跡（第24地点）出土遺物としてラベル・収納箱・台帳・注記・実測図の記載等も含めて訂正した。

目 次

あいさつ

例言・凡例・目次

第 1 章 平成 22 年度の発掘調査と概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第 2 章 開発に伴う試掘調査・史跡等における確認調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

2-1 金剛寺遺跡（第 8 地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

2-2 杳掛遺跡（第 5 地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

2-3 吉田古墳群（第 9 地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

2-4 吉田古墳群（第 10 地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

2-5 大井古墳群（第 1 地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

2-6 渡里町遺跡（第 11 地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

2-7 渡里町遺跡（第 12 地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

2-8 赤塚遺跡（第 5 地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

2-9 赤塚遺跡（第 6 地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

2-10 台渡里官衙遺跡（台渡里第 62 次・72 次）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

2-11 台渡里官衙遺跡（台渡里第 63 次）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

2-12 台渡里官衙遺跡（台渡里第 65 次）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27

2-13 台渡里官衙遺跡（台渡里第 66 次）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

2-14 台渡里官衙遺跡（台渡里第 67 次）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30

2-15 台渡里官衙遺跡（台渡里第 71 次）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32

2-16 台渡里官衙遺跡（台渡里第 74 次）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33

2-17 台渡里官衙遺跡（台渡里第 75 次）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35

2-18 台渡里官衙遺跡（台渡里第 76 次）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36

2-19 台渡里官衙遺跡（台渡里第 78 次）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38

2-20 台渡里廃寺跡（台渡里第 80 次）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40

2-21 台渡里官衙遺跡（台渡里第 82 次）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45

2-22 谷田古墳群（第 12 地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47

2-23 釜神町遺跡（第 5 地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48

2-24 釜神町遺跡（第 24 地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50

2-25 上平遺跡（第 1 地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52

2-26 馬場尻遺跡（第 3 地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53

2-27 馬場尻遺跡（第 4 地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 54

2-28 坏遺跡（第 13 地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55

2-29 坏遺跡（第 14 地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56

2-30 坏遺跡（第 16 地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60

2-31 薬王院東遺跡（第 2 地点第 3 次区画 No.2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62

2-32 薬王院東遺跡（第 2 地点第 3 次区画 No.3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63

2-33 薬王院東遺跡（第 2 地点第 3 次区画 No.6）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65

2-34 堀遺跡（第 3 地点区画 No.1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67

2-35 堀遺跡（第 22 地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69

2-36 堀遺跡（第 24 地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71

2-37 堀遺跡（第 25 地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 72

2-38 堀遺跡（第 28 地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 73

2-39 南台遺跡（第 3 地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 75

2-40 アラヤ遺跡（第 3 地点（台渡里第 68 次））・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 76

2-41	大鋸町遺跡 (第 12 地点)	77
2-42	西原遺跡 (第 2 地点)	78
2-43	文京 1 丁目遺跡 (第 1 地点区画 No.1)	79
2-44	文京 1 丁目遺跡 (第 1 地点区画 No.2)	81
2-45	谷田遺跡 (第 1 地点)	87
2-46	茨城高等学校遺跡 (第 1 地点第 4 次)	88
2-47	下遠田遺跡 (第 2 地点)	91
2-48	釜久保遺跡 (第 5 地点)	92
2-49	下畑遺跡 (第 3 地点)	93
2-50	新地遺跡 (第 2 地点)	97
2-51	下本郷遺跡 (第 4 地点)	98
2-52	下本郷遺跡 (第 5 地点)	99
2-53	水戸城跡 (第 7 地点第 25 次)	101
第 3 章 個人住宅建築に伴う本発掘調査 106		
3-1	沓掛遺跡 (第 4 地点第 2 次)	106
3-2	一戦塚遺跡 (第 1 地点第 2 次)	109
3-3	台渡里官衙遺跡 (台渡里第 69 次)	116
3-4	台渡里官衙遺跡 (台渡里第 70 次)	122
3-5	堀遺跡 (第 22 地点第 2 次)	125
第 4 章 開発に伴う立会調査 129		
4-1	谷田遺跡 (第 1 地点第 2 次)	129
4-2	水戸城跡 (第 7 地点第 27 次)	135
第 5 章 開発に伴う踏査と採集遺物 138		
5-1	愛宕山古墳	138
5-2	台渡里廃寺跡 (観音堂山地区)	138
5-3	四又入窯跡群	138
5-4	藤井町遺跡	139
引用・参考文献		167
報告書抄録		

図版目次

第 1 図	本書で報告する調査対象遺跡の位置・・・4	第 35 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 67 次)の位置・・・30
第 2 図	金剛寺遺跡(第 8 地点)の位置・・・5	第 36 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 67 次)のトレンチ配置 ・・・31
第 3 図	金剛寺遺跡(第 8 地点)のトレンチ配置・・・5	第 37 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 67 次)出土遺物・・・31
第 4 図	トレンチ 1 近世溝跡出土遺物・・・6	第 38 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 71 次)の位置・・・32
第 5 図	杵掛遺跡(第 5 地点)の位置・・・7	第 39 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 71 次)のトレンチ配置 ・・・32
第 6 図	杵掛遺跡(第 5 地点)のトレンチ配置・・・7	第 40 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 71 次)出土遺物・・・32
第 7 図	吉田古墳群(第 9 地点)の位置・・・8	第 41 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 74 次)の位置・・・33
第 8 図	吉田古墳群(第 9 地点)のトレンチ配置・・・8	第 42 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 74 次)のトレンチ配置 ・・・34
第 9 図	吉田古墳群(第 10 地点)の位置・・・9	第 43 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 74 次)出土遺物・・・34
第 10 図	吉田古墳群(第 10 地点)のトレンチ配置 ・・・9	第 44 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 75 次)の位置・・・35
第 11 図	大井古墳群(第 1 地点第 2 次)の位置・・・10	第 45 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 75 次)のトレンチ配置 ・・・35
第 12 図	大井古墳群(第 1 地点第 2 次)調査区的位置 と地下式坑土層断面・・・10	第 46 図	溝跡の接続状況(1,000 分の 1)・・・35
第 13 図	大井古墳群(第 1 地点第 2 次)出土遺物 ・・・11	第 47 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 76 次)の位置・・・36
第 14 図	渡里町遺跡(第 11 地点)の位置・・・12	第 48 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 76 次)のトレンチ配置 ・・・37
第 15 図	渡里町遺跡(第 11 地点)のトレンチ配置 ・・・12	第 49 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 76 次)出土遺物・・・36
第 16 図	渡里町遺跡(第 11 地点)出土遺物・・・14	第 50 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 78 次)の位置・・・38
第 17 図	渡里町遺跡(第 12 地点)の位置・・・15	第 51 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 78 次)のトレンチ配置 ・・・39
第 18 図	渡里町遺跡(第 12 地点)のトレンチ配置 ・・・16	第 52 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 78 次)出土遺物・・・39
第 19 図	渡里町遺跡(第 12 地点)出土遺物・・・17	第 53 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 80 次)の位置・・・40
第 20 図	赤塚遺跡(第 5 地点第 4 次)の位置・・・18	第 54 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 80 次)のトレンチ配置(1,200 分の 1) ・・・41
第 21 図	赤塚遺跡(第 5 地点第 4 次)のトレンチ配置 ・・・18	第 53 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 80 次)出土遺物①・・・42
第 22 図	赤塚遺跡(第 6 地点)の位置・・・19	第 54 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 80 次)出土遺物②・・・43
第 23 図	赤塚遺跡(第 6 地点)のトレンチ配置と廃棄 土坑の検出位置・・・20	第 55 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 80 次)の位置・・・45
第 24 図	赤塚遺跡(第 6 地点)出土遺物・・・21	第 56 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 80 次)のトレンチ配置 ・・・46
第 25 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 62 次・第 72 次)の位置 ・・・22	第 57 図	谷田古墳群(第 12 地点)の位置・・・47
第 26 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 62 次・第 72 次)のトレンチ配置 ・・・23	第 58 図	谷田古墳群(第 12 地点)のトレンチ配置 ・・・47
第 27 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 62 次・第 72 次)出土遺物 ・・・24	第 59 図	釜神町遺跡(第 5 地点)の位置・・・48
第 28 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 63 次)の位置・・・25	第 60 図	釜神町遺跡(第 5 地点)のトレンチ配置 ・・・48
第 29 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 63 次)のトレンチ配置 ・・・26	第 61 図	釜神町遺跡(第 5 地点)出土遺物・・・49
第 30 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 65 次)の位置・・・27	第 62 図	釜神町遺跡(第 24 地点)の位置・・・50
第 31 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 65 次)のトレンチ配置 ・・・27	第 63 図	釜神町遺跡(第 24 地点)のトレンチ配置 ・・・50
第 32 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 66 次)の位置・・・28	第 64 図	釜神町遺跡(第 24 地点)出土遺物・・・51
第 33 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 66 次)のトレンチ配置 ・・・29	第 65 図	上平遺跡(第 1 地点)の位置・・・52
第 34 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 66 次)出土遺物・・・28	第 66 図	上平遺跡(第 1 地点)のトレンチ配置・・・52
		第 67 図	馬場尻遺跡(第 3 地点)の位置・・・53
		第 68 図	馬場尻遺跡(第 3 地点)のトレンチ配置

第 69 図	馬場尻遺跡 (第 4 地点) の位置	54	第 105 図	大鋸町遺跡 (第 12 地点) のトレンチ配置	77
第 70 図	馬場尻遺跡 (第 4 地点) のトレンチ配置	54	第 106 図	大鋸町遺跡 (第 12 地点) 出土遺物	77
第 71 図	坏遺跡 (第 13 地点) の位置	55	第 107 図	西原遺跡 (第 2 地点) の位置	78
第 72 図	坏遺跡 (第 13 地点) のトレンチ配置	55	第 108 図	西原遺跡 (第 2 地点) のトレンチ配置	78
第 73 図	坏遺跡 (第 14 地点) の位置	56	第 109 図	西原遺跡 (第 2 地点) 出土遺物	78
第 74 図	坏遺跡 (第 14 地点) のトレンチ配置	57	第 110 図	文京 1 丁目遺跡 (第 1 地点) の位置	79
第 75 図	坏遺跡 (第 14 地点) 出土遺物	59	第 111 図	文京 1 丁目遺跡 (第 1 地点区画 No.1) のトレンチ配置	79
第 76 図	坏遺跡 (第 16 地点) の位置	60	第 112 図	文京 1 丁目遺跡 (第 1 地点区画 No.1) 出土遺物	80
第 77 図	坏遺跡 (第 16 地点) のトレンチ配置	60	第 113 図	文京 1 丁目遺跡 (第 1 地点区画 No.2) のトレンチ配置	81
第 78 図	坏遺跡 (第 16 地点) 出土遺物	61	第 114 図	文京 1 丁目遺跡 (第 1 地点区画 No.2) 出土遺物①	82
第 79 図	薬王院東遺跡 (第 2 地点第 3 次) の位置	62	第 115 図	文京 1 丁目遺跡 (第 1 地点区画 No.2) 出土遺物②	84
第 80 図	薬王院東遺跡 (第 2 地点第 3 次区画 No.2) のトレンチ配置	62	第 116 図	文京 1 丁目遺跡 (第 1 地点区画 No.2) 出土遺物③	85
第 81 図	薬王院東遺跡 (第 2 地点第 3 次区画 No.2) 出土遺物	63	第 117 図	愛宕山古墳採集の埴輪	86
第 82 図	薬王院東遺跡 (第 2 地点第 3 次区画 No.3) のトレンチ配置	64	第 118 図	谷田遺跡 (第 1 地点) の位置	87
第 83 図	薬王院東遺跡 (第 2 地点第 3 次区画 No.6) のトレンチ配置	65	第 119 図	谷田遺跡 (第 1 地点) のトレンチ配置	87
第 84 図	薬王院東遺跡 (第 2 地点第 3 次区画 No.6) 出土遺物	66	第 120 図	谷田遺跡 (第 1 地点) 出土遺物	88
第 85 図	堀遺跡 (第 3 地点) の位置	67	第 121 図	茨城高等学校遺跡 (第 1 地点第 4 次) の位置	88
第 86 図	堀遺跡 (第 3 地点区画 No.1) のトレンチ配置と第 1 次調査の遺構配置	68	第 122 図	茨城高等学校遺跡 (第 1 地点第 4 次) のトレンチ配置	89
第 87 図	堀遺跡 (第 3 地点区画 No.1) 出土遺物	68	第 123 図	茨城高等学校遺跡 (第 1 地点第 4 次) 出土遺物	90
第 88 図	堀遺跡 (第 22 地点) の位置	69	第 124 図	下遠田遺跡 (第 2 地点) の位置	91
第 89 図	堀遺跡 (第 22 地点) のトレンチ配置	70	第 125 図	下遠田遺跡 (第 2 地点) のトレンチ配置	91
第 90 図	堀遺跡 (第 22 地点) 出土遺物	70	第 126 図	釜久保遺跡 (第 5 地点) の位置	92
第 91 図	堀遺跡 (第 24 地点) の位置	71	第 127 図	釜久保遺跡 (第 5 地点) のトレンチ配置	92
第 92 図	堀遺跡 (第 24 地点) のトレンチ配置	71	第 128 図	釜久保遺跡 (第 5 地点) 出土遺物	93
第 93 図	堀遺跡 (第 24 地点) 出土遺物	71	第 129 図	下畑遺跡 (第 3 地点) の位置	93
第 94 図	堀遺跡 (第 25 地点) の位置	72	第 130 図	下畑遺跡 (第 3 地点) のトレンチ配置	95
第 95 図	堀遺跡 (第 25 地点) のトレンチ配置	72	第 131 図	下畑遺跡 (第 3 地点) 出土遺物	96
第 96 図	堀遺跡 (第 28 地点) の位置	73	第 132 図	新地遺跡 (第 2 地点) の位置	97
第 97 図	堀遺跡 (第 28 地点) のトレンチ配置	73	第 133 図	新地遺跡 (第 2 地点) のトレンチ配置	97
第 98 図	堀遺跡 (第 28 地点) 出土遺物	74	第 134 図	新地遺跡 (第 2 地点) 出土遺物	98
第 99 図	南台遺跡 (第 3 地点) 出土遺物	75	第 135 図	下本郷遺跡 (第 4 地点) の位置	98
第 100 図	南台遺跡 (第 3 地点) のトレンチ配置	75	第 136 図	下本郷遺跡 (第 4 地点) のトレンチ配置	98
第 101 図	アラヤ遺跡 (第 3 地点 (台渡里第 68 次)) の位置	76	第 137 図	下本郷遺跡 (第 5 地点) の位置	99
第 102 図	アラヤ遺跡 (第 3 地点 (台渡里第 68 次)) のトレンチ配置	76	第 138 図	下本郷遺跡 (第 5 地点) のトレンチ配置	99
第 103 図	アラヤ遺跡 (第 3 地点 (台渡里第 68 次)) 出土遺物	76	第 139 図	下本郷遺跡 (第 5 地点) 出土遺物	100
第 104 図	大鋸町遺跡 (第 12 地点) の位置	77	第 140 図	水戸城跡 (第 7 地点第 25 次) の位置	101

第 141 図	特別史跡旧弘道館正庁諸役会所床下ヵ没箇所の位置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	102	第 161 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 70 次)本発掘調査区遺構配置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	122
第 142 図	特別史跡旧弘道館正庁諸役会所床下ヵ没箇所の大型円形土坑 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	102	第 162 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 70 次)SD01 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	123
第 143 図	水戸城跡(第 7 地点第 25 次)大型円形土坑出土遺物① ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	104	第 163 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 70 次)SD01 及び遺構確認面出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	124
第 144 図	水戸城跡(第 7 地点第 25 次)大型円形土坑出土遺物② ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	105	第 164 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 70 次)周辺における遺構の確認状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	124
第 145 図	杳掛遺跡(第 4 地点)における遺構の配置	107	第 165 図	堀遺跡(第 22 地点)本発掘調査区遺構配置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	126
第 146 図	杳掛遺跡(第 4 地点)出土遺物	107	第 166 図	堀遺跡(第 22 地点)の本調査区土層断面 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	126
第 147 図	杳掛遺跡(第 4 地点)の本調査区・遺構土層断面 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	108	第 167 図	堀遺跡(第 22 地点)出土遺物	126
第 148 図	一戦塚遺跡(第 1 地点第 2 次)の本発掘調査範囲の位置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	109	第 168 図	谷田遺跡(第 1 地点)の位置	129
第 149 図	一戦塚遺跡(第 1 地点第 2 次)の本発掘調査の遺構配置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	110	第 169 図	谷田遺跡(第 1 地点第 2 次)で確認された遺構の配置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	129
第 150 図	一戦塚遺跡(第 1 地点第 2 次)本発掘調査区の遺構土層断面 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	111	第 170 図	谷田遺跡(第 1 地点第 2 次)SI1 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	131
第 151 図	一戦塚遺跡(第 1 地点第 2 次)本発掘調査 SI01 出土遺物① ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	112	第 171 図	谷田遺跡(第 1 地点第 2 次)SI4 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	131
第 152 図	一戦塚遺跡(第 1 地点第 2 次)本発掘調査 SI01 出土遺物② ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	113	第 172 図	谷田遺跡(第 1 地点第 2 次)SI5 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	132
第 153 図	一戦塚遺跡(第 1 地点第 2 次)本発掘調査 SD01 出土遺物① ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	114	第 173 図	谷田遺跡(第 1 地点第 2 次)SI6 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	132
第 154 図	一戦塚遺跡(第 1 地点第 2 次)本発掘調査 SD01 出土遺物② ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	115	第 174 図	谷田遺跡(第 1 地点第 2 次)SI7 出土遺物① ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	133
第 155 図	一戦塚遺跡(第 1 地点第 2 次)本発掘調査遺構外出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	115	第 175 図	谷田遺跡(第 1 地点第 2 次)SI7 出土遺物② ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	134
第 156 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 69 次)本発掘調査区遺構配置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	116	第 176 図	水戸城跡(第 7 地点第 27 次)の位置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	135
第 157 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 69 次)SA01 柱穴土層断面 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	117	第 177 図	水戸城跡(第 7 地点第 27 次)立会箇所の位置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	136
第 158 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 69 次)出土遺物① ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	117	第 178 図	水戸城跡(第 7 地点第 27 次)出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	136
第 159 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 69 次)出土遺物② ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	118	第 179 図	愛宕山古墳採集遺物	138
第 160 図	台渡里官衙遺跡(台渡里第 69 次)周辺における遺構の確認状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	119	第 180 図	台渡里廃寺跡採集遺物	138
			第 181 図	四又入窯跡群採集遺物	138
			第 182 図	藤井町遺跡採集遺物	139

表目次

第 1 表	開発に伴う試掘調査及び史跡等における確認調査一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1/3	第 6 表	台渡里官衙遺跡(台渡里第 69 次)柵列 SA01 柱穴属性 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	116
第 2 表	個人住宅建築に伴う本発掘調査一覧	3	第 7 表	土器・陶磁器・瓦・土製品・ガラス製品観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	140/165
第 3 表	開発に伴う工事立会調査一覧	3	第 8 表	石器・石製品観察表	166
第 4 表	愛宕山古墳群古墳一覧	86	第 9 表	金属製品観察表	166
第 5 表	杳掛遺跡(第 4 地点第 2 次)本発掘調査検出の土坑・ピット一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	108			

第1章 平成22年度の発掘調査と概要

平成22年度の水戸市内遺跡発掘調査は、43遺跡71地点がその対象となった。その内訳は、開発に伴う試掘調査及び史跡等における確認調査77件であった。

開発に係わる試掘調査では、27遺跡53地点で遺構・遺物が検出され（第1表）、事業計画と試掘調査によって得られた情報を比較したところ、大半は工事を実施した場合の遺跡への影響が軽微であると判断されたため、工事立会あるいは慎重工事の扱いとなり、本発掘調査の実施が必要であると判断されたものは6件であった（第2表）。

また、工事立会の扱いとなり、立会時に遺構・遺物が出土した調査は2件であった（第3表）。

第1表 開発に伴う試掘調査及び史跡等における確認調査一覧

No.	遺跡名	調査地	調査期間	調査原因	調査面積 (㎡)	調査 担当者	遺構	遺物	掲載頁
1	金剛寺遺跡 (第8地点)	開江町字寺山2113外	4月13日	ドクターヘリ発着場 建設工事	208.5	川口武彦	○	○	5/6
2	春掛遺跡(第5地点)	見川町2570-2	4月16日	伐採・伐根	33.92	川口武彦	—	○	7
3	吉田古墳群 (第9地点)	元吉田町84-2外	4月23日	個人住宅建築工事	18.0	川口武彦	—	○	8
4	吉田古墳群 (第10地点)	元吉田町字東組706-1	5月14日	個人住宅建築工事	31.5	川口武彦	—	○	9
5	吉田古墳群 (第11地点)	元吉田町字東組706-4	7月15日	個人住宅建築工事	6.0	米川暢敬	—	—	—
6	大井古墳群 (第1地点)	飯富町(市道飯富224号線)	5月11日～5月12日	側溝埋設工事	54.6	川口武彦	○	○	10/11
7	渡里町遺跡 (第11地点)	渡里町2819-4, -5	5月21日	共同住宅建築工事	50.0	川口武彦 田中恭子	○	○	12/14
8	渡里町遺跡 (第12地点)	渡里町字八幡前2593-1	8月3日	宅地造成工事	72.0	川口武彦	○	○	15/17
9	赤塚遺跡 (第5地点)	河和田3丁目2536	10月5日	保育所建築工事	30.0	米川暢敬	○	—	18/21
10	赤塚遺跡 (第6地点)	河和田3丁目2324-1, -2, -3 の一部, -8, -9, 2325-1の一部, -5の一部, 2327-1の一部	5月27日	宅地造成工事	34.0	川口武彦 田中恭子	—	○	19/21
11	台渡里官衙遺跡 (台渡里第62次)	渡里町字アラヤ3057-2	6月1日	個人住宅建替工事	19.0	川口武彦 田中恭子	○	○	22/24
12	台渡里官衙遺跡 (台渡里第63次)	渡里町字前原2865	6月9日	宅地造成工事	59.1	川口武彦	○	○	25/26
13	台渡里官衙遺跡 (台渡里第65次)	渡里町2835-2, -11, -12	8月10日	駐車場造成工事	14.0	川口武彦	—	○	27
14	台渡里官衙遺跡 (台渡里第66次)	渡里町字前原2865-6	8月20日	個人住宅建築工事	18.0	川口武彦 色川順子	○	○	28/29
15	台渡里官衙遺跡 (台渡里第67次)	渡里町字前原2865	8月20日	個人住宅建築工事	13.8	川口武彦 色川順子	○	○	30/31
16	台渡里官衙遺跡 (台渡里第71次)	渡里町字前原2880-1, 2877- 3, 2879-2, 2881-2の一部	9月21日	物置及びカーポート 建築工事	3.75	川口武彦	—	○	32
17	台渡里官衙遺跡 (台渡里第74次)	渡里町字前原2867	11月30日	宅地造成工事	27.0	川口武彦	○	○	33/34
18	台渡里官衙遺跡 (台渡里第75次)	渡里町字前原2894-8, -2, -37	12月1日	個人住宅建築工事	10.2	川口武彦 三浦健太	○	○	35
19	台渡里官衙遺跡 (台渡里第76次)	渡里町字前原2832-9	12月2日	個人住宅建築工事	15.0	川口武彦 三浦健太	○	○	36/37
20	台渡里官衙遺跡 (台渡里第77次)	渡里町字前原2832-1	12月2日	個人住宅建築工事	7.05	川口武彦 三浦健太	—	—	—
21	台渡里官衙遺跡 (台渡里第78次)	渡里町字前原2898-1	12月17日	賃貸住宅建替工事	45.0	川口武彦 三浦健太	○	○	38/39
22	台渡里廃寺跡 (台渡里第80次)	渡里町字長者山3070地先～ 3082地先(市道常磐223号線)	1月5日～6日	道路拡幅工事	15.9	川口武彦 渥美賢吾 三浦健太	○	○	40/44
23	台渡里官衙遺跡 (台渡里第82次)	渡里町字宿屋敷3013-5	3月2日	個人住宅建築工事	19.5	川口武彦 三浦健太	○	○	45/46
24	谷田古墳群 (第12地点)	酒門町590-1	6月4日	共同住宅建築工事	49.0	川口武彦	—	○	47
25	下荒句遺跡 (第8地点)	双葉台4丁目238-7, -8, -16, -17	5月13日	個人住宅建築工事	4.0	川口武彦	—	—	—
26	原ノ内遺跡 (第1地点)	赤尾関町字原の内880-1	5月7日	個人住宅建築工事	18.0	川口武彦	—	—	—
27	稲荷塚古墳群 (第1地点第3次)	大塚町1756-9, -10, -11, -12	5月13日	個人住宅建築工事	5.75	川口武彦	—	—	—

No.	遺跡名	調査地	調査期間	調査原因	調査面積 (㎡)	調査 担当者	遺構	遺物	掲載頁
28	釜神町遺跡 (第5地点)	備前町 752-8	6月4日	個人住宅建築工事	14.0	川口武彦	—	○	48/49
29	釜神町遺跡 (第24地点)	備前町 808-2	12月24日	個人住宅建築工事	4.5	川口武彦	—	○	50/51
30	上平遺跡 (第1地点)	栗崎町字上平 2241-6	7月1日	個人住宅建築工事	17.0	川口武彦 田中恭子	○	○	52
31	馬場尻遺跡 (第3地点)	田野町字馬場尻 168-1	7月6日	店舗建設工事	35.0	川口武彦 田中恭子	—	○	53
32	馬場尻遺跡 (第4地点)	田野町 175、176の一部、 177-2	9月21日	個人住宅建替工事	4.50	川口武彦	○	—	54
33	环遺跡 (第13地点第2次)	河和田1丁目 1637-1、1638	7月16日	集合住宅建築工事	23.0	米川暢敬	○	—	55/56
34	环遺跡 (第14地点第1次)	河和田3丁目 2376-1、-2	7月6日	宅地造成工事	36.0	川口武彦 田中恭子	○	○	56/60
35	环遺跡 (第14地点第2次)	河和田3丁目 2376-1、-2	10月29日	個人住宅建築工事	42.0	川口武彦 三浦健太	○	○	
36	环遺跡 (第15地点)	河和田1丁目 1645-85	9月27日	個人住宅建築工事	6.0	米川暢敬	—	—	—
37	环遺跡 (第16地点)	河和田2丁目 1713-10 外	2月4日	宅地造成工事	60.0	川口武彦 三浦健太	○	○	60/61
38	薬王院東遺跡(第2 地点第3次区画No.2)	元吉田町字東組 573-15	7月15日～7月16日	個人住宅建築工事	6.0	米川暢敬	○	○	62/63
39	薬王院東遺跡(第2 地点第3次区画No.3)	元吉田町字東組 573-16	7月15日～7月16日	個人住宅建築工事	6.0	米川暢敬	○	○	63/64
40	薬王院東遺跡(第2 地点第3次区画No.4)	元吉田町字東組 573-17	7月15日～7月16日	個人住宅建築工事	6.0	米川暢敬	—	—	—
41	薬王院東遺跡(第2 地点第3次区画No.6)	元吉田町字東組 573-20	2月10日	個人住宅建築工事	9.60	川口武彦 三浦健太	○	○	65/66
42	堀遺跡 (第3地点区画No.1)	渡里町字高野台 3231-10	12月1日	個人住宅建築工事	9.45	川口武彦 三浦健太	○	○	67/69
43	堀遺跡 (第22地点)	渡里町字高野台 3307-20	7月28日	個人住宅建築工事	17.25	川口武彦 色川順子	○	○	69/70
44	堀遺跡 (第23地点)	堀町字堂地内 495-8	8月10日	店舗建設工事	4.0	川口武彦	—	—	—
45	堀遺跡 (第24地点)	堀町字馬場東 307-2、-3の一部	8月27日	個人住宅建築工事	5.7	川口武彦	○	○	71
46	堀遺跡 (第25地点)	堀町字馬場東 293-7	9月15日	個人住宅建築工事	10.0	川口武彦	—	○	72
47	堀遺跡 (第26地点)	渡里町字高野台 3290-1	11月26日	個人住宅建築工事	7.2	川口武彦	—	—	—
48	堀遺跡 (第28地点)	堀町 382-1、293-3	2月16日	共同住宅建築工事	33.0	米川暢敬 三浦健太	—	○	—
49	南台遺跡 (第3地点)	上国井町 3906	8月18日	個人住宅建築工事	18.6	川口武彦 色川順子	—	○	75
50	アラヤ遺跡 (第3地点・台渡里第73次)	渡里町字金沢 3111、字アラヤ 3090-3	9月1日	個人住宅建築工事	8.0	米川暢敬 田中恭子 金子千秋	○	○	76
51	大鋸町遺跡 (第12地点)	元吉田町 2311-7	9月10日	個人住宅建築工事	15.0	川口武彦	○	○	77
52	西原遺跡 (第2地点)	渡里町字野木 3387-132、-133	9月15日	個人住宅建築工事	9.3	川口武彦	○	○	78/79
53	文京1丁目遺跡 (第1地点区画No.1)	文京1丁目 1898-8	10月14日	個人住宅建築工事	9.0	川口武彦 三浦健太	○	○	79/80
54	文京1丁目遺跡 (第1地点区画No.2)	文京1丁目 1898-7	11月25日	個人住宅建築工事	10.5	川口武彦 三浦健太	○	○	81/86
55	文京1丁目遺跡 (第1地点区画No.3)	文京1丁目 1898-6	11月25日	個人住宅建築工事	10.5	川口武彦 三浦健太	—	—	—
56	谷田遺跡 (第1地点)	谷田町 630-1	11月4日	共同住宅建築工事	64.5	米川暢敬	○	○	88/89
57	茨城高等学校遺跡 (第1地点第4次)	八幡町 8-54	11月24日	八幡宮拝殿及び弊殿 の保存修理に伴う電気・ 水道管理設工事	4.0	川口武彦 三浦健太	○	○	89/91
58	下遠田遺跡 (第2地点)	五平町字原屋敷 334-1	2月1日	個人住宅建築工事	13.0	川口武彦	—	○	92
59	釜久保遺跡 (第5地点)	大塚町字釜久保 1612-2	2月8日	寄宿舎建築工事	36.0	川口武彦 三浦健太	○	○	93/94
60	下畑遺跡 (第3地点)	元石川町 1749-1	2月10日	個人住宅・農薬用倉 庫建築工事	41.5	川口武彦 三浦健太	○	○	94/97
61	新地遺跡 (第2地点)	六反田町 955の一部	2月21日	個人住宅建築工事	10.1	川口武彦	—	○	98
62	下本郷遺跡 (第4地点)	千波町 24-1	1月21日	個人住宅建築工事	0.9	川口武彦 三浦健太	—	○	99
63	下本郷遺跡 (第5地点)	千波町 688-1、-2、686 外	2月22日	宅地造成工事	37.5	川口武彦 三浦健太	—	○	100/101
64	遠台遺跡 (第5地点)	中原町字椿 872-5、-6	7月21日	個人住宅建築工事	17.0	米川暢敬	—	—	—

No.	遺跡名	調査地	調査期間	調査原因	調査面積 (㎡)	調査 担当者	遺構	遺物	掲載頁
66	小林遺跡 (第1地点)	小林町字小林 1200-210, -211	7月21日	個人住宅建築工事	9.1	米川暢敬	—	—	—
67	小林遺跡 (第5地点)	小林町字経塚 1396-3	8月27日	個人住宅建築工事	5.25	川口武彦	—	—	—
68	江川館跡 (第5地点)	内原町字タテ 584-1	7月28日	個人住宅建築工事	34.0	川口武彦 色川順子	—	—	—
68	日新塾跡 (第6次)	成沢町字寮ノ脇 361-1	9月17日	史跡整備(四阿設置)	9.0	渥美賢吾 川口武彦	—	—	—
69	柳河町遺跡 (第2地点)	柳河町字中坪 756-1	10月6日	個人住宅建築工事	9.75	川口武彦	—	—	—
70	宮西遺跡 (第2地点)	東赤塚 2223-2, 2224-1	11月9日	個人住宅建築工事	4.0	川口武彦	—	—	—
71	福沢古墳群 (第9地点)	米沢町 419-2	11月17日	共同住宅建築工事	48.0	川口武彦	—	—	—
72	福沢古墳群 (第10地点)	米沢町 420-3	2月22日	個人住宅建築工事	7.0	川口武彦 三浦健太	—	—	—
73	大部平太郎屋敷跡 (第2地点)	飯富町字台坪 3610	12月17日	個人住宅建築工事	4.5	川口武彦 三浦健太	—	—	—
74	倉田遺跡 (第1地点)	鯉淵町 4306-23	2月1日	倉庫建築工事	4.0	川口武彦	—	—	—
75	雁沢遺跡 (第2地点)	元石川町 611-116, 322	2月1日	個人住宅建築工事	2.0	川口武彦	—	—	—
76	水戸城跡 (第3地点第24次)	三の丸2丁目6-8外	7月27日～9月30日	史跡整備	59.3	米川暢敬	○	○	—
77	水戸城跡 (第7地点第25次)	三の丸1丁目6-29(旧弘道館)	10月4日～10月8日	指定地陥没に伴う原状復旧	2.0	渥美賢吾	○	○	102/106

※ 68の日新塾跡(第6次)の調査成果については報告書刊行済(関口編 2013)。

※ 76の水戸城跡(第3地点第24次)の調査成果については、別途刊行予定。

第2表 個人住宅建築に伴う本発掘調査一覧

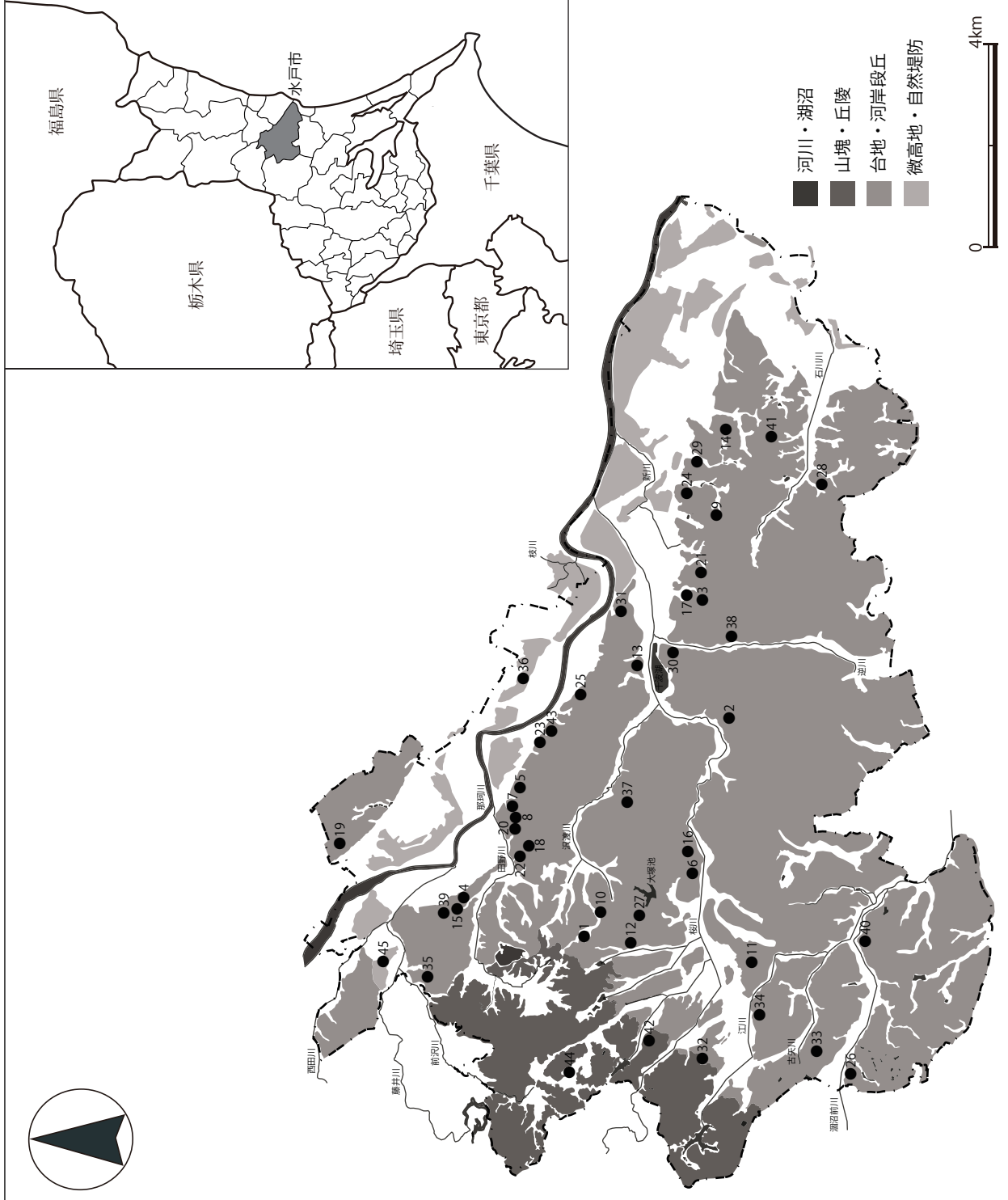
No.	遺跡名	調査地	調査期間	調査面積 (㎡)	調査 担当者	遺構	遺物	掲載頁
1	沓掛遺跡 (第4地点第2次)	見川町 2570番1, 4	4月13日～ 6月11日	418.0	米川暢敬	土坑15(古墳前・近世・不明), ピット10(不明)	縄文土器, 土師器(古墳前), 陶器・カワラケ・銭貨(近世)	107/110
2	一戦塚遺跡 (第1地点第2次)	牛伏町 181番1ほか	7月13日～ 8月13日	168.32	米川暢敬 色川順子	竪穴建物跡1(古墳前), 溝跡1 (奈良・平安), ピット2(不明)	土師器(古墳前), 須恵器(奈良・ 平安), 青銅製品(奈良・平安)	110/116
3	台渡里官衙遺跡 (台渡里第69次)	渡里町字前原 2865番6	10月2日～ 10月7日	67.26	川口武彦	柵列跡1(古墳終), 井戸跡1(中 世)	土師器・須恵器(古墳終), 瓦 (奈良・平安), 陶器・瓦質土器・ 土師質土器(中世)	117/122
4	台渡里官衙遺跡 (台渡里第70次)	渡里町字前原 2865	10月2日～ 10月15日	68.0	色川順子	溝跡1(古墳終)	土師器・須恵器(古墳終)	123/126
5	堀遺跡 (第22地点第2次)	渡里町字高野台 3307 番20	9月9日～ 10月2日	65.3	川口武彦	竪穴建物跡1(古墳終), 溝跡1 (平安), 土坑1(不明)	縄文土器, 土師器・須恵器(古 墳終・奈良・平安), 瓦(奈良・ 平安)	126/129
6	アラヤ遺跡 (第3地点・台渡里第73次)	渡里町字金沢 3111, 字アラヤ 3090-3	10月27日～ 11月19日	90.3	川口武彦	竪穴建物跡3(縄文2・古墳終 1), 性格不明遺構2(古墳終), 掘立柱建物跡1(奈良)	縄文土器・石器, 土師器・須恵 器(古墳終・奈良)	—

※ 6のアラヤ遺跡(第3地点台渡里第73次)の調査成果については、別途収録予定。

第3表 開発に伴う工事立会調査一覧

No.	遺跡名	調査地	調査期間	調査原因	調査面積 (㎡)	調査 担当者	遺構	遺物	掲載頁
1	谷田遺跡 (第1地点第2次)	谷田町 630-1	11月18日	共同住宅建築	—	米川暢敬	○	○	130/135
2	水戸城跡 (第7地点第27次)	三の丸1丁目6-29(旧 弘道館)	1月12日 1月28日 2月10日	史跡整備に伴う現状変更	—	渥美賢吾	—	○	136/138

1. 金剛寺遺跡(第8地点)
2. 沓掛遺跡(第4・5地点)
3. 吉田古墳群(第9・10・11地点)
4. 大井古墳群(第1地点)
5. 渡里町遺跡(第11・12地点)
6. 赤塚遺跡(第5・6地点)
7. 台渡里官衙遺跡(第62・63・65～67・69～71・74～78・82次)
8. 台渡里廃寺跡(第80次)
9. 谷田古墳群(第12地点)
10. 下荒向遺跡(第8地点)
11. 原ノ内遺跡(第1地点)
12. 稲荷塚古墳群(第1地点)
13. 釜神町遺跡(第5・24地点)
14. 上平遺跡(第1地点)
15. 馬場尻遺跡(第3・4地点)
16. 环遺跡(第13～16地点)
17. 薬王院東遺跡(第2地点)
18. 堀遺跡(第3・22～26・28地点)
19. 南台遺跡(第3地点)
20. アヲヤ遺跡(第3地点)
21. 大鋸町遺跡(第12地点)
22. 西原遺跡(第2地点)
23. 文京1丁目遺跡(第1地点)
24. 谷田遺跡(第1地点)
25. 茨城高等学校遺跡(第1地点)
26. 下窪田遺跡(第2地点)
27. 釜久保遺跡(第2地点)
28. 下畑遺跡(第3地点)
29. 新地遺跡(第2地点)
30. 下本郷遺跡(第4・5地点)
31. 水戸城跡(第3・4・7地点)
32. 遠台遺跡(第5地点)
33. 小林遺跡(第1・5地点)
34. 江川館跡(第5地点)
35. 日新塾跡(第6次)
36. 柳河町遺跡(第2地点)
37. 宮西遺跡(第2地点)
38. 福沢古墳群(第9・10地点)
39. 大部平太郎屋敷跡(第2地点)
40. 倉田遺跡(第1地点)
41. 雁沢遺跡(第2地点)
42. 一戦塚遺跡(第1地点)
43. 愛宕山古墳
44. 四又入窯跡群
45. 藤井町遺跡



第1図 本書で報告する調査対象遺跡の位置

第2章 開発に伴う試掘調査・史跡等における確認調査

2-1 金剛寺遺跡（第8地点）

所在地 水戸市開江町字寺山2113 外

開発面積 21,290.72 m²

調査期間 平成22年4月13日

調査面積 208.5 m²

調査原因 ドクターヘリ発着場建設

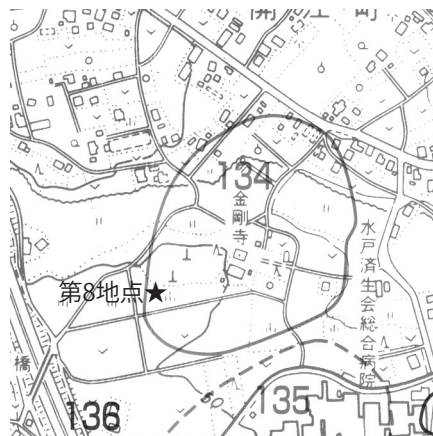
調査担当 川口武彦・田中恭子

調査方法 開発対象地のうち、通路部分にトレンチを2本設定し（第3図左）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

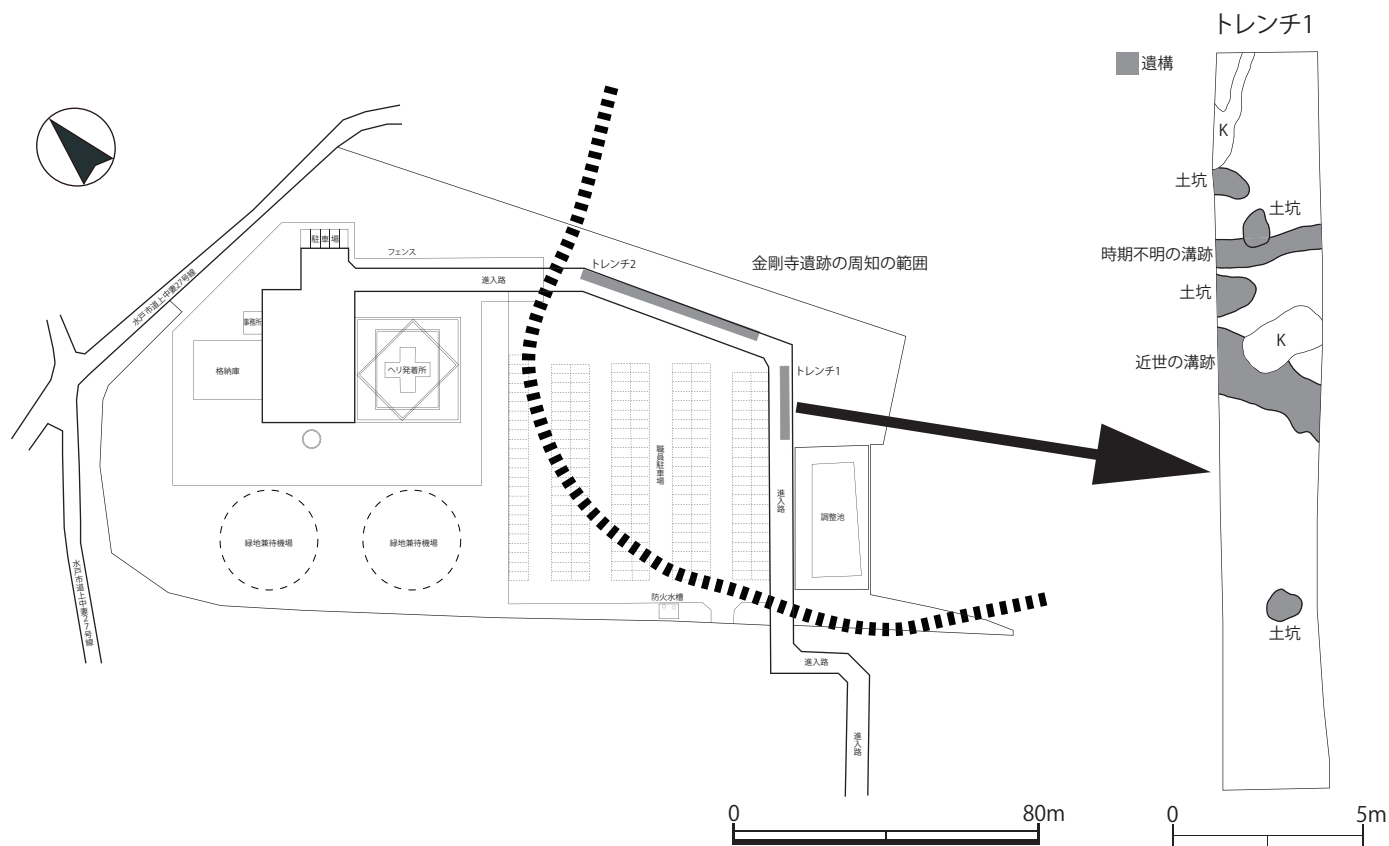
(1) トレンチの概要 トレンチ1 19.5m × 3.0m。地表下50～70cmの深さで関東ローム層上面が確認されるとともに、近世の溝跡1条、時期不明の溝跡1条、土坑4基が検出された（第3図右）。近世の溝跡からは土師質土器の播り鉢片が出土した。トレンチ2 50m × 3.0m。地表下40～90cmの深さで関東ローム層上面が確認されたが、遺構・遺物は確認されなかった。（川口）

(2) 出土遺物

第4図1はトレンチ1で検出された近世の溝跡より出土した土器である。櫛目が引いてあり、胴鉢形の器形を窺わせる。本遺構からはもう1点土器の小片が出土している。小片のため未掲載であり、器形も不明であるが、カワラケ片の可能性がある。いずれも丁寧な轆轤成形がなされており、近世以降の所産と見て良い。（川口・関口）



第2図 金剛寺遺跡（第8地点）の位置

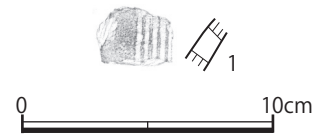


第3図 金剛寺遺跡（第8地点）のトレンチ配置

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

30cm以上の保護層が確保できものの、設計通りに施工されるかを
確認するため工事立会扱いとした。

(川口)



第4図 トレンチ1 近世溝跡出土遺物



写真1 トレンチ1 遺構検出状況 (北東から)

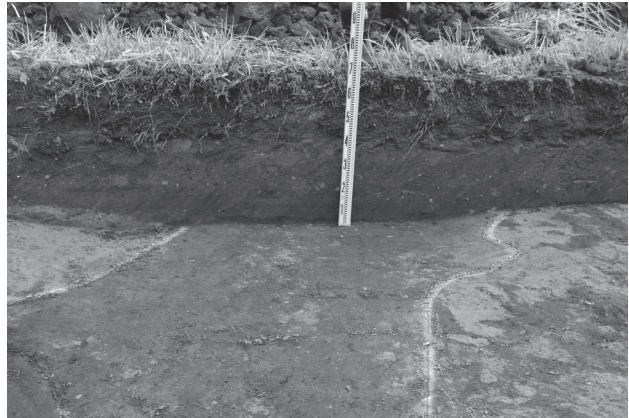


写真2 トレンチ1 溝跡検出深度 (北から)



写真3 トレンチ1 時期不明溝跡検出深度 (北西から)

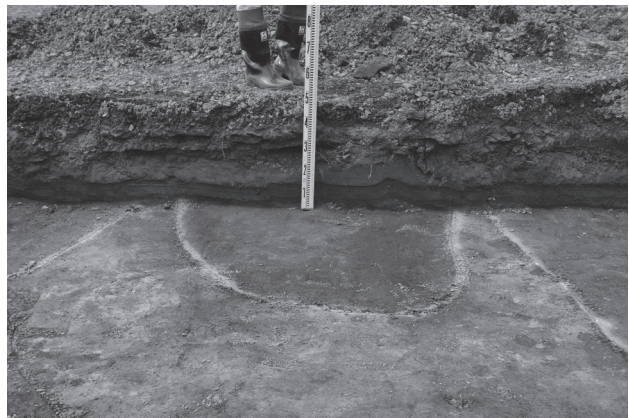


写真4 トレンチ1 時期不明土坑検出深度 (南東から)



写真5 トレンチ2 掘削状況 (北から)



写真6 トレンチ2 掘削状況 (南から)

2-2 沓掛遺跡 (第5地点)

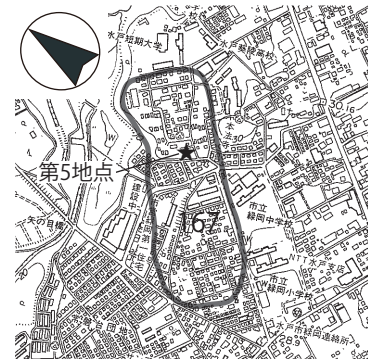
所在地 水戸市見川町 2570-2
 開発面積 1,120 m²
 調査期間 平成 22 年 4 月 16 日
 調査面積 33.92 m²
 調査原因 伐採・伐根
 調査担当 川口武彦

調査方法 開発対象地にトレンチを 4 本設定し (第 6 図), 重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

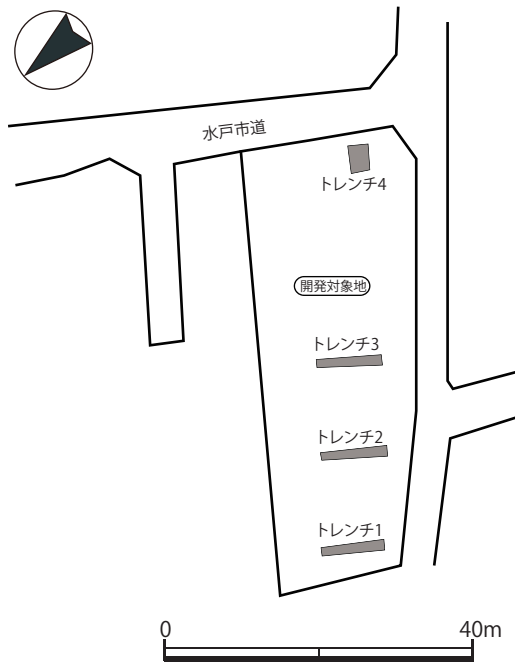
(1) トレンチの概要 トレンチ 1 8.0m × 1.0 m。地表下 40 ~ 80cm の深さで関東ローム層上面が確認されたが遺構・遺物は確認されなかった。トレンチ 2 8.4m × 1.0 m。地表下 40 ~ 70cm の深さで関東ローム層上面が確認されたが、遺構・遺物は確認されなかった。トレンチ 3 8.4m × 1.0 m。地表下 40cm の深さで関東ローム層上面が確認されたが、遺構・遺物は確認されなかった。トレンチ 4 3.8m × 2.4 m。地表下 70cm の深さで関東ローム層上面が確認されたが、遺構は確認されなかった。遺物は土師器環の口縁部片が表土から出土した。

(2) 出土遺物 トレンチ 4 より土師器環の口縁部片が出土したが、図化に耐える資料ではなかった。

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構は確認されなかったことから、慎重工事扱いとした。 (川口)



第 5 図 沓掛遺跡 (第 5 地点) の位置



第 6 図 沓掛遺跡 (第 5 地点) のトレンチ配置



写真 8 トレンチ 1 掘削状況 (南西から)



写真 9 トレンチ 2 掘削状況 (南西から)



写真 10 トレンチ 3 掘削状況 (南から)



写真 11 トレンチ 4 掘削状況 (北西から)

2-3 吉田古墳群（第9地点）

所在地 水戸市元吉田町 84-2, 84-9, 85-9

開発面積 330 m²

調査期間 平成 22 年 4 月 23 日

調査面積 18 m²

調査原因 個人住宅建築

調査担当 川口武彦

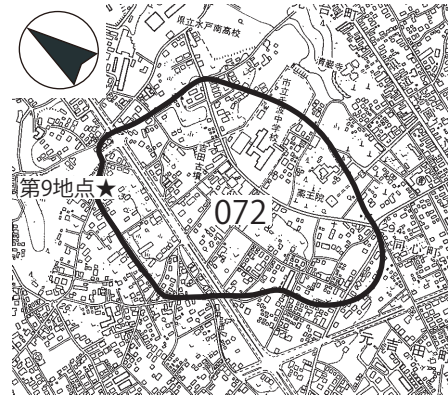
調査方法 開発対象地にトレンチを2本設定し（第8図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要 トレンチ1 6.0m×2.0m。地表下90～100cmの深さで関東ローム層上面が確認されたが遺構は確認されなかった。遺物は奈良・平安時代の須恵器片，中世の土師質土器皿の破片が各1点ずつ，表土から出土した。トレンチ2 6.0m×1.0m。地表下100～110cmの深さで関東ローム層上面が確認されたが，遺構は確認されなかった。遺物は奈良・平安時代の土師器・須恵器片が3点，表土から出土した。

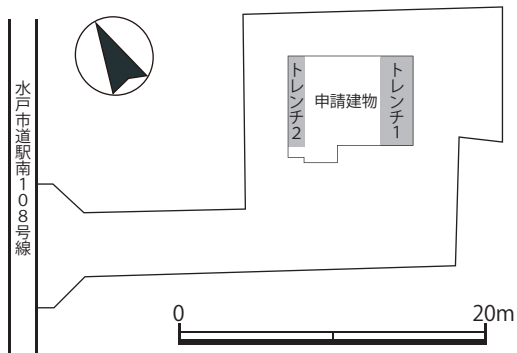
(2) 出土遺物 トレンチ1・2より出土した土器片はいずれも小片のため図化には至らなかった。

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構は確認されなかったことから慎重工事扱いとした。

（川口）



第7図 吉田古墳群（第9地点）の位置



第8図 吉田古墳群（第9地点）のトレンチ配置



写真12 トレンチ1掘削状況（北東から）



写真13 トレンチ1掘削深度（西から）



写真14 トレンチ2掘削状況（北東から）

2-4 吉田古墳群 (第10地点)

所在地 水戸市元吉田町字東組 706 番 1

開発面積 222.32 m²

調査期間 平成 22 年 5 月 14 日

調査面積 31.5 m²

調査原因 個人住宅建築

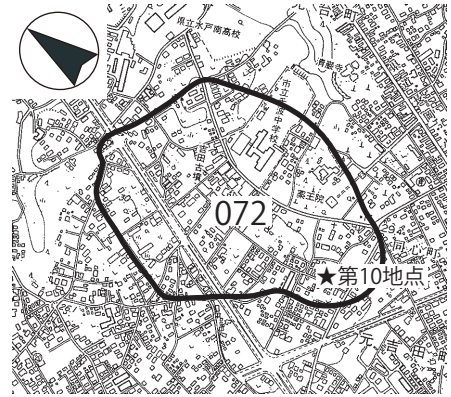
調査担当 川口武彦

調査方法 開発対象地のうち申請建物部分にトレンチを 2 本設定し (第 10 図)、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

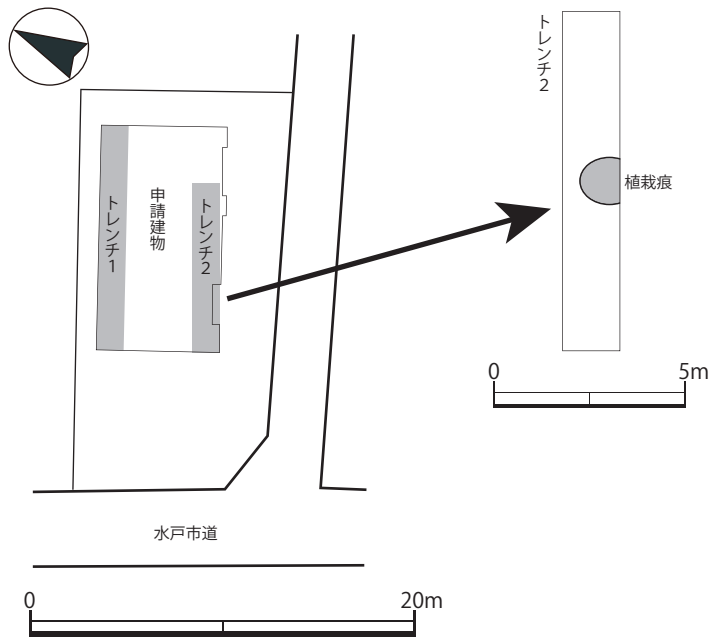
(1) トレンチの概要 トレンチ 1 12.0m × 1.5 m。地表下 70 ~ 80cm の深さで関東ローム層上面が確認されたが、遺構・遺物は無し。トレンチ 2 9.0m × 1.5 m。地表下 70 ~ 80cm の深さで関東ローム層上面が確認され、近世以降のものとみられる直径 1.1m 程の植栽痕が確認され、土師質土器が 1 点出土した。

(2) 出土遺物 トレンチ 2 より出土した土師質土器は小片のため図化には至らなかった。

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構は確認されなかったことから慎重工事扱いとした。 (川口)



第 9 図 吉田古墳群 (第 10 地点) の位置



第 10 図 吉田古墳群 (第 10 地点) のトレンチ配置



写真 15 トレンチ 1 掘削状況 (西から)



写真 16 トレンチ 2 掘削状況 (東から)

2-5 大井古墳群（第1地点第2次）

所在地 水戸市飯富町（市道飯富224号線）
 開発面積 140.4 m²
 調査期間 平成22年5月11日～5月12日
 調査面積 54.6 m²
 調査原因 側溝埋設
 調査担当 川口武彦

調査方法 開発対象地にトレンチを2本設定し（第12図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

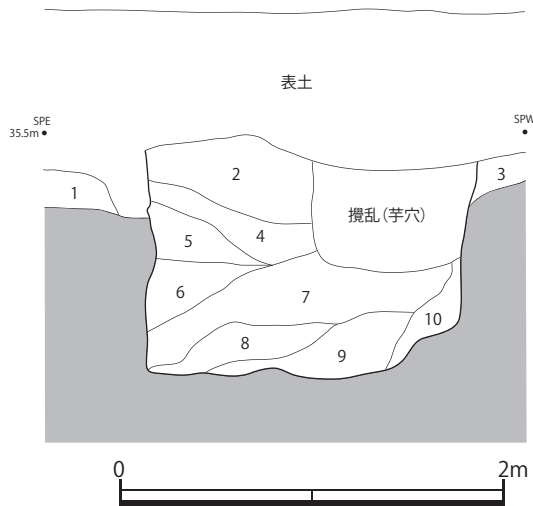
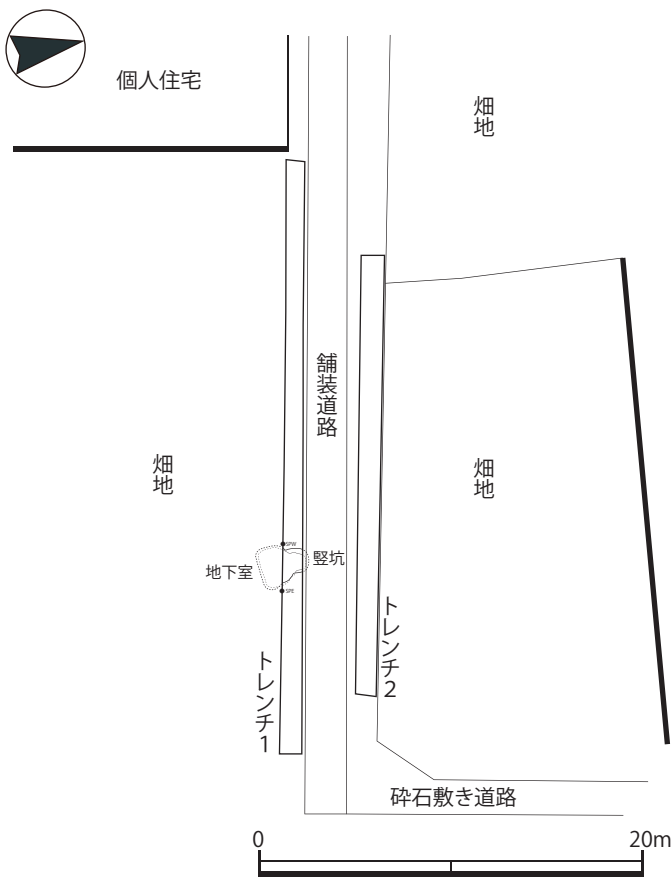
(1) トレンチの概要 トレンチ1 31.4m×1.0m。地表下90～100cmの深さで関東ローム層上面が確認されるとともに、中央から地下式坑とみられるプランが確認された（第12図）。部分的な確認であったため、遺構の全容については推測の域を出ないが、トレンチ内で確認されたのは竪坑部とみられ、直径1.4m前後と推定される。竪坑部の深さは、当時の地表面が現代の耕作により失われているため、完全な復元は出来ないが、土層の堆積状況から1.3m以上はあったものと推測される。地下室部については、天井部分が崩落しており（第12図）、室内の天井までの高さは不明である。遺物は竪坑部分の底面からほぼ完形の天目茶碗が1点出土するとともに、覆土中から縄文土器、弥生土器、奈良時代の丸瓦や土師器、中世の常滑焼等が出土した。

トレンチ2 23.2m×1.0m。地表下50～80cmの深さで関東ローム層上面が確認されたが、遺構は確認されなかった。遺物は縄文時代の磨製石斧、奈良・平安時代の土師器・須恵器片が耕作土中から出土した。

(2) 出土遺物 第13図1は早期後半の縄文土器深鉢である。2は弥生時代後期十王台式土器の壺形土器の頸部片である。風化しているが、櫛描波状文が認められる。3・4は土師器で、3は内面黒色処理の施された高台付皿、4



第11図 大井古墳群（第1地点第2次）の位置



表土	10YR3/2	黒褐	粘性弱	締まり弱	ローム粒1%
1層	10YR2/2	黒褐	粘性弱	締まり中	ローム粒10%
2層	10YR3/2	黒褐	粘性弱	締まり中	ロームブロック1%, ローム粒5%
3層	10YR2/2	黒褐	粘性弱	締まり強	ローム粒5%
4層	10YR2/1	黒	粘性弱	締まり弱	ローム粒10%
5層	10YR2/3	黒褐	粘性弱	締まり弱	ロームブロック10%, ローム粒20%
6層	10YR3/2	黒褐	粘性弱	締まり中	ロームブロック30%, ローム粒10%
7層	10YR2/1	黒	粘性弱	締まり中	ローム粒10%, 焼土粒1%
8層	10YR4/4	褐	粘性弱	締まり強	ロームブロック50% (天井崩落土)
9層	10YR2/2	黒褐	粘性弱	締まり中	ロームブロック20%, ローム粒5%, Ag-Kp粒1%
10層	10YR2/2	黒褐	粘性弱	締まり弱	ローム粒20%

第12図 大井古墳群（第1地点第2次）調査区の位置と地下式坑土層断面

は無台坏である。3は底部に回転糸切痕、4は回転ヘラ切り痕が残り、3は9世紀第4四半期、4は10世紀第1四半期頃の製品であろう。5は丸瓦の狭端部とみられる破片で、凸面には平行叩きの後ヘラズリが、凹面には布目圧痕が認められる。6は地下式土坑の竪坑部分の底面より出土した天目茶碗である。形状が大窯4期末頃（藤澤2005）のものに類似することから、15世紀末から16世紀初頭頃の製品と考えられる。天目茶碗は中世の富裕層等が使用する茶器であり、飯富の台地上には「大部平太郎屋敷跡」や「神生館跡」などの中世城館が確認されていることから、それらの城館跡に関連する遺構の可能性もある。7は竪坑上層より出土した常滑焼の甕の底部片で、6と同様に中世の遺物であろう。8はトレンチ2から出土した磨製石斧とみられる石器で転礫を素材とし、刃部左右の側縁に抉りが施されている。

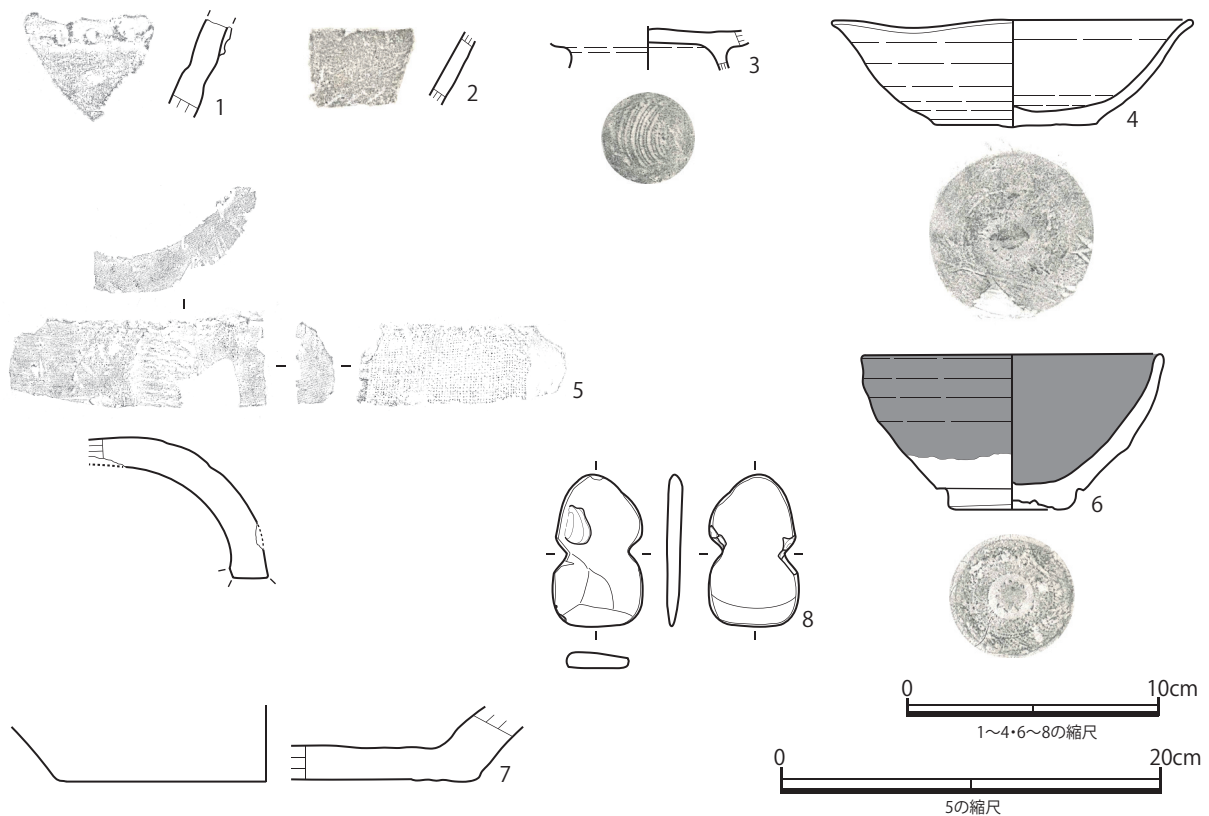
(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構・遺物が確認され、30cm以上の保護層を確保できるものの、設計通りに施工されるかを確認するため工事立会扱いとした。 (川口)



写真 17 トレンチ 1 掘削状況 (東から)



写真 18 地下式坑天目茶碗出土状況 (東から)



第 13 図 大井古墳群 (第 1 地点第 2 次) 出土遺物

2-6 渡里町遺跡 (第11地点)

所在地 水戸市渡里町 2819-4, -5

開発面積 671.81 m²

調査期間 平成 22 年 5 月 21 日

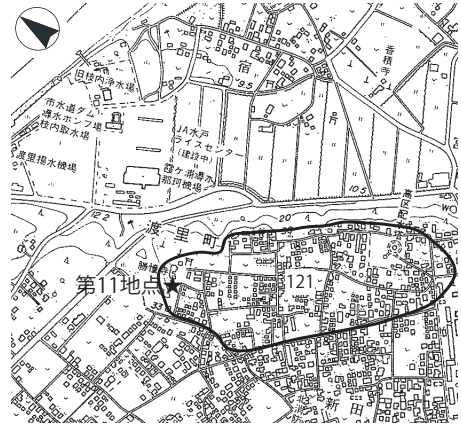
調査面積 50 m²

調査原因 共同住宅建築

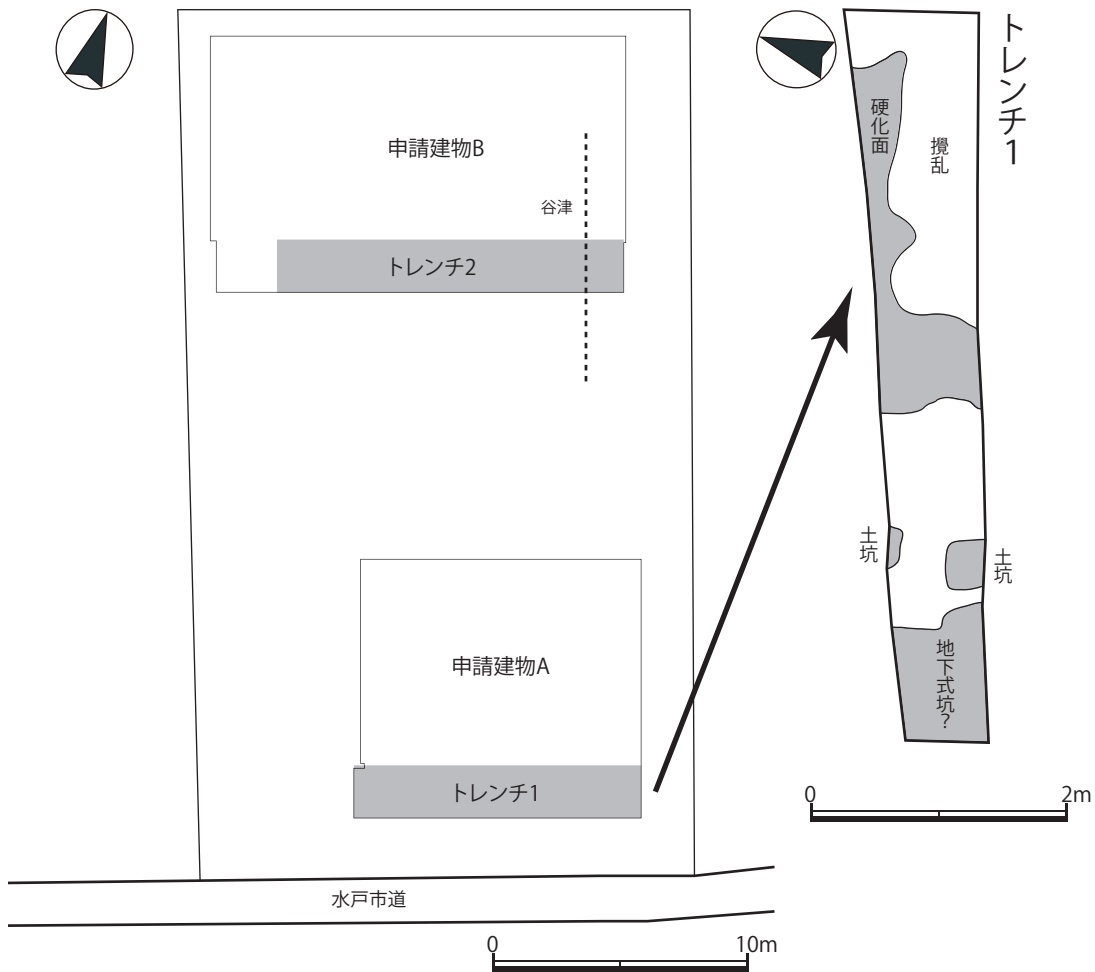
調査担当 川口武彦, 田中恭子

調査方法 開発対象地にトレンチを2本設定し(第15図), 重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要 トレンチ1 11.0m × 2.0m。地表下100～140cmの深さで関東ローム層上面が確認されるとともに, トレンチの東側から中央にかけて硬化面が確認された。確認面からは中世のものと思われる瓦質土器や近代の陶磁器類が出土したことから, 中世以降の道路に伴う硬化面の可能性がある。西側では土坑2基と地下式坑とみられるプランが1基確認された(第15図)。硬化面の検出深度は100～150cmで, 土坑2基と地下式坑とみられるプランの検出深度は130cm～140cmであった。トレンチ2 14.0m × 2.0m。東端では地表下80cmの深さで関東ローム層上面が確認されたが, トレンチの東端から西に3m付近からは自然の埋没谷が検出され, 最も深いところで, 関東ローム層上面の確認深度は2.5mであった。この谷部は現代の整地層で埋め戻されており, 埋め土の厚さは地表から1.2～1.3mであった。遺構は確認されなかったが, 埋め土と旧表土の境界付近から奈良・平安時代の瓦片や近代の磁器片などが数点出土



第14図 渡里町遺跡 (第11地点) の位置



第15図 渡里町遺跡 (第11地点) のトレンチ配置

した。

(2) 出土遺物 第16図1は奈良時代の平瓦である。凸面には正格子叩きが施されており、凹面には布目圧痕と被熱の痕跡が見られる。近隣に所在する台渡里廃寺跡の創建瓦が不要となったものを集落内の竪穴建物の竈の補強材などとして再利用したものであろうか。2は土師質土器の土鍋である。外面には細い工具で施した縦方向の条線がみられる。3・4は瓦質土器の火鉢とみられる破片で、同一個体とみられる。5～7は近代の磁器で、5が小碗、6は銅板印刷による染付碗、7は湯飲み碗であろうか。8・9は砥石で、8は片面の中央に稜を持つ船形のものであるのに対し、9は直方体状のものである。ただし、9は折損していることから、本来の形状は8と同様の形状であった可能性もある。

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構・遺物が確認され、30cm以上の保護層を確保できるものの、設計通りに施工されるかを確認するため工事立会扱いとした。(川口)



写真19 トレンチ1 遺構検出状況(東から)

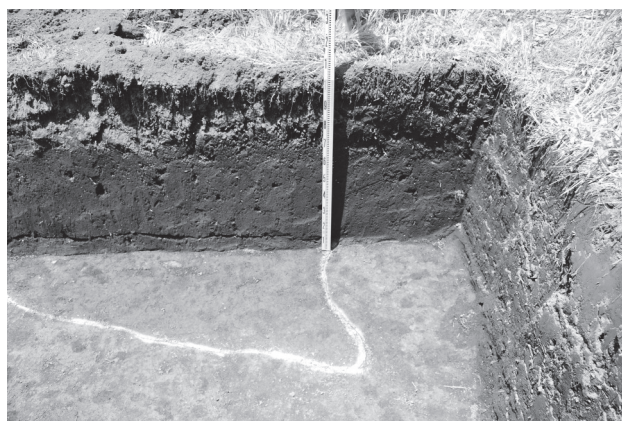


写真20 トレンチ1 硬化面検出深度(南から)

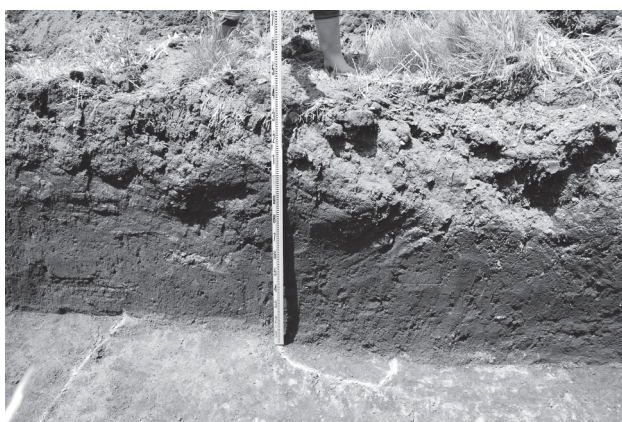


写真21 トレンチ1 土坑検出深度(南から)



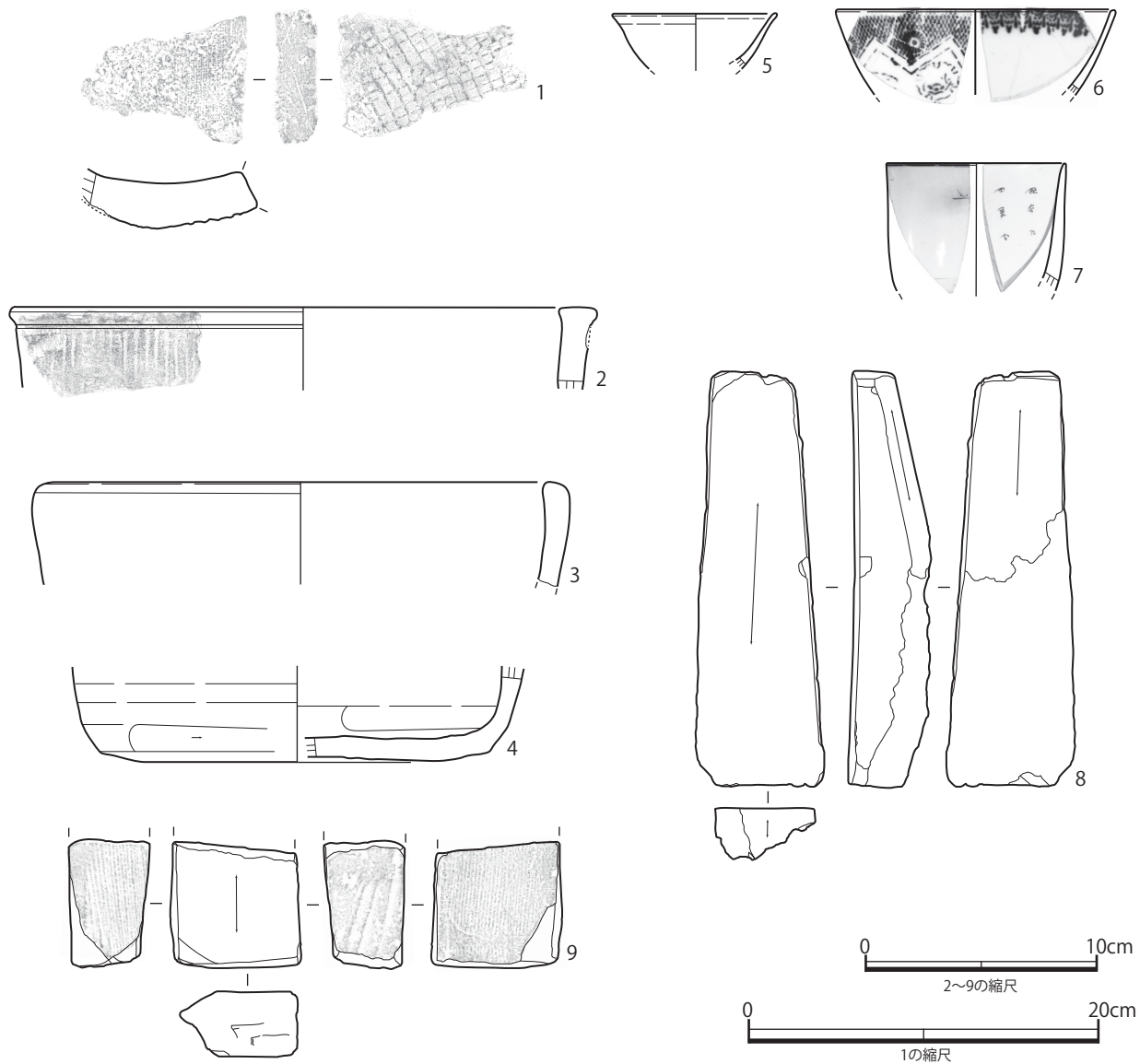
写真22 トレンチ1 土坑・地下式坑検出深度(北から)



写真23 トレンチ2 ローム層・谷検出状況(西から)



写真24 トレンチ2・ローム層検出深度(北から)



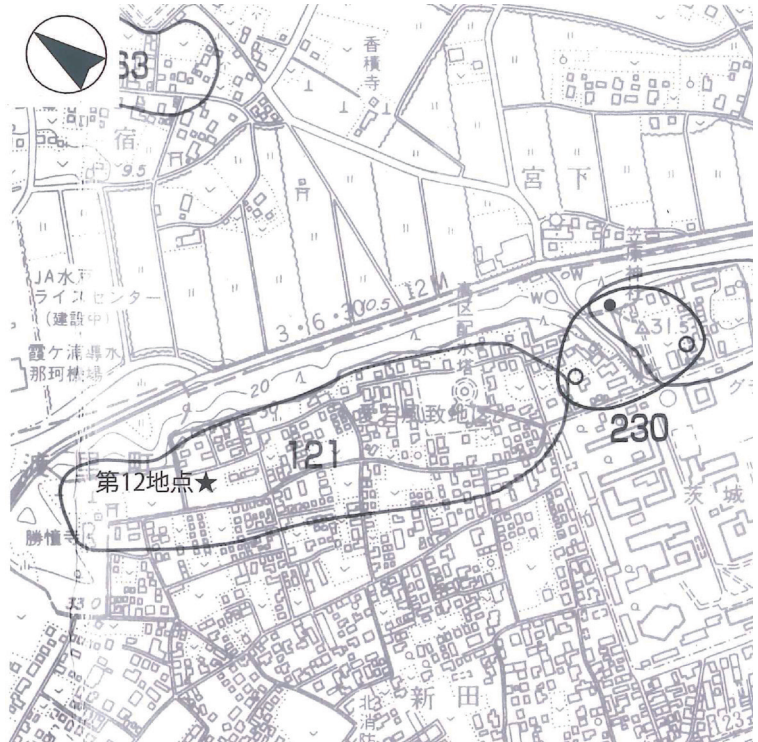
第16図 渡里町遺跡（第11地点）出土遺物

2-7 渡里町遺跡 (第12地点)

所在地 水戸市渡里町字八幡前 2593 番 1
 開発面積 1,929 m²
 調査期間 平成 22 年 8 月 3 日
 調査面積 72 m²
 調査原因 宅地造成
 調査担当 川口武彦

調査方法 開発対象地にトレンチを1本設定し(第18図)、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要 トレンチ 48.0m × 1.5m。地表下20~40cmの深さで関東ローム層上面が確認されるとともに、奈良・平安時代の竪穴建物跡6軒、時期不明の土坑1基、ピット2基が検出された。遺物は遺構確認面から奈良・平安時代の土師器・須恵器片が少量出土した。なお、トレンチの南側で検出された竪穴建物のうち、最も大型のものは主軸方位が他の竪穴建物と異なり、磁北ではなく北西方向に主軸が傾いている。台渡里官衙遺跡群では、北西方向に主軸が傾く竪穴建物は7世紀後半のものが



第17図 渡里町遺跡(第12地点)の位置



写真25 トレンチ竪穴建物跡群検出状況(北西から)



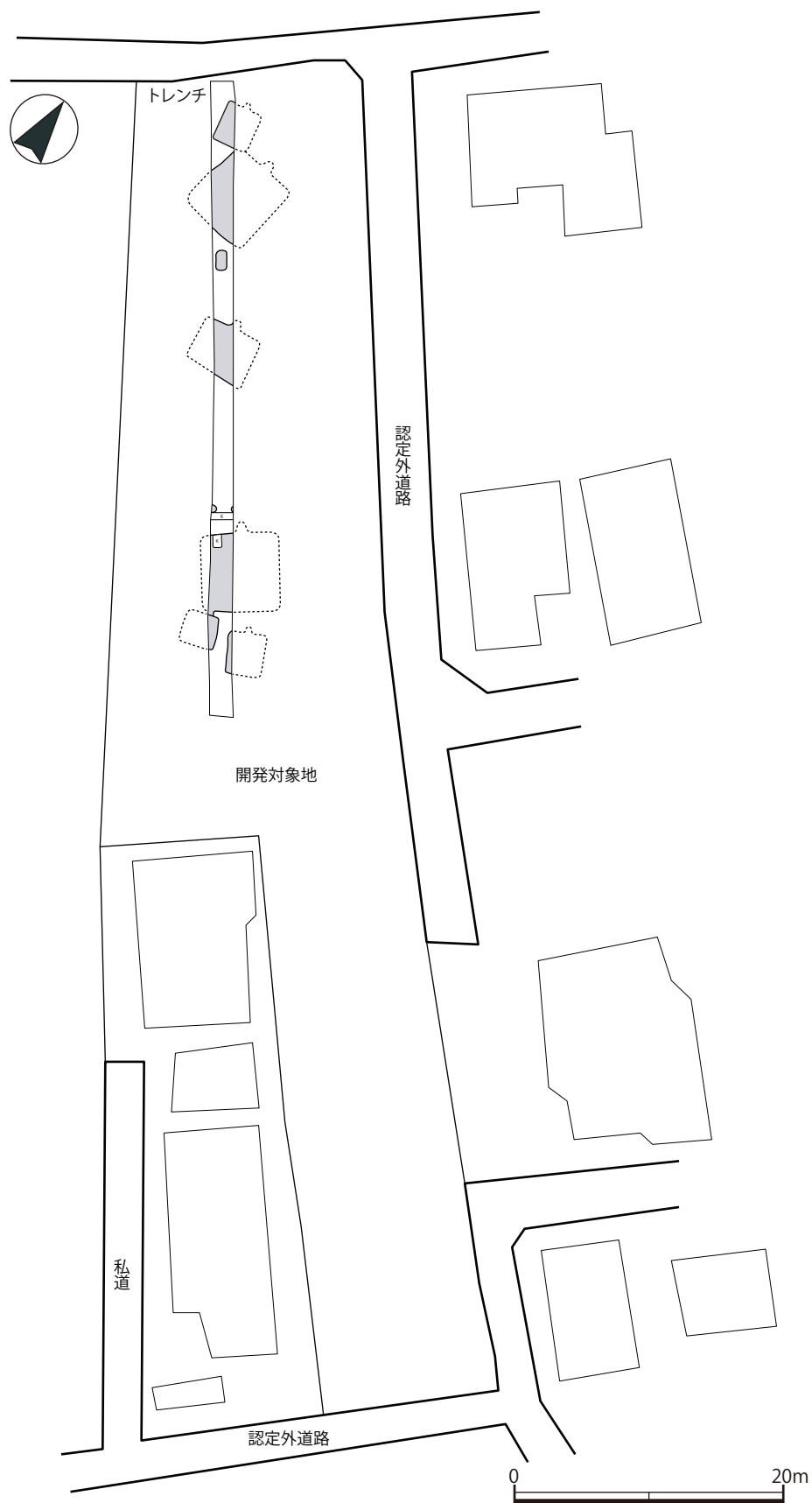
写真26 トレンチ1竪穴建物跡検出深度①(西から)



写真27 トレンチ1竪穴建物跡検出深度②(西から)



写真28 トレンチ1竪穴建物跡検出深度③(西から)

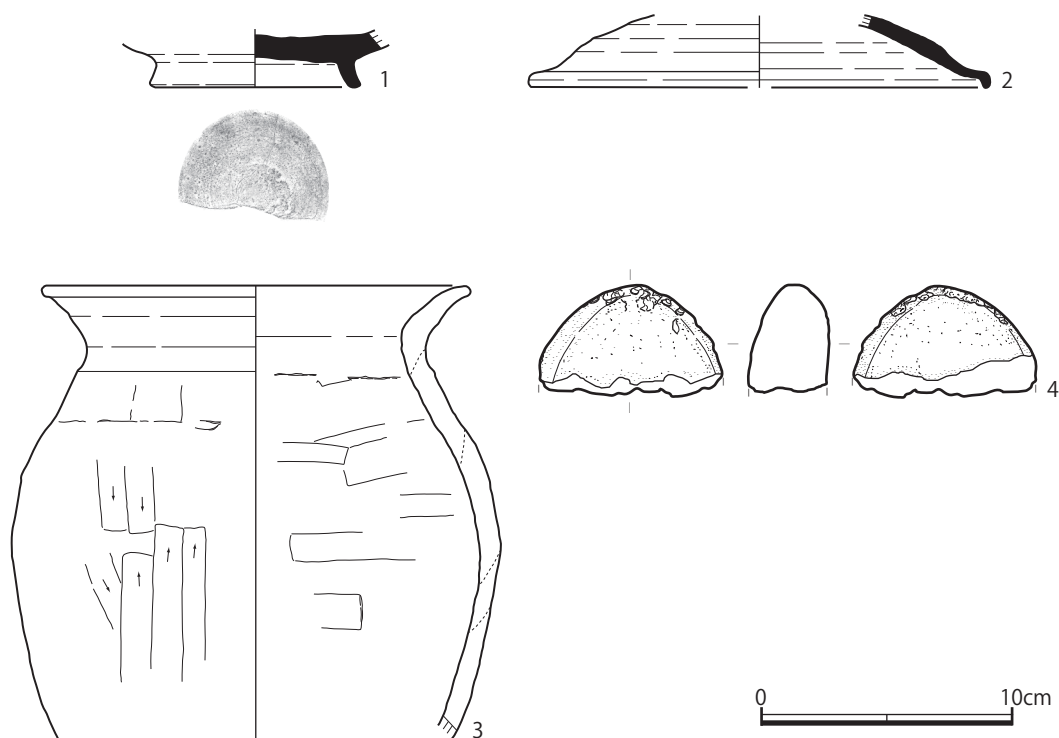


第 18 図 渡里町遺跡（第 12 地点）のトレンチ配置

多いことから、奈良時代以前の竪穴建物跡も含まれる可能性がある。

(2) 出土遺物 第19図1は、須恵器の有台坏である。胎土の特徴から、木葉下窯跡群の製品とみられる。2は須恵器の坏蓋である。摘み部を欠失しているが、端部は折り返しとなっており、器高が高い。8世紀前半に位置づけられる木葉下窯跡群 TE3 段階（734-741）に類例が認められることから、奈良時代前半の木葉下窯跡群の製品とみられる。3は土師器の甕である。口縁部は外反し、口唇部に緩やかな稜を持つ。頸部直下には1条の緩やかな稜を持ち、胴部は縦方向のヘラケズリが施されている。7世紀後半の製品であろうか。4は敲磨具である。表裏両面には摺り面を有し、上端には敲打痕が顕著に認められる。

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構・遺物が確認されたことから、事業者に対し宅地造成工事を行う際、遺構が保存できるように設計変更をする必要があること、発掘調査の実施が必要な場合には原因者負担による協力をお願いする事等を回答した。後日、93条の届出が事業者から提出され、遺構が検出された部分については、進入道路を敷設せず、盛土により保存されることになったため、設計通りに施工されるかを確認するため工事立会扱いとした。 (川口)



第19図 渡里町遺跡（第12地点）出土遺物

2-8 赤塚遺跡（第5地点第4次）

所在地 水戸市河和田3丁目2536

開発面積 4,342.82 m²

調査期間 平成22年10月54日

調査面積 72 m²

調査原因 市立河和田保育所建設

調査担当 米川暢敬・三浦健太

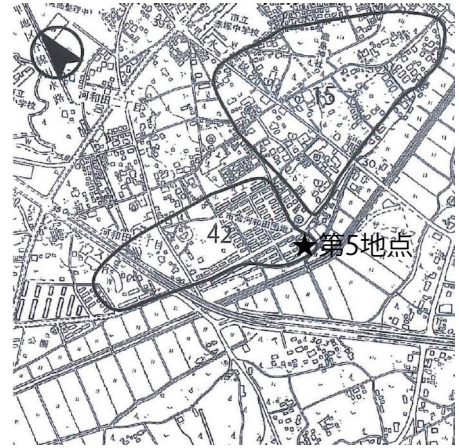
調査方法 開発対象地のうち、申請建物建築予定地直下にトレンチを設定し(第21図)、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要 トレンチ 10.0m × 2.0mで設定し、遺構の検出状況に合わせて拡張した。地表下70～90cmの深さで関東ローム層上面が検出され、精査の結果、トレンチ中央において井戸跡の可能性のある円形のプランが2基検出された。既往の試掘調査成果と併せて考えると、これらの遺構は中世に帰属するものと考えられる。

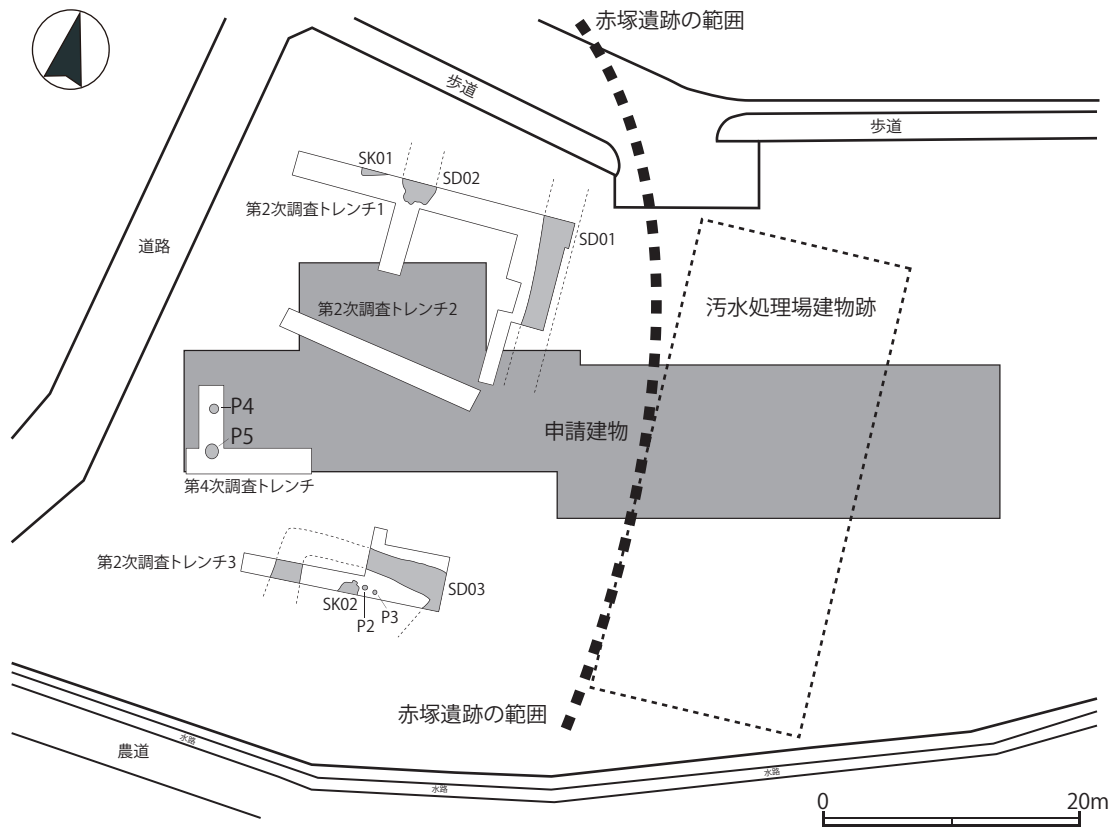
(2) 出土遺物 遺物は出土しなかった。

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構が確認されたことから、原因者に対し保育所建設工事を行う際、遺構が保存できるように設計変更をする必要があること、発掘調査の実施が必要な場合には原因者負担による協力をお願いする旨回答した。後日、94条の通知が原因者から提出され、業務委託による記録保存を目的とした本発掘調査を実施することになった。

(米川)



第20図 赤塚遺跡（第5地点第4次）の位置



第21図 赤塚遺跡（第5地点第4次）のトレンチ配置



写真 29 トレンチ全景 (西から)

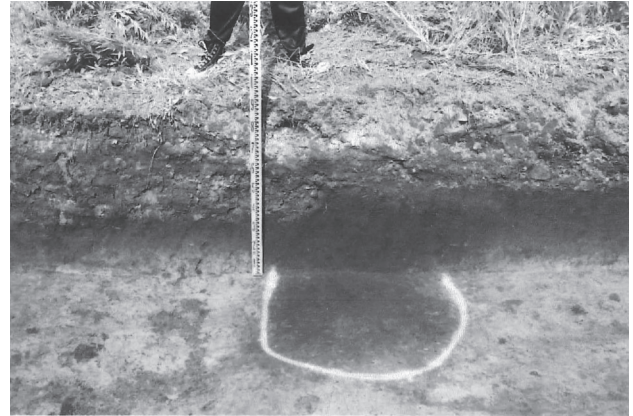


写真 30 P5 検出深度 (南から)



写真 31 トレンチ拡張区全景状況 (南から)



写真 32 トレンチ拡張区確認面深度 (南から)

2-9 赤塚遺跡 (第6地点)

所在地 水戸市河和田3丁目2324-1, -2, -3の一部, -8, -9, 2325-1の一部, -5の一部, 2327-1の一部

開発面積 2,930 m²

調査期間 平成22年5月27日

調査面積 34 m²

調査原因 宅地造成

調査担当 川口武彦, 田中恭子

調査方法 開発対象地内のうち, 進入路部分および宅地部分にトレンチを3本設定し(第23図), 重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要 トレンチ1 10.0m × 2.0m。地表下40～60cmの深さで関東ローム層上面が確認され, 100cmの深さで近世・近代の遺物と炭化材を含む廃棄土坑が確認された。遺物は廃棄土坑より陶器, 磁器, 瓦質土器, 土師質土器, 瓦, 鉄製品, 牡蠣殻等が多数出土した。トレンチ2 5.0m × 2.0m。地表下50～60cmの深さで関東ローム層上面が確認されたが, 遺構は確認されなかった。遺物は近世の磁器片3点が出土した。

トレンチ3 2.0m × 2.0m。地表下100～110cmの深さで関東ローム層上面が確認されたが, 遺構は確認されなかった。遺物は犬形土製品, 近世瓦, 陶器, 瓦質土器が出土した。

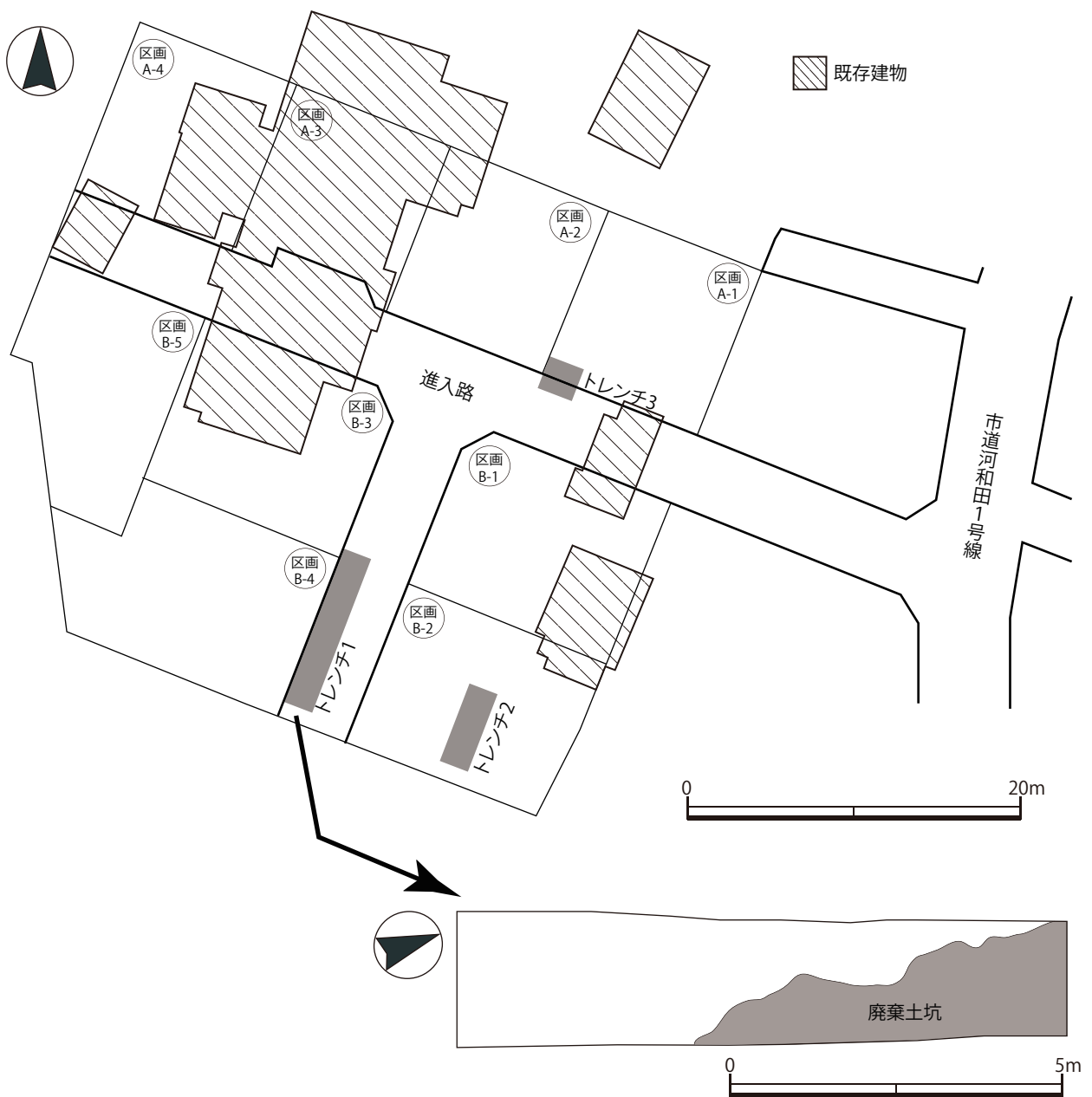
(2) 出土遺物 第24図1は磁器端反碗である。2は磁器小丸碗である。松の木と馬2頭が染め坏で描かれている。3は磁器仏飯器である。脚部を欠失しているが, 体部外面に染め付けによる菊花文が描かれている。4は土製品で, ミニチュア土瓶(飯事道具)である。口縁部直下に櫛歯状工具による横方向のカキ目を施し, その下に幅広の2条



第22図 赤塚遺跡(第6地点)の位置

の沈線が引かれ、さらに下には沈線によるジグザグと円弧による幾何学文が施されている。底部付近には足が貼り付けられている。5は陶器の片口鉢、6は甕である。7は犬形土製品である。頭部を欠失しているが、片側に耳部が残存している。8は軒棧瓦である。瓦当面の軒丸瓦部は欠失しているが、平瓦部の一部が残っている。19世紀前半頃の製品であろう。写真36は、トレンチ1の廃棄土坑より層状にまとまって検出された牡蠣殻である。本地点は、江戸時代後期寛政年間に創業した司命堂薬局に隣接しており、現代でも生薬の材料として牡蠣殻を焼成・粉碎した粉を用いた「竜骨牡蠣湯」等の商品が販売されている。このように土地の歴史的背景を踏まえれば、牡蠣殻は食用ではなく製薬との関わりで理解するのが穏当であろう。廃棄土坑には牡蠣殻の他にも炭化材が含まれており、当時の建造物が火災を被った可能性もある。(川口・関口)

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 近世の遺構・遺物が確認されたものの、近世に属するものであるため、工事立会扱いとした。(川口)



第23図 赤塚遺跡（第6地点）のトレンチ配置と廃棄土坑の検出位置



写真 33 トレンチ 1 廃棄土坑検出状況 (南から)

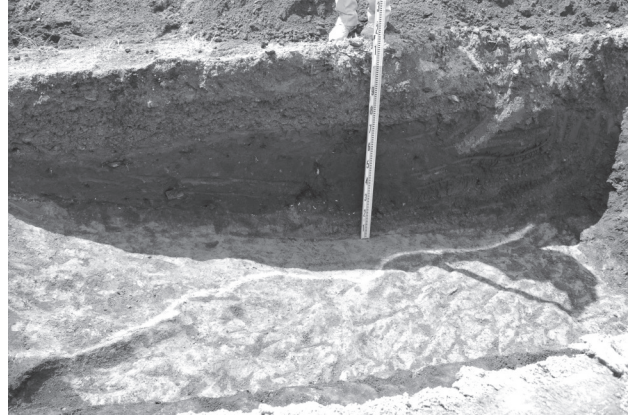


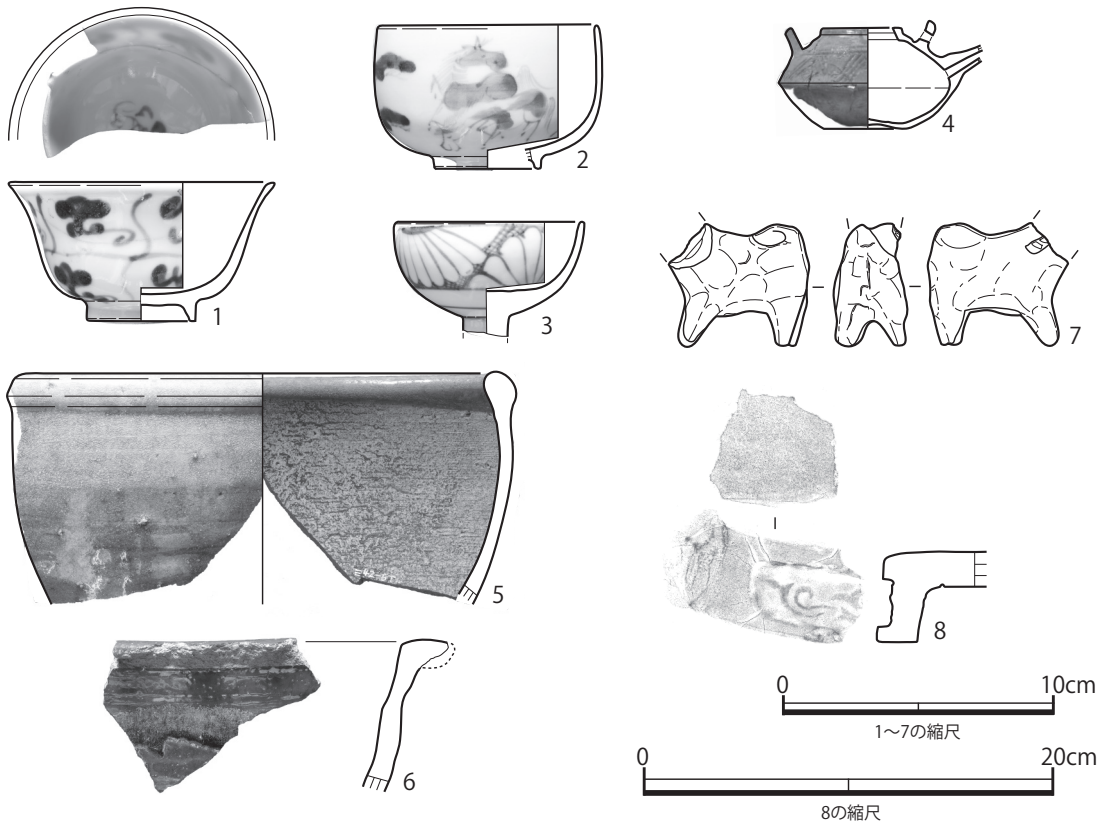
写真 34 トレンチ 1 廃棄土坑検出深度 (南東から)



写真 35 トレンチ 2 掘削状況 (北東から)



写真 36 トレンチ 1 廃棄土坑出土牡蠣殻



第 24 図 赤塚遺跡 (第 6 地点) 出土遺物

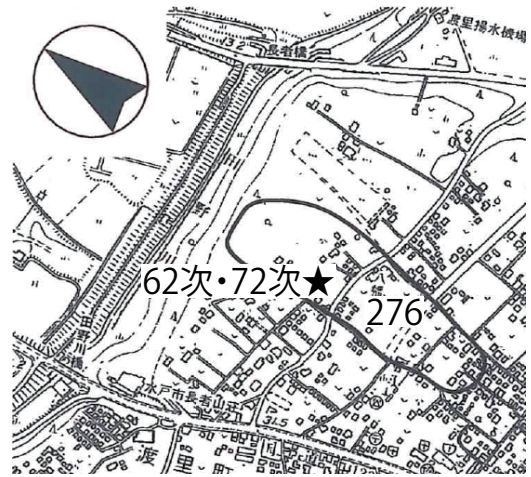
2-10 台渡里官衙遺跡（台渡里第62次・第72次）

所在地 水戸市渡里町字アラヤ 3057-2
 開発面積 1402.25 m²
 調査期間 平成22年6月1日（第62次）
 平成22年6月13日（第72次）
 調査面積 69.08 m²
 調査原因 個人住宅建替
 調査担当 川口武彦，金子千秋

調査方法 開発対象地にトレンチを4本設定し（第26図），重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。トレンチ1・2は第62次調査，トレンチ3・4は第72次調査で設定した。

(1) トレンチの概要 トレンチ1 7.0m × 1.0m。地表下50～80cmの深さで関東ローム層上面が確認され，那賀郡衙正倉院の内側区画溝（SD01）の南半部が検出された。遺物はSD01

の上面から奈良・平安時代の平瓦片1点，表土から近現代の陶器片1点，ガラス製薬瓶1点が出土した。トレンチ2 4.0m × 2.0m + 2.0m × 2.0m。地表下70cmの深さで関東ローム層上面が確認されるとともに，那賀郡衙正倉院の外側区画溝（SD02）の南半部とそれと切り合う竪穴建物跡とみられるプラン（SI01）1軒，掘立柱建物跡の柱穴1基が検出された。正倉院の外側区画溝（SD02）と切り合う竪穴建物跡とみられるプラン（SI01）の主軸は北西方向に傾いており，台渡里官衙遺跡群周辺においては，7世紀第4四半期の竪穴建物跡はいずれも真北ではなく北西に主軸を傾ける斜め方位を採用する傾向がみられることから，SI01の年代は7世紀第4四半期の遺構と理解できる。遺物は奈良・平安時代の土師器・須恵器片が数点出土した。トレンチ3 16.6m × 1.6m + 拡張区 11.52 m²。トレンチ1で検出された，那賀郡衙正倉院の内側区画溝（SD01）の南半部の延長を確認するため設定



第25図 台渡里官衙遺跡（台渡里第62次・第72次）の位置



写真37 トレンチ1 正倉院内側区画溝検出状況（南から）



写真38 トレンチ1 正倉院内側区画溝検出深度（北東から）

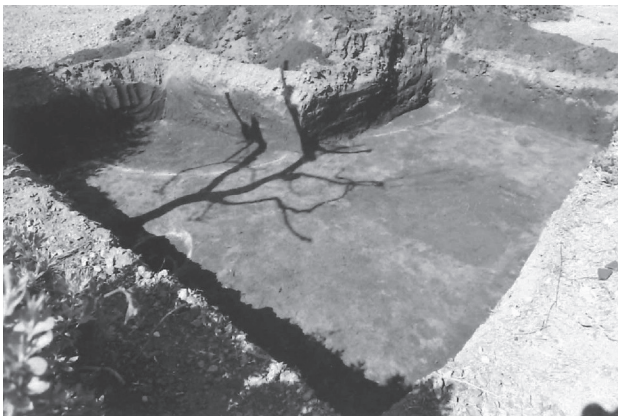
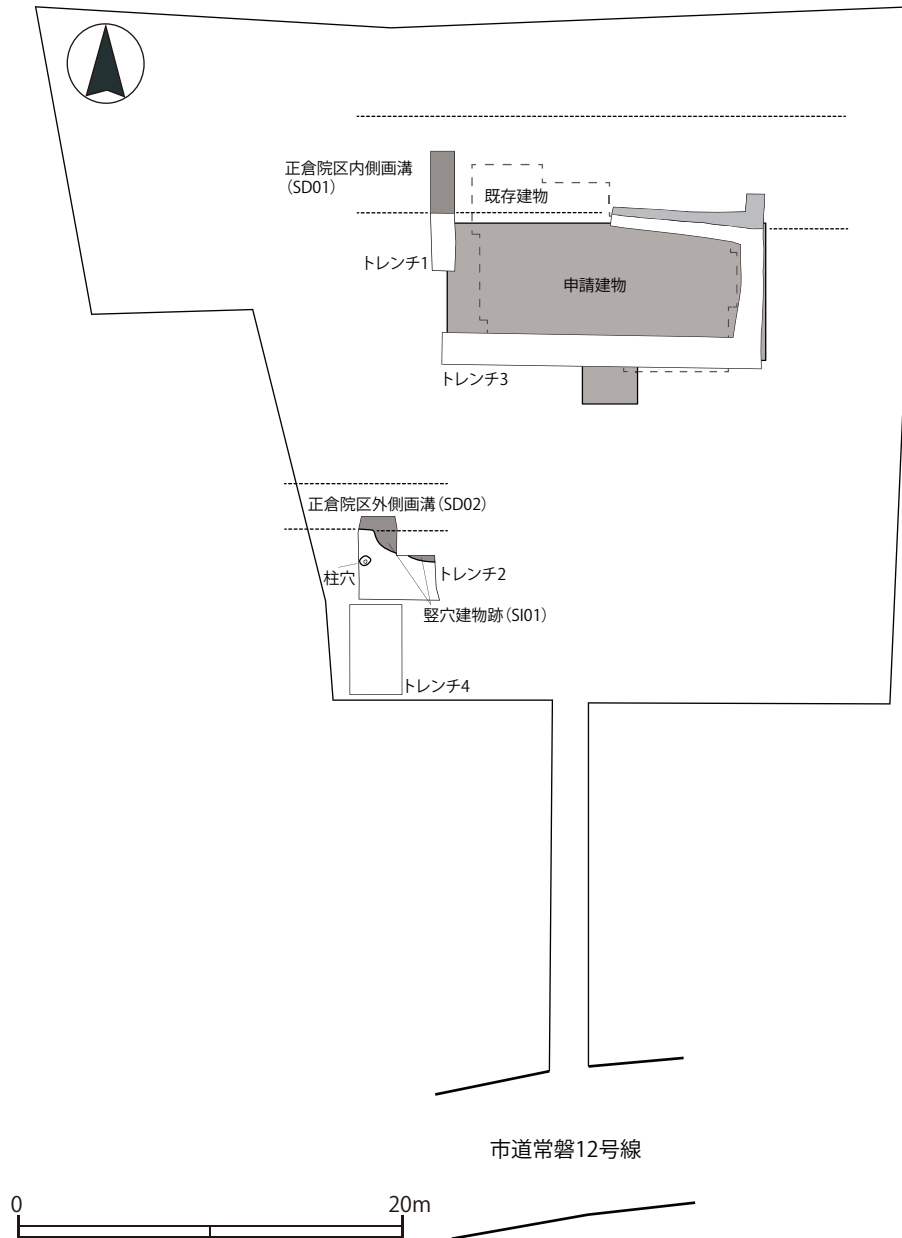


写真39 トレンチ2 正倉院外側区画溝・竪穴建物跡検出状況（南西から）



写真40 トレンチ2 正倉院外側区画溝検出深度（南から）



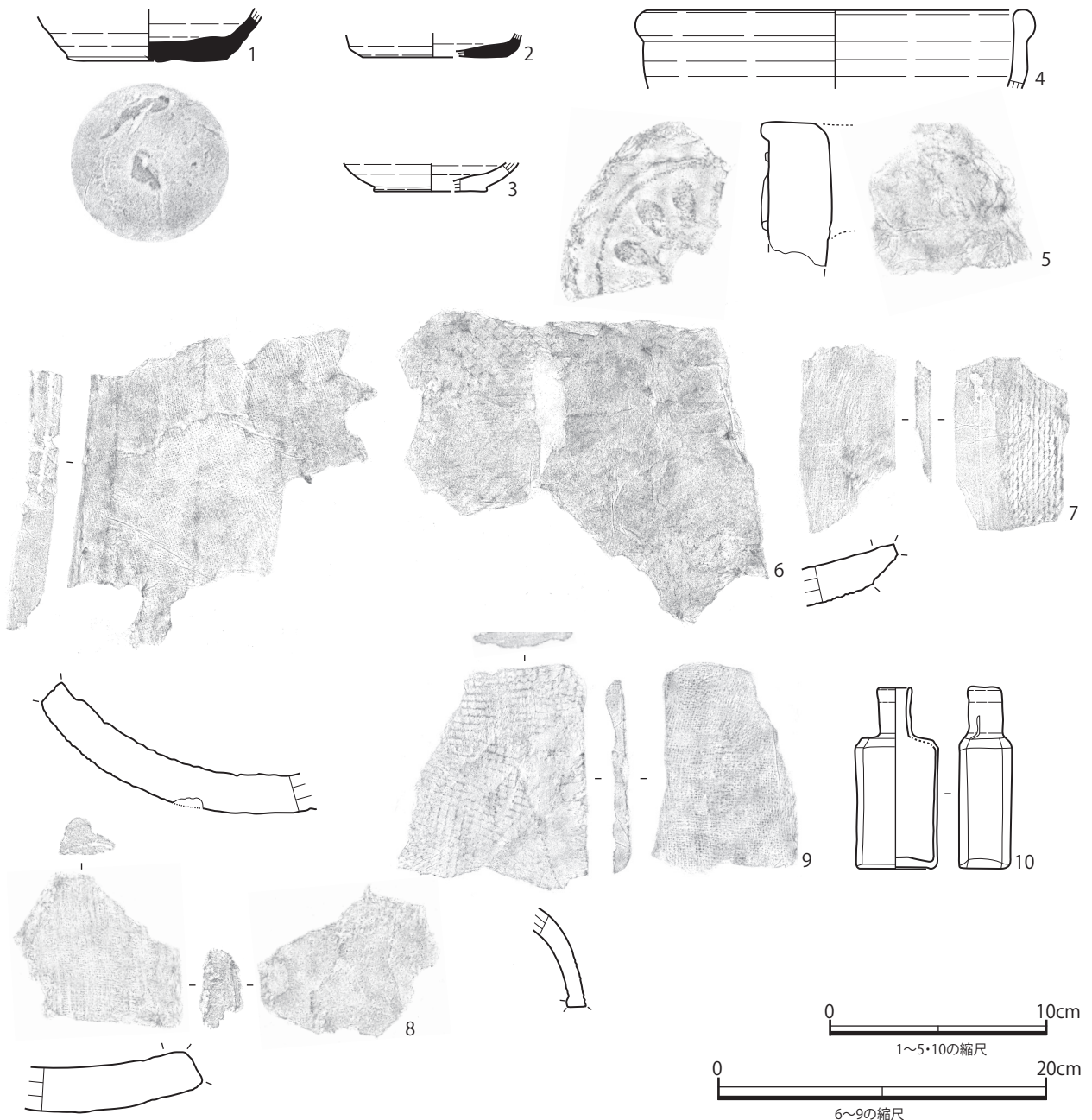
第 26 図 台渡里官衙遺跡（台渡里第 62 次・第 72 次）トレンチ配置図

した。地表下 50～80cm の深さで関東ローム層上面が確認され、那賀郡衙正倉院の内側区画溝 (SD01) の南半部がトレンチの北側で部分的に検出された。トレンチ 4 4.0m × 3.0m。トレンチ 2 で那賀郡衙正倉院の外側区画溝 (SD02) の南半部が確認されたため、浄化槽の埋設可能な位置を確認するため設定した。地表下 70cm の深さで関東ローム層上面が確認されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

(2) 出土遺物 第 27 図 1 はトレンチ 1 で検出された正倉院内側区画溝 (SD01) の覆土より出土した須恵器無台坏である。胎土にチャート礫が含まれることから、木葉下窯跡群の製品と考えられる。底部は未調整で口径に比して底径が小さいと考えられることから、9 世紀第 2 四半期～第 3 四半期くらいの製品とみられる。2 はトレンチ 2 より出土した須恵器無台坏である。胎土・焼成・色調などから 1 と同様に木葉下窯跡群の製品と考えられ、二次底部面を持つことから 8 世紀第 3 四半期～第 4 四半期頃の製品とみられる。3 はトレンチ 1 で検出された正倉院内側区画溝 (SD01) の覆土より出土した土師質土器小皿の底部片である。中世の遺物と考えられ埋没時期を示す遺物と考えることができる。4 は陶器の鉢もしくは片口鉢の口縁部片である。近世の遺物であろう。5 は 3113 型式軒丸瓦である。中房部を欠失しているが、完形品から円形の中心蓮子 1+ 円形の周縁蓮子 4 の組み合わせとなり、

花卉は剣先状を呈する 12 弁の蓮華文を構成する。6 は平瓦である。凸面は正格子叩きを施した後、ナデ消されており、凹面には布目圧痕と枳板圧痕が残ることから桶巻き作りによる製品とみられる。7 は平瓦である。凸面には長縄叩き痕、凹面には布目圧痕が残り、側面の断面形状と凸面の長縄叩きの痕跡から一枚作りによる製品とみられる。8 はトレンチ 1 で検出された正倉院内側区画溝 (SD01) の覆土から出土した平瓦である。凸面には縄叩きを施した後、丁寧にヘラケズリで消されており、凹面には布目圧痕が残る。枳板圧痕が観察されないことから一枚作りによる製品とみられる。9 はトレンチ 1 で検出された正倉院内側区画溝 (SD01) の覆土から出土した丸瓦である。無段式とみられ、凸面には正格子叩きが、凹面には布目圧痕が残されている。10 はトレンチ 1 から出土したガラス瓶である。気泡を多数含むことから近代の製品とみられる。

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 国指定史跡「台渡里官衙遺跡群 台渡里官衙遺跡・台渡里廃寺跡」に係る遺構が部分的に確認されたため、事業者と設計変更の協議を行い、遺構に影響が及ばない工法が採用されることとなった。設計通りに施工されるかを確認するため工事立会扱いとした。(川口)



第 27 図 台渡里官衙遺跡 (台渡里第 62 次・第 72 次) 出土遺物

2-11 台渡里官衙遺跡（台渡里第63次）

所在地 水戸市渡里町字前原 2865 番地

開発面積 1,765.84 m²

調査期間 平成 22 年 6 月 9 日

調査面積 59.1 m²

調査原因 宅地造成

調査担当 川口武彦

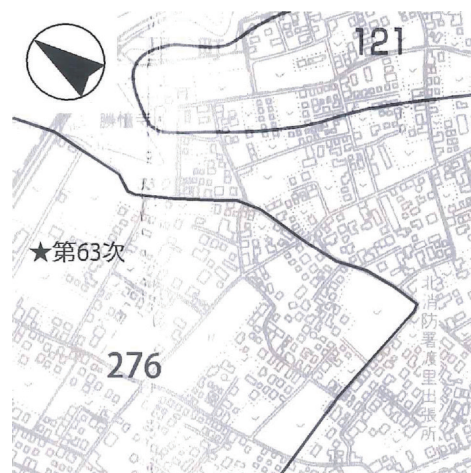
調査方法 開発対象地のうち位置指定道路部分及び私道部分にトレンチを 2 本設定し（第 29 図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要 トレンチ 1 31.0m × 1.5m。地表下 130 ~ 170cm の深さで関東ローム層上面が確認され、北西方向に主軸を傾ける 4.4m 四方の竪穴建物跡とみられるプランが 1 軒確認された。遺物は土師器・須恵器片が少量出土した。トレンチ 2 8.4m × 1.5m。地表下 200cm の深さで関東ローム層上面が確認されるとともに、北西方向に主軸を傾ける 4.4m 四方の竪穴建物跡とみられるプランが 1 軒確認された。遺物は土師器・須恵器片が少量出土した。

(2) 出土遺物 いずれも小片のため、図化に耐えうる資料はなかった。

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 位置指定道路部分で見つかった竪穴建物跡については、記録保存を目的とした本発掘調査、位置指定道路部分に面する給排水管理設部分については工事立会、それ以外の範囲については慎重工事が相当であるとした。本発掘調査は、平成 22 年 7 月 21 日から 23 日の期間に実施し、『台渡里 4 一宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—（台渡里第 64 次）—』（水戸市埋蔵文化財調査報告第 38 集）として、2011 年 1 月に刊行している（川口・色川編 2011b）。

（川口）



第 28 図 台渡里官衙遺跡（台渡里第 63 次）の位置



写真 41 トレンチ 1 竪穴建物跡検出状況（北から）



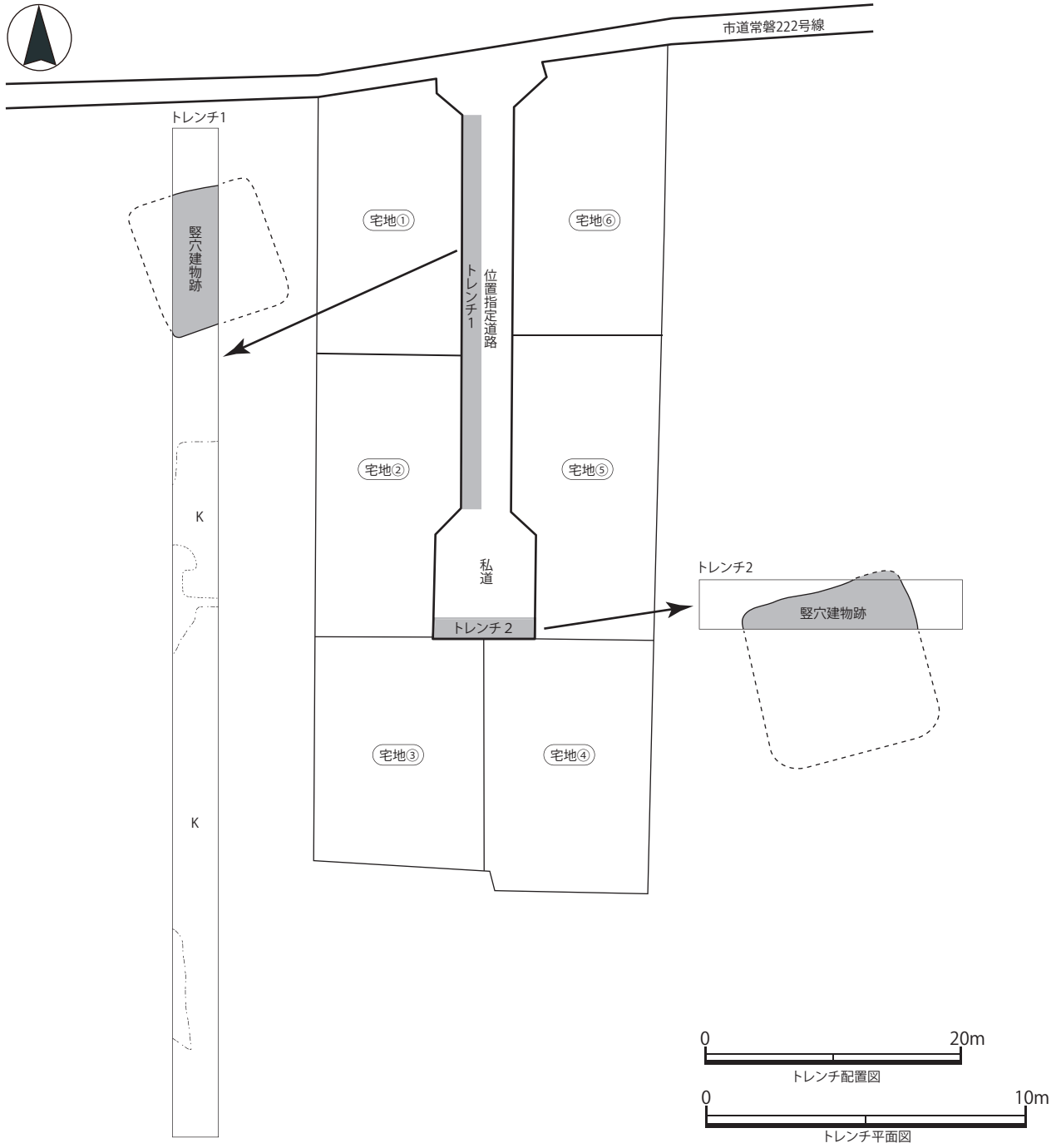
写真 42 トレンチ 1 竪穴建物跡検出深度（西から）



写真 43 トレンチ 2 竪穴建物跡検出状況（東から）



写真 44 トレンチ 2 竪穴建物跡検出深度（南から）



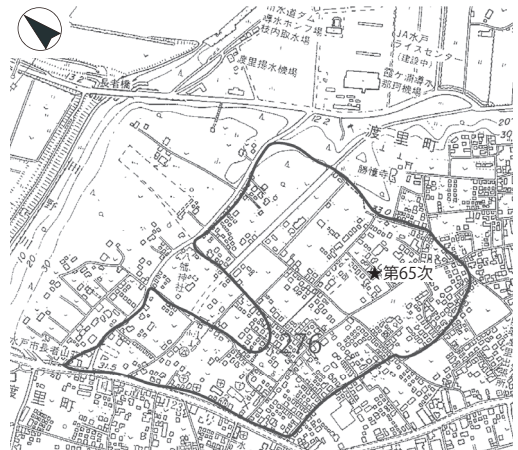
第 29 図 台渡里官衙遺跡（台渡里第 63 次）のトレンチ配置

2-12 台渡里官衙遺跡（台渡里第65次）

所在地 水戸市渡里町 2835-2, 2835-11, 2835-12 番地
 開発面積 167.04 m²
 調査期間 平成 22 年 8 月 10 日
 調査面積 14.0 m²
 調査原因 駐車場造成
 調査担当 川口武彦

調査方法 開発対象地内にトレンチを 1 本設定し（第 31 図）、
 重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレン
 チの詳細は下記のとおりである。

- (1) トレンチの概要 トレンチ 14.0m × 1.0m。地表下 90cm
 の深さで関東ローム層上面が確認されたが、遺構は確認されな
 かった。遺物は土師器・須恵器片が少量出土した。
- (2) 出土遺物 奈良・平安時代の土師器・須恵器片が 2 点出土
 したが、いずれも小片のため、図化に耐えうる資料はなかった。
- (3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構が確認されなかったことから、慎重工事扱いとした。（川口）



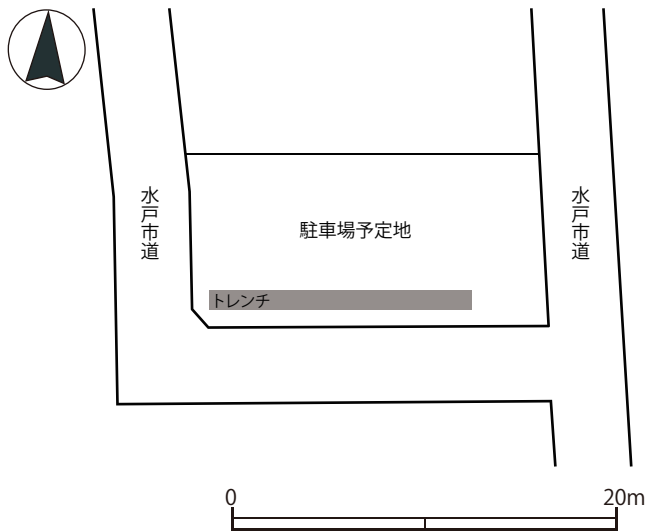
第 30 図 台渡里官衙遺跡（台渡里第 65 次）の位置



写真 45 トレンチ掘削状況（西から）



写真 46 関東ローム層検出深度（南東から）



第 31 図 台渡里官衙遺跡（台渡里第 65 次）のトレンチ配置

2-13 台渡里官衙遺跡（台渡里第66次）

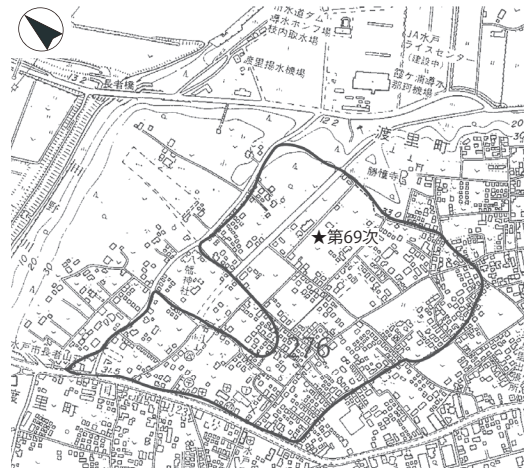
所在地 水戸市渡里町字前原 2865-6 番地
 開発面積 238.99 m²
 調査期間 平成 22 年 8 月 20 日
 調査面積 18.0 m²
 調査原因 個人住宅建築
 調査担当 川口武彦，色川順子

調査方法 開発対象地のうち申請建物部分にトレンチを2本設定し（第33図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

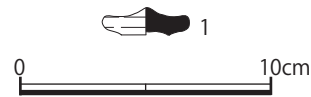
(1) トレンチの概要 トレンチ1 8.0m × 1.5m。地表下190cmの深さで関東ローム層上面が確認されたが、遺構は確認されなかった。遺物は土師器・須恵器片が少量出土した。トレンチ2 4.0m × 1.5m。地表下130～200cmの深さで関東ローム層上面が確認されるとともに、北西方向に主軸を傾ける竪穴建物跡とみられるプランが1軒確認された。遺物は土師器・須恵器片が少量出土した。

(2) 出土遺物 第34図1はトレンチ2より出土した木葉下窯跡群とみられる産須恵器坏蓋の摘みみ部である。佐々木分類（佐々木 1995）の擬扁平宝珠状紐に該当し、8世紀前半頃の製品とみられる。

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い トレンチ2で見つかった竪穴建物跡については、柱状改良により保護できないことから記録保存を目的とした本発掘調査扱いとした。本発掘調査の内容については、本書「3-3 台渡里官衙遺跡（台渡里第69次）」に記載の通りである。（川口）



第32図 台渡里官衙遺跡（台渡里第66次）の位置



第34図 台渡里官衙遺跡（台渡里第66次）出土遺物



写真47 トレンチ1掘削状況（東から）



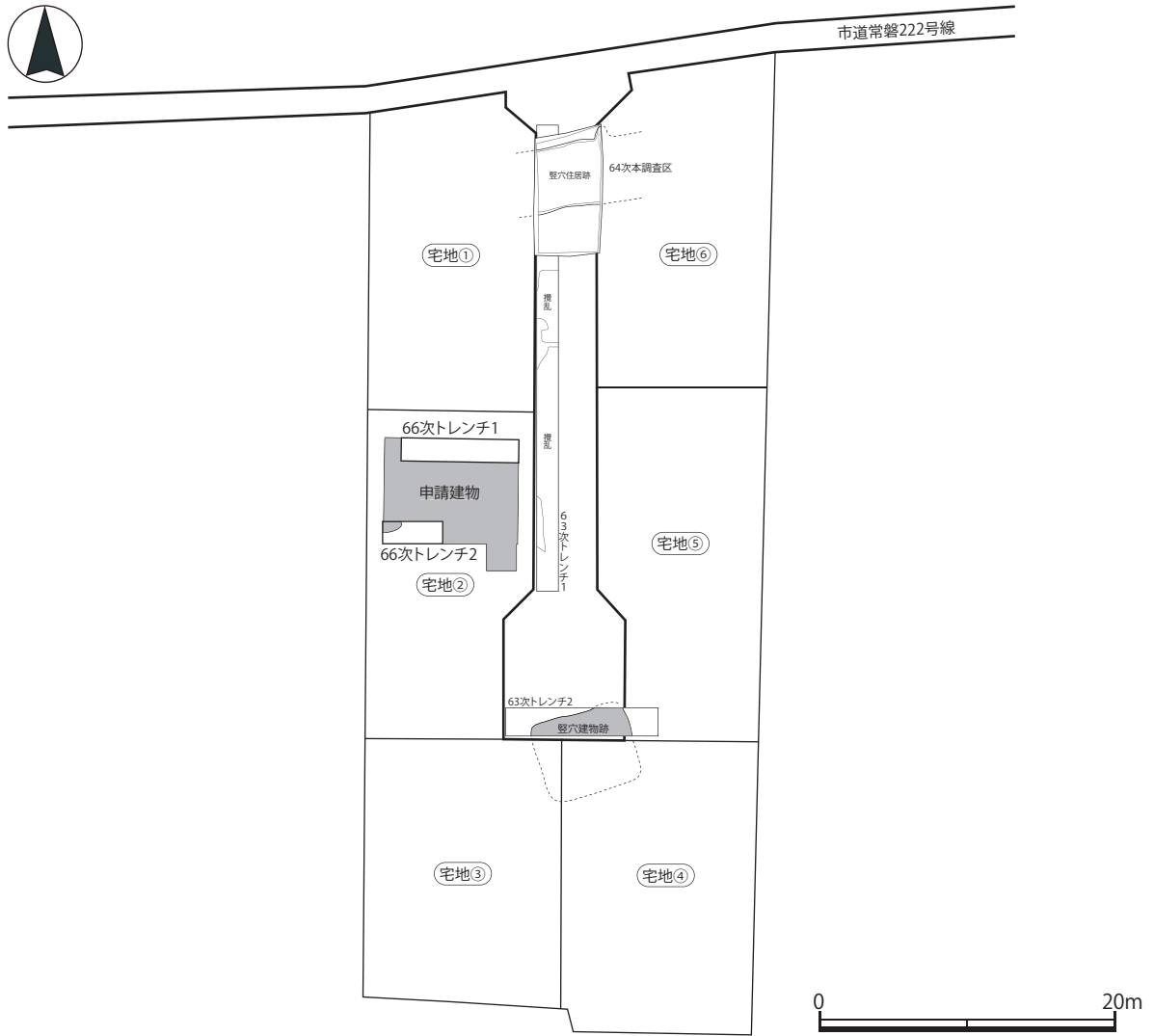
写真48 トレンチ1 関東ローム層検出深度（南から）



写真49 トレンチ2 竪穴建物跡検出状況（東から）



写真50 トレンチ2 竪穴建物跡検出深度（南から）



第 33 図 台渡里官衙遺跡（台渡里第 66 次）のトレンチ配置

2-14 台渡里官衙遺跡（台渡里第67次）

所在地 水戸市渡里町字前原 2865 番地

開発面積 270.27 m²

調査期間 平成 22 年 8 月 20 日

調査面積 13.8 m²

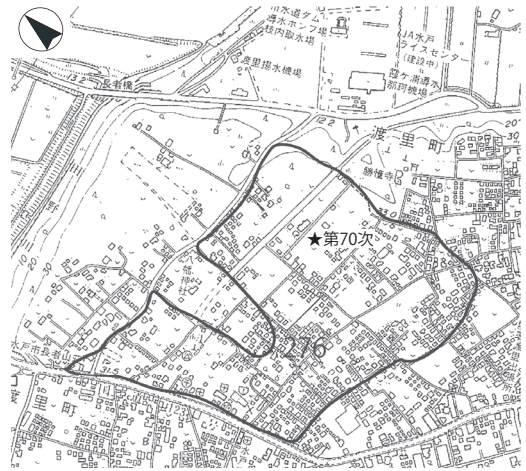
調査原因 個人住宅建築

調査担当 川口武彦，色川順子

調査方法 開発対象地のうち申請建物部分にトレンチを 1 本設定し（第 36 図），重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要 トレンチ 1 9.2m × 1.5m。地表下 180 ～ 200cm の深さで関東ローム層上面が確認されるとともに，人為的に埋め戻されたとみられるロームブロックやローム粒を多量に含む東西方向の溝跡が 1 条確認された。遺物は縄文土器・土師器・須恵器片が少量出土した。

(2) 出土遺物 第 37 図 1 はトレンチ 1 から出土した縄文土器の深鉢形土器の破片である。上部に無文帯を持ち，中央部に横走る隆帯が 1 条貼り付けられている。隆帯の下半には単節 LR 縄文を縦方向に回転施文している。中期後半の加曾利 E4 式である。第 37 図 2 はトレンチ 1 から出土した須恵器坏蓋の小片である。端部はやや外反し，内側に隆帯を貼り付けることにより「かえり」を作り出している。胎土に雲母を多量に含むことから新治窯跡群産の製品とみられ，内面に「かえり」を有すること，小型であることから，年代については 7 世紀第 4 四半期と考えられる。第 37 図 3 は須恵器の円面碗の脚部片である。ロクロ水挽整形により，中央に横走る隆帯を作り出し，その上に 0.7 ～ 1.0cm の間隔で幅 1mm ほどの縦方向の切り込みを連続的に施している。焼成はやや軟質ではあるが，胎土は緻密で灰白色を呈しており，在地の山田窯跡群や木葉下窯跡群の製品とは明らかに異なる。地域外から



第 35 図 台渡里官衙遺跡（台渡里第 67 次）の位置



写真 51 トレンチ 1 溝跡検出状況（東から）



写真 52 トレンチ 1 溝跡検出状況（西から）



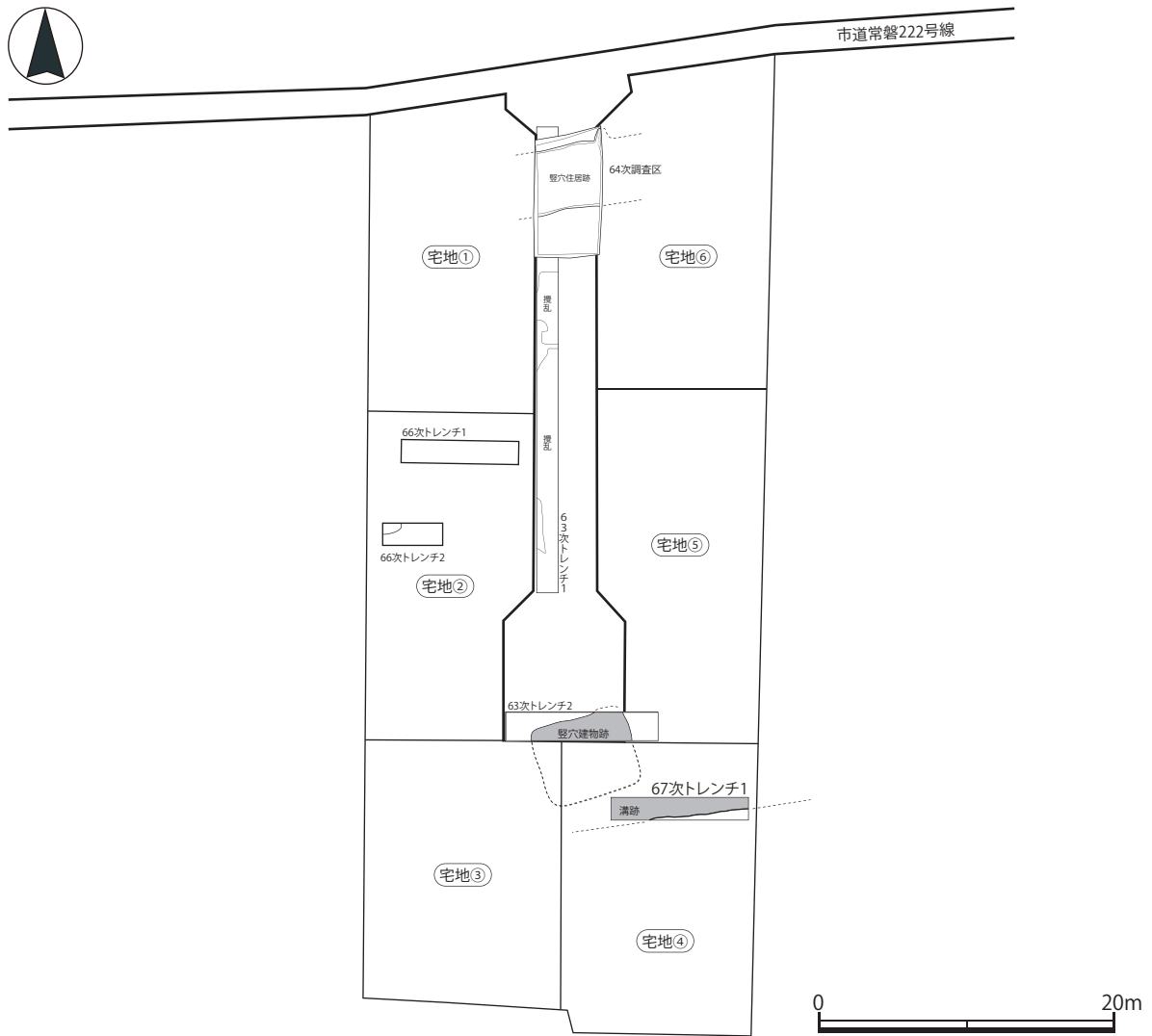
写真 53 トレンチ 1 溝跡検出深度（南西から）



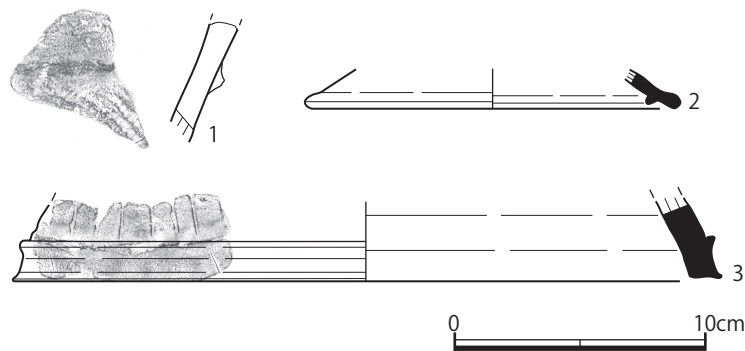
写真 54 トレンチ 1 溝跡検出深度（北東から）

もたらされた搬入品であろうか。

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い トレンチ1で見つかった溝跡については、柱状改良により保護できないことから記録保存を目的とした本発掘調査扱いとした。本発掘調査の内容については、本書「3-4 台渡里官衙遺跡（台渡里第70次）」に記載の通りである。 (川口)



第36図 台渡里官衙遺跡（台渡里第67次）のトレンチ配置



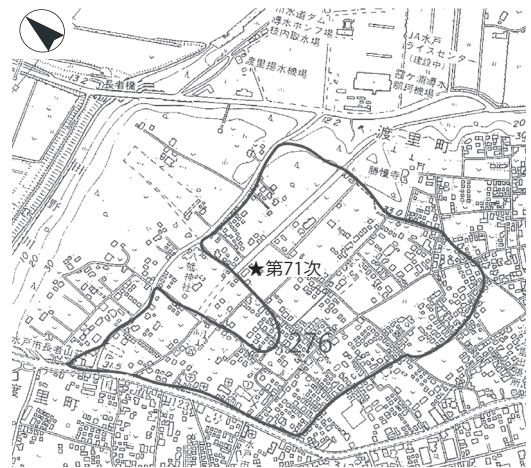
第37図 台渡里官衙遺跡（台渡里第67次）出土遺物

2-15 台渡里官衙遺跡（台渡里第71次）

所在地 水戸市渡里町字前原 2880-1, 2877-3, 2879-2, 2881-2の一部
 開発面積 615.44 m²
 調査期間 平成 22 年 9 月 21 日
 調査面積 3.75 m²
 調査原因 物置及びカーポート建築
 調査担当 川口武彦

調査方法 開発対象地のうち、カーポート建築部分にトレンチを1本設定し（第39図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

- (1) トレンチの概要 トレンチ1 2.5m × 1.5m。地表下60cmの深さで関東ローム層上面が確認されたが、遺構は確認されなかった。遺物は表土中より土師器片が出土した。
- (2) 出土遺物 第40図1は土師器の高台付椀である。内外面にはロクロ水挽整形痕がみられるが、内面に黒色処理は施されていない。10世紀前半頃の遺物であろう。
- (3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構が確認されなかったことから、慎重工事扱いとした。（川口）



第38図 台渡里官衙遺跡（台渡里第71次）の位置

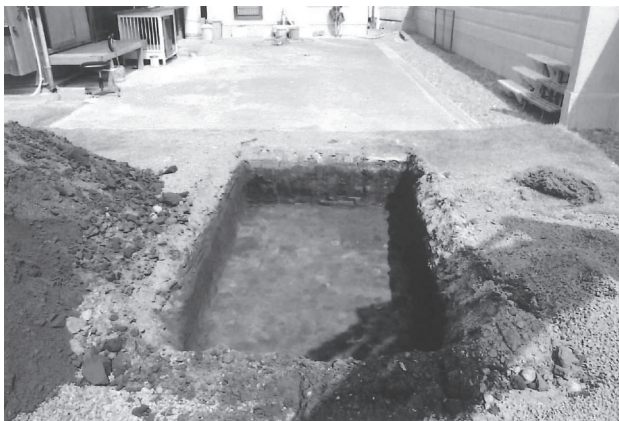
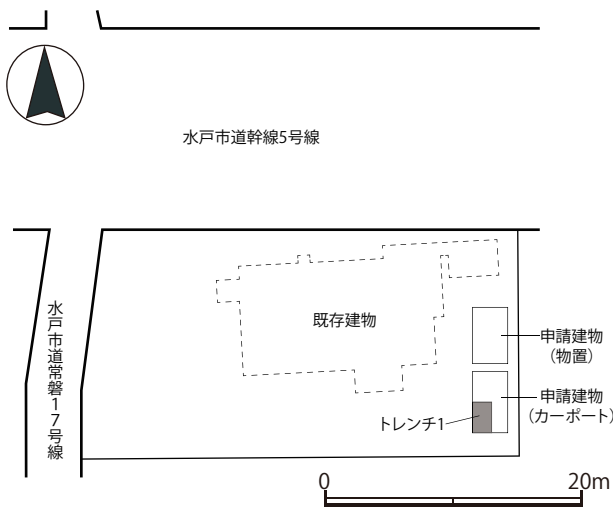


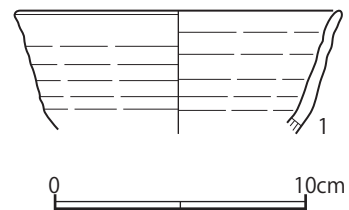
写真55 トレンチ1掘削状況（南から）



写真56 トレンチ1掘削深度（南東から）



第39図 台渡里官衙遺跡（台渡里第71次）のトレンチ配置



第40図 台渡里官衙遺跡（台渡里第71次）出土遺物

2-16 台渡里官衙遺跡（台渡里第74次）

所在地 水戸市渡里町字前原 2867 番地

開発面積 938.5 m²

調査期間 平成 22 年 11 月 30 日

調査面積 27.0 m²

調査原因 宅地造成

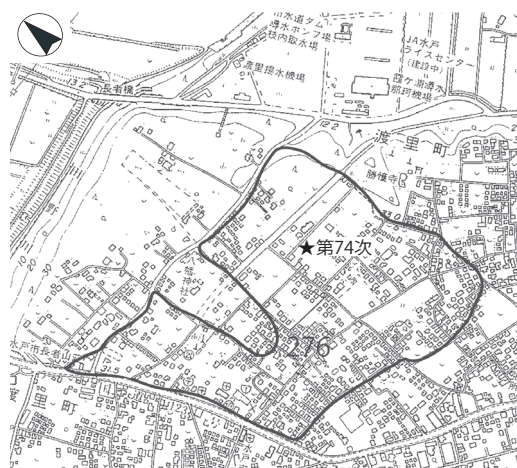
調査担当 川口武彦

調査方法 開発対象地のうち、位置指定道路部分にトレンチを 4 本設定し（第 42 図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要 トレンチ 1 2.5m × 1.5m。地表下 110cm の深さで関東ローム層上面が確認されるとともに掘立柱建物跡を構成する柱穴 1 基が確認された。遺物は遺構確認面より土師器片が少量出土した。トレンチ 2 3.0m × 2.0m。地表下 130cm の深さで関東ローム層上面が確認されるとともに東壁

に竈を有する竪穴建物跡 1 軒が確認された。遺物は遺構確認面より土師器片や須恵器片が少量出土した。トレンチ 3 5.0m × 1.5m。地表下 170cm の深さで関東ローム層上面が確認されたが、遺構は確認されなかった。遺物は耕作土中より土師器片が少量出土した。トレンチ 4 3.0m × 2.0m。地表下 200cm の深さで関東ローム層上面が確認されるとともに溝跡と竪穴建物跡とみられる遺構が切り合う状況で確認された。遺物は遺構確認面より土師器片や須恵器片、鉄滓が多数出土した。

(2) 出土遺物 第 43 図 1 はトレンチ 4 から出土した須恵器横瓶の底部片である。底部及び体部外面は回転ヘラケズリ、内面にはロクロ水挽整形痕が稜状に強く出ている。断面を観察すると、底部を厚くするため、粘土を付け足している様子がうかがえる。色調は灰白色で胎土には海綿状骨針やチャート礫、長石等を含まないことから、東海



第 41 図 台渡里官衙遺跡（台渡里第 74 次）の位置



写真 57 トレンチ 1 遺構検出状況（南から）



写真 58 トレンチ 2 遺構検出状況（北から）



写真 59 トレンチ 3 掘削状況（南から）



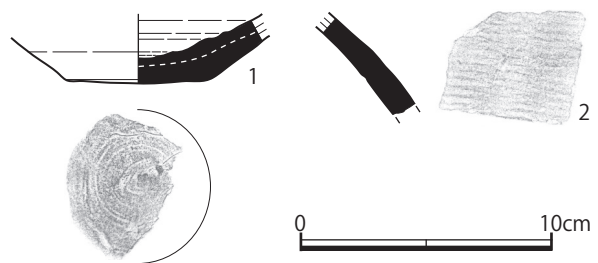
写真 60 トレンチ 4 遺構検出状況（南から）



第 42 図 台渡里官衙遺跡（台渡里第 74 次）のトレンチ配置

地方など、地域外からもたらされた搬入品の可能性が高い。7 世紀後葉の製品であろう。2 は須恵器甕の胴部片である。外面には平行叩きが施され、内面には当て具痕はみられない。胎土に海綿状骨針や長石を多数含むことから木葉下窯跡群の製品である可能性が高い。

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 位置指定道路部分から遺構・遺物が確認され、道路構造令に準拠する規格の道路であるため、道路部分は本発掘調査、宅地部分については 30cm 以上の保護層を確保できることから、慎重工事扱いとした。その後、株式会社東京航業研究所と事業者が業務委託契約を締結し、位置指定道路部分について平成 23 年 1 月 20 日～2 月 5 日の期間に発掘調査を実施した。調査成果については、『台渡里 22 一宅地造成工事に伴う埋蔵文化財調査報告書（台渡里第 79 次）』に収録済みである（川口・渥美・折原 2011）。（川口）



第 43 図 台渡里官衙遺跡（台渡里第 74 次）出土遺物

2-17 台渡里官衙遺跡（台渡里第75次）

所在地 水戸市渡里町字前原 2894-8, -2, -37 番地

開発面積 457.97 m²

調査期間 平成 22 年 12 月 1 日

調査面積 10.2 m²

調査原因 個人住宅建築

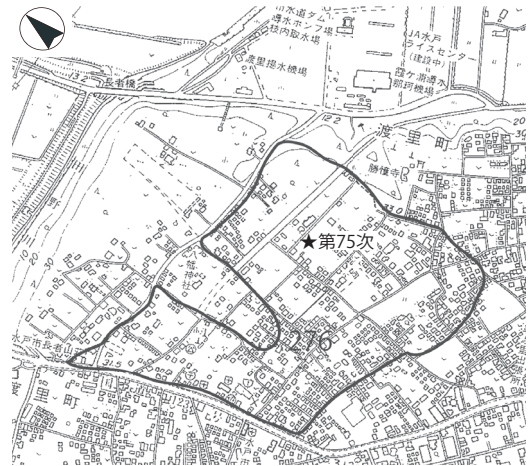
調査担当 川口武彦・三浦健太

調査方法 開発対象地のうち、申請建物部分にトレンチを1本設定し（第45図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要 トレンチ1 6.8m × 1.5m。地表下50～80cmの深さで関東ローム層上面が確認されるとともに溝跡1条が確認された。遺物は遺構確認面より土師器片が少量出土した。第46図のように台渡里第19次で確認されている溝跡と接続する可能性が考えられる。

(2) 出土遺物 図化に耐えうる資料はなかった。

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構・遺物が確認され、30cm以上の保護層を確保できるものの、設計通りに施工されるかを確認するため工事立会扱いとした。（川口）



第44図 台渡里官衙遺跡（台渡里第75次）の位置



写真61 トレンチ1 溝跡検出状況（西から）

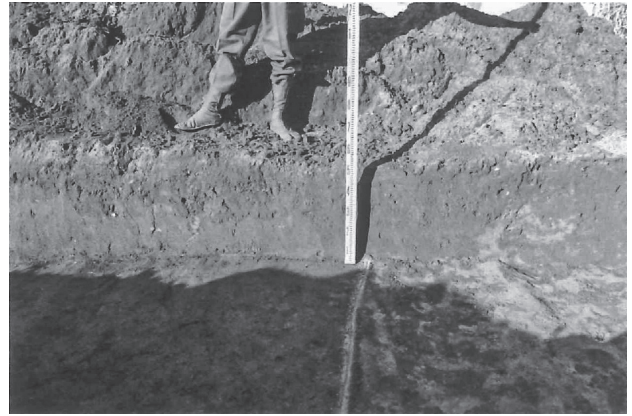
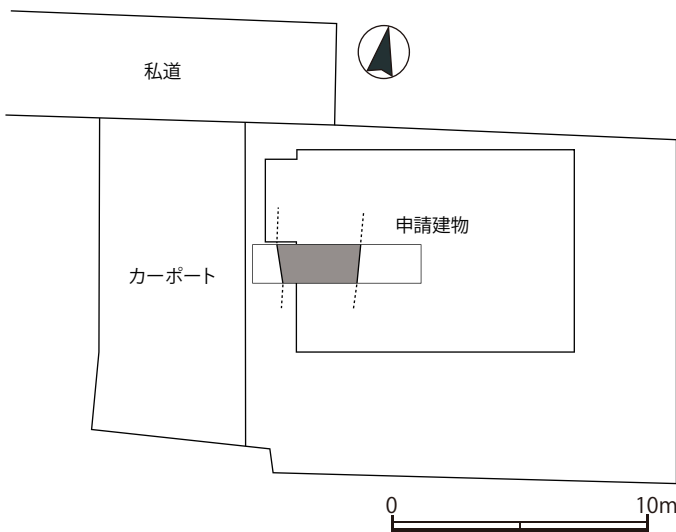
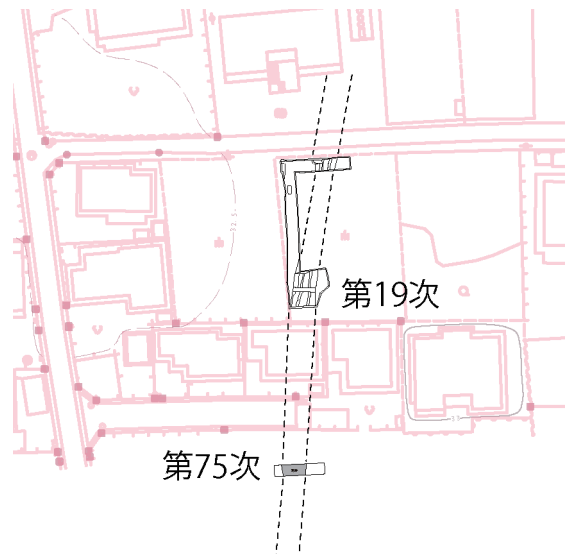


写真62 トレンチ1 溝跡検出深度（南から）



第45図 台渡里官衙遺跡（台渡里第75次）のトレンチ配置



第46図 溝跡の接続状況（1,000分の1）

2-18 台渡里官衙遺跡（台渡里第76次）

所在地 水戸市渡里町字前原 2832-9 番地

開発面積 405.21 m²

調査期間 平成 22 年 12 月 2 日

調査面積 15.0 m²

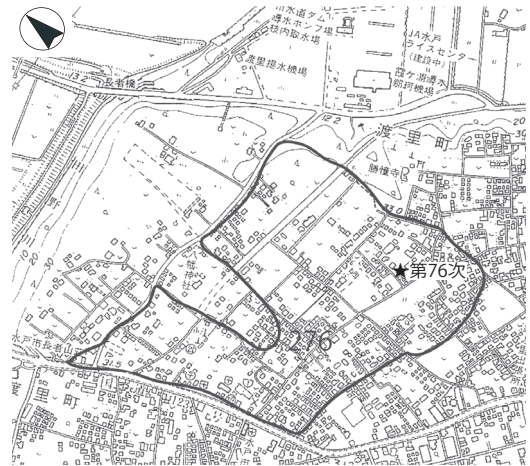
調査原因 個人住宅建築

調査担当 川口武彦・三浦健太

調査方法 開発対象地のうち、申請建物部分にトレンチを1本設定し（第48図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要 トレンチ1 12.0m × 1.5m。地表下130～140cmの深さで関東ローム層上面が確認されるとともに掘立柱建物を構成する柱穴が4基確認された。遺物は遺構確認面より土師器・須恵器・灰釉陶器片が多数出土した。

(2) 出土遺物 第49図1は土師器無台杯である。外面にはロクロ水挽整形痕が観察され、内面は黒色処理が施されている。底部は回転ヘラ切り後、時計回りの方向に丁寧なケズリ調整を施している。佐々木義則による平安時代の土師器杯・小皿編年（佐々木 2009）に対比すると9世紀第2四半期～第3四半期頃に位置づけられようか。2は土師器の高台付椀である。内外面ともにロクロ水挽整形痕が



第47図 台渡里官衙遺跡（台渡里第76次）の位置



写真63 トレンチ1遺構検出状況（東から）

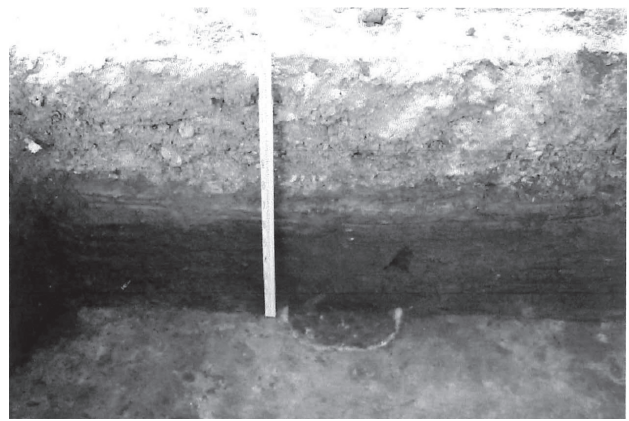
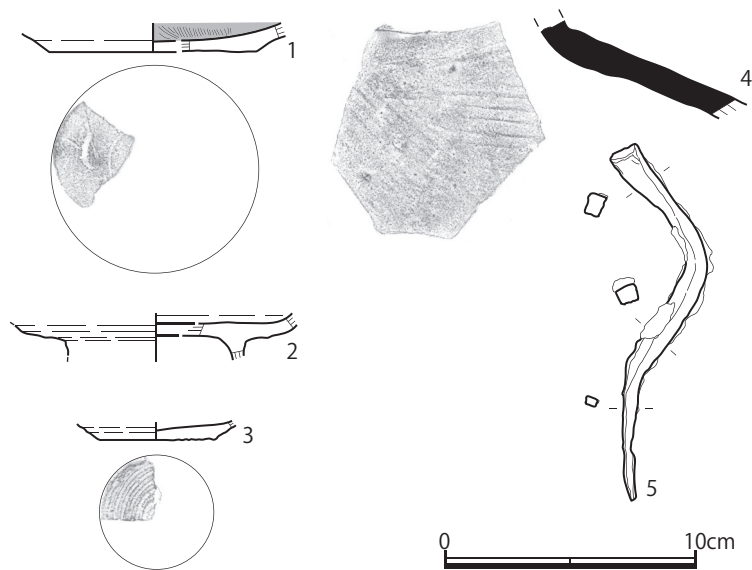
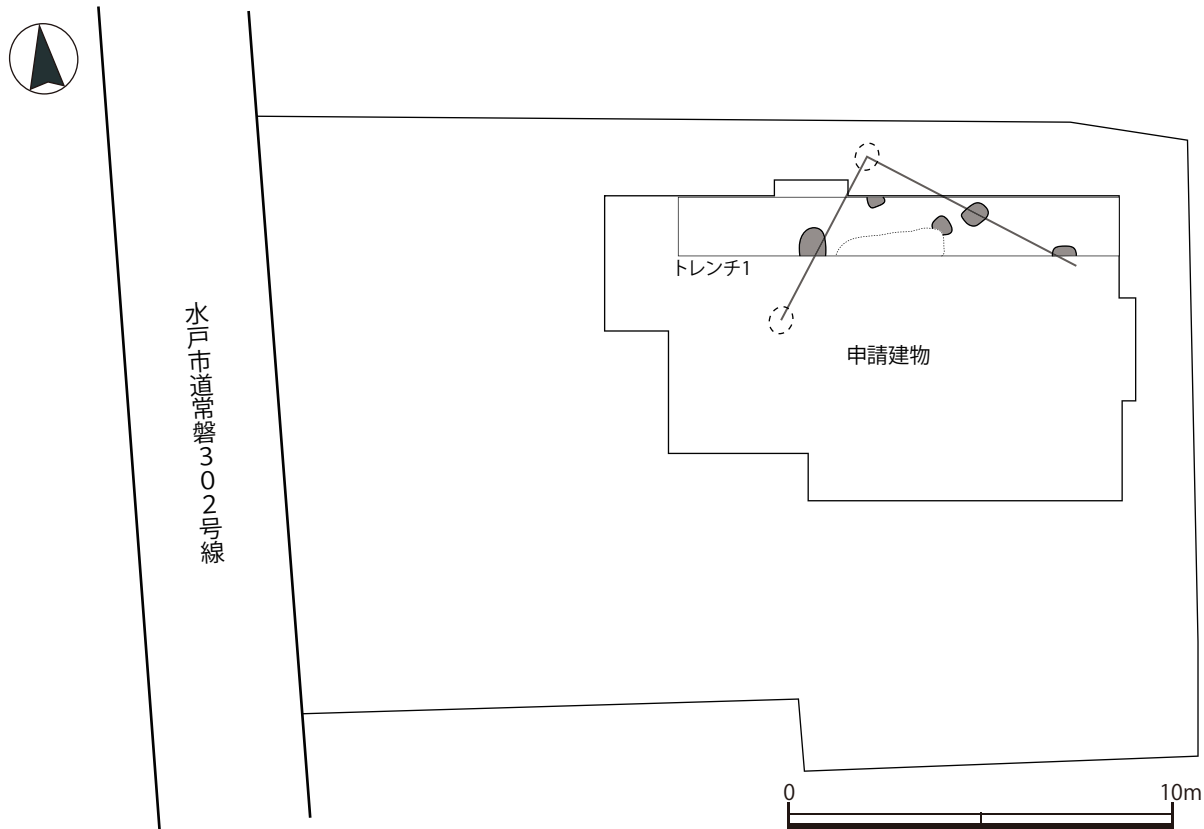


写真64 トレンチ1柱穴検出深度（北から）



第49図 台渡里官衙遺跡（台渡里第76次）出土遺物



第 48 図 台渡里官衙遺跡（台渡里第 76 次）のトレンチ配置

観察され、内面は黒色処理が施されていない。高台の下半部を欠失しているため、全容については不詳であるが、10 世紀後葉～11 世紀前葉頃の製品であろう。3 は土師器小皿である。内外面ともにロクロ水挽整形痕が観察され、底部は回転糸切り痕が残されている。佐々木義則による平安時代の土師器杯・小皿編年（佐々木 2009）に対比すると 11 世紀前葉頃の製品であろう。4 は須恵器甕の頸部から胴部片である。外面には横位の幅広の平行線文叩き痕が施されており、内面には当て具痕は見られない。こうした外面に横位の幅広の平行線文叩き痕が施されている須恵器甕は、水戸市の東前原遺跡（第 15 地点第 2 次）第 9 号竪穴建物跡出土例（河野・新垣 2018）や東前原遺跡（第 17 地点第 2 次）32 号竪穴建物出土例（土生・新垣 2019）、水戸市の小原遺跡（第 3 地点）4 号竪穴建物跡出土例（太田・染井・土生 2015）などの類例が挙げられ、それらの年代から 9 世紀中葉～後葉頃の製品と理解しておきたい。5 は鉄釘である。横断面は角柱状のもので、途中から折り曲がっている。柱材に打ち込まれた結果であろう。推定全長は 15.5cm であり、出土している土器と同様、平安時代の遺物と理解しておく。

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構・遺物が確認され、30cm 以上の保護層を確保できるものの、設計通りに施工されるかを確認するため工事立会扱いとした。 (川口)

2-19 台渡里官衙遺跡（台渡里第78次）

所在地 水戸市渡里町字前原 2898-1 番地

開発面積 657.46 m²

調査期間 平成 22 年 12 月 17 日

調査面積 45.0 m²

調査原因 賃貸住宅建替

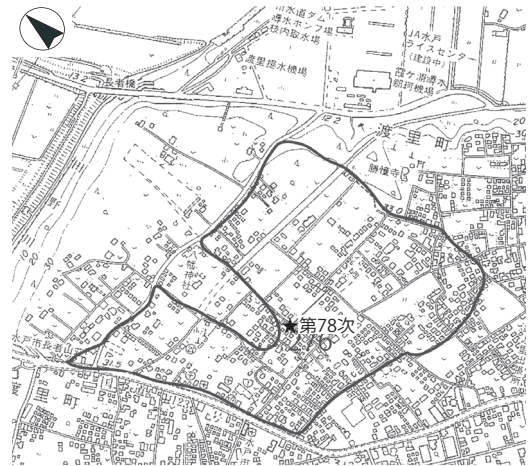
調査担当 川口武彦・三浦健太

調査方法 開発対象地のうち、申請建物部分にトレンチを3本設定し（第51図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要 トレンチ1 7.5m×2.0m。地表下130cmの深さで関東ローム層上面が確認されるとともに、溝跡が1条確認された。遺物は遺構確認面より土師器片が出土した。トレンチ2 7.5m×2.0m。地表下130～140cmの深さで関東ローム層上面が確認されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ3 7.5m×2.0m。地表下130～140cmの深さで関東ローム層上面が確認されるとともに、溝跡1条、土坑1基、竪穴状遺構1基が確認された。遺物は遺構確認面より土師器片が多数出土した。

(2) 出土遺物 第52図1はトレンチ1の溝跡の覆土上面から出土した土師器坏である。外面にはロクロ水挽整形痕、内面には横方向のミガキによる黒色処理が施されている。10世紀後葉頃の製品であろう。2も1と同様、トレンチ1の溝跡の覆土上面から出土した土師器の高台付椀である。外面にはロクロ水挽整形痕、内面には縦方向のミガキによる黒色処理が施されている。10世紀後葉頃の製品であろう。3は土師器の甕である。外面は底部からタテ方向のヘラケズリが施されており、内面はナデ調整が施されている。4はトレンチ3から出土した平瓦である。



第50図 台渡里官衙遺跡（台渡里第78次）の位置



写真65 トレンチ1 溝跡検出状況（西から）



写真66 トレンチ1 溝跡検出深度（北西から）



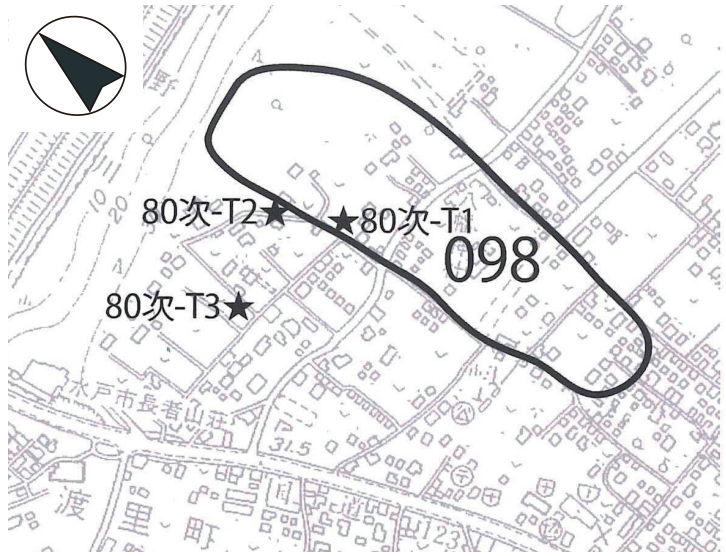
写真67 トレンチ3 遺構検出状況（西から）



写真68 トレンチ3 竪穴状遺構検出深度（南から）

2-20 台渡里官衙遺跡（台渡里第80次）

所在地 水戸市渡里町字長者山 3070 地先～3082 地先
 開発面積 約 590 m²
 調査期間 平成 23 年 1 月 5 日～1 月 6 日
 調査面積 15.9 m²
 調査原因 道路拡幅及び公共下水道管埋設工事
 調査担当 渥美賢吾・川口武彦・三浦健太
 調査方法 開発対象地のうち、申請建物部分にトレンチを 3 本設定し（第 54 図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。



第 53 図 台渡里官衙遺跡（台渡里第 80 次）の位置

(1) トレンチの概要 トレンチ 1 5m × 1m。地表下 80cm の深さで関東ローム層上面が確認されるとともに、炭化米及び炭化材、瓦を多量に含む南北方向の溝跡 1 条とそれに

切られる竪穴建物跡 1 棟、土坑 1 基が確認された。トレンチ 2 2.6m × 1m。地表下 80cm の深さで関東ローム層上面が確認されるとともに、近世以降とみられる幅 50cm ほどの溝跡 1 条と掘立柱建物跡を構成するとみられる柱穴とそれと重複する柱抜き取り穴とみられるプラン 3 基が確認された。遺物は土師器・須恵器片が数点出土した。トレンチ 3 6.3m × 1m で設定したが、トレンチ東端で水道管（塩ビ製）が確認されたため、トレンチを西へずらして拡張した。最終的な調査面積は 8.3 m² である。地表下 100cm の深さで関東ローム層への漸移層とみられる今市・七本桜軽石を含む土層が確認されたが、遺構は確認されなかった。遺物は縄文時代後期加曾利 B 式の粗製土



写真 69 トレンチ 1 遺構検出状況（南から）

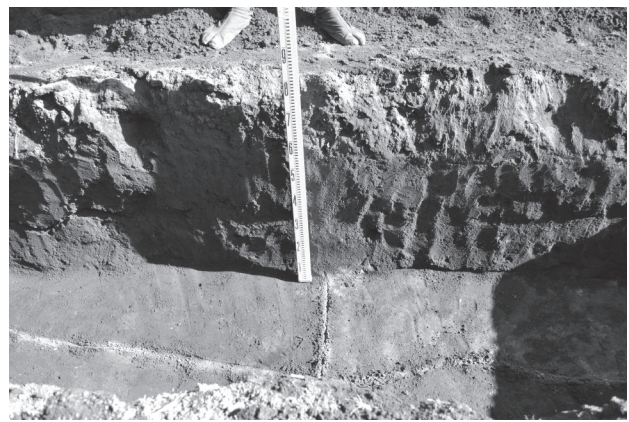


写真 70 トレンチ 1 遺構検出深度（西から）



写真 71 トレンチ 1 遺構検出深度（北西から）



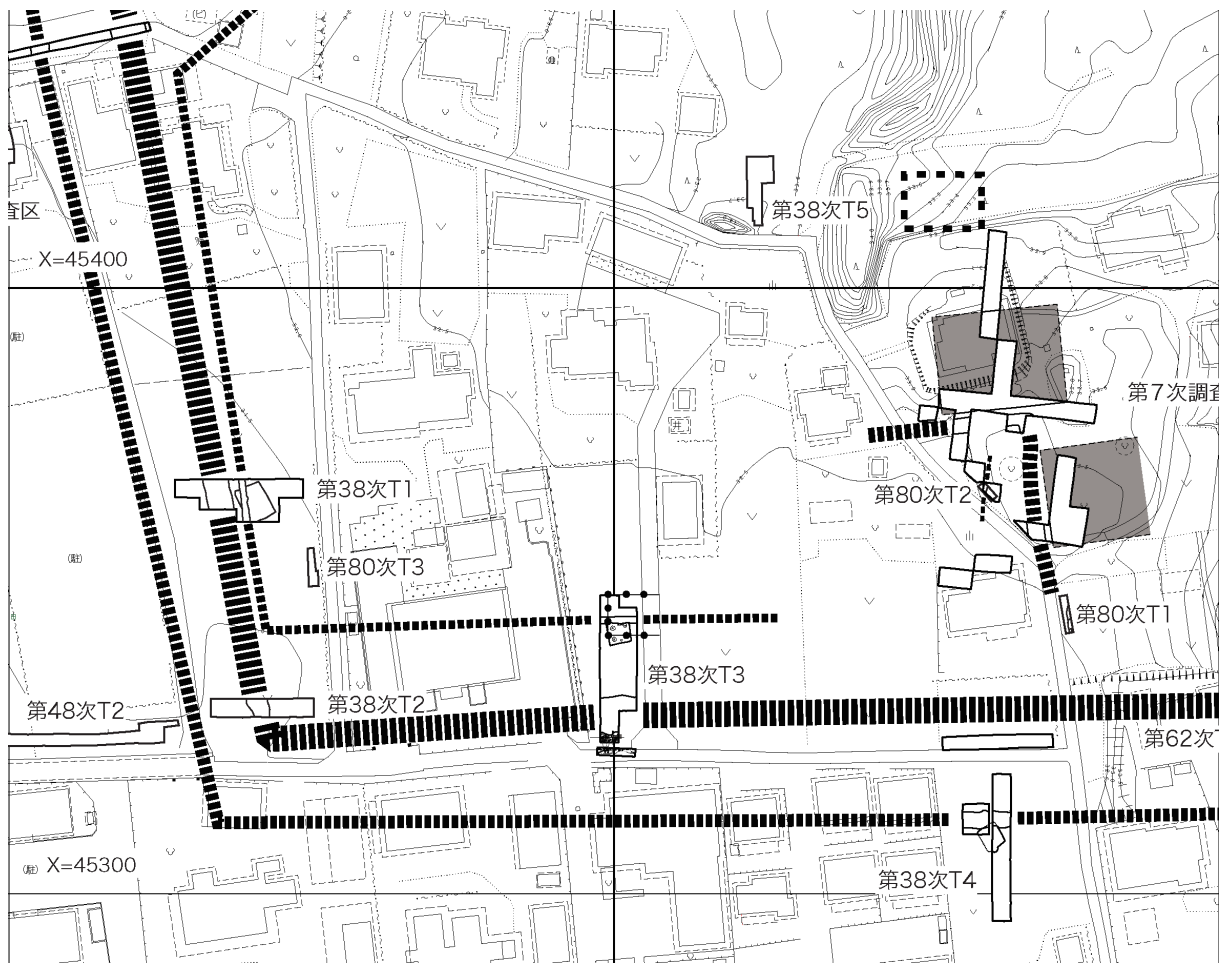
写真 72 トレンチ 2 遺構検出深度（南西から）



写真 73 トレンチ 3 掘削状況 (北から)



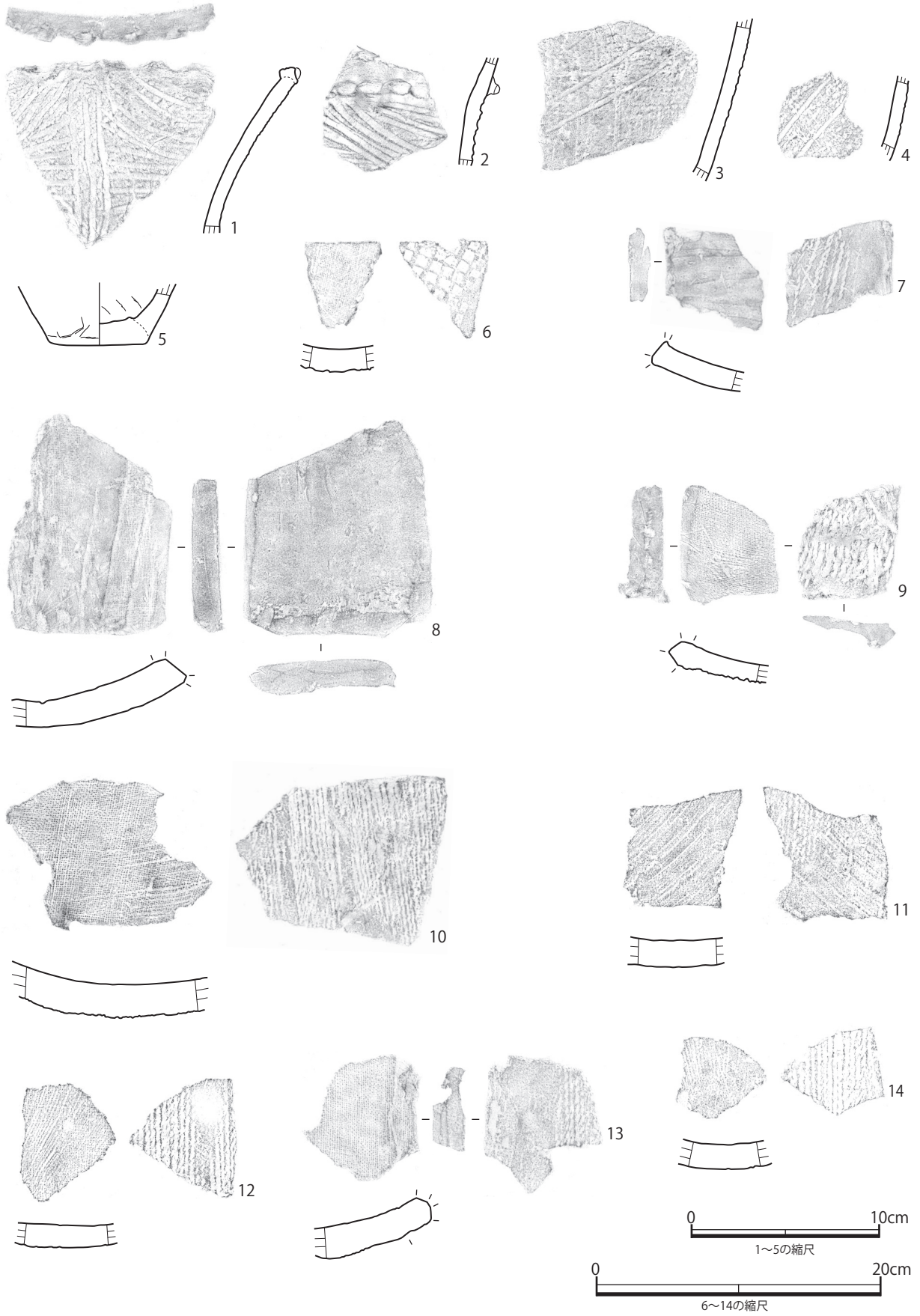
写真 74 トレンチ 3 南端関東ローム層検出深度 (東から)



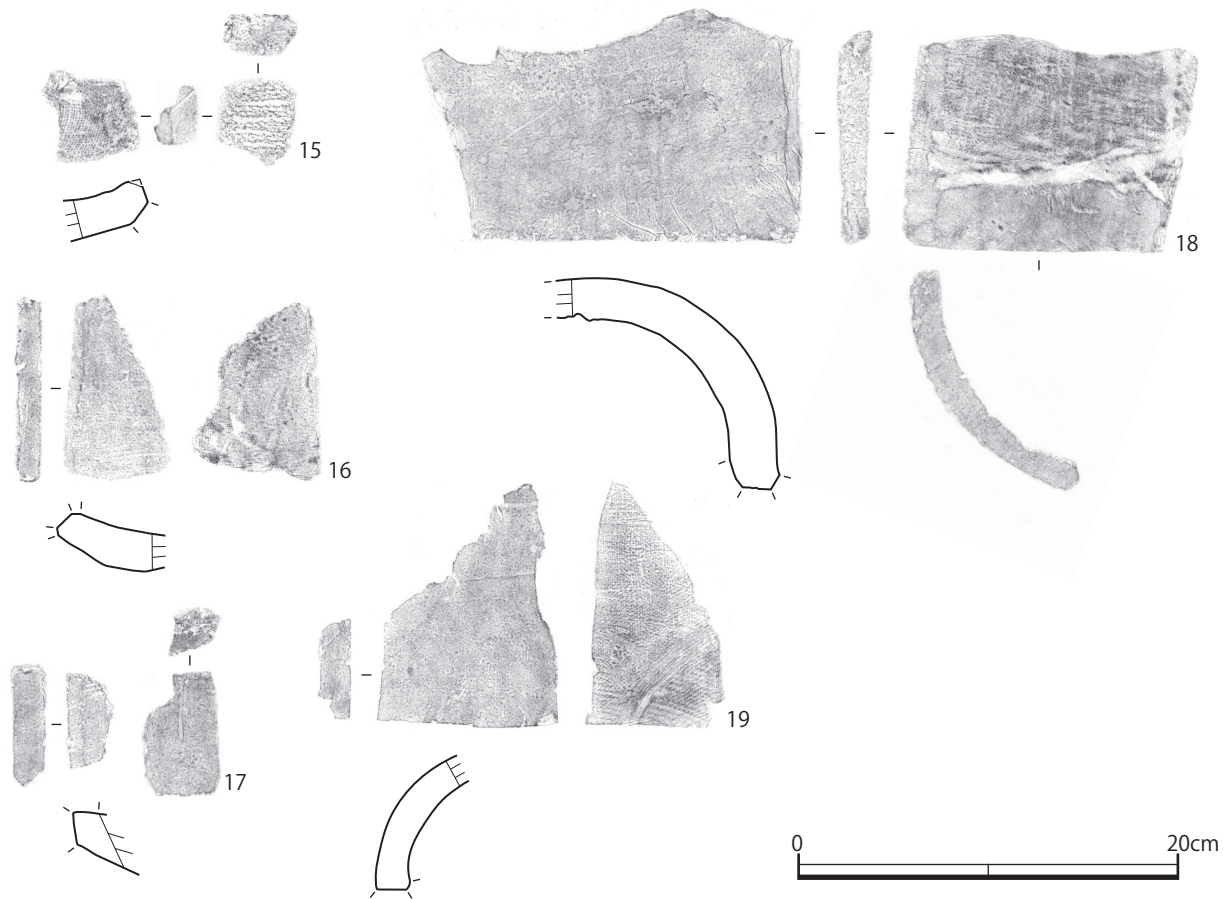
第 54 図 台渡里官衙遺跡 (台渡里第 80 次) のトレンチ配置 (1,200 分の 1)

器が数点出土した。

(2) 出土遺物 第 55 図 1～5 はトレンチ 3 より出土した加曾利 B 式の粗製土器の深鉢形土器である。1 は口縁部の破片で、地文に縄文を施文した後、縦・横・斜め方向の沈線で区画している。口唇部には粘土紐を横方向に貼り付け、上から指頭圧痕を加えることにより、ジグザグの口縁部を創り出している。2 は頸部の破片とみられ、横方向に粘土紐を貼り付けた後、指頭圧痕を加え、その下には斜め方向に幅広の沈線文を施している。指頭圧痕の上部は無文帯となっている。3・4 は胴部の破片とみられ、地文に単節 LR 縄文を施文した後、斜め方向の沈線で上書きしている。同一個体の可能性がある。5 は底部の破片で、底裏に網代圧痕は見られない。内外面ともにナデ調整が施されている。第 55 図 6～14, 第 56 図 15・17 はトレンチ 1, 第 56 図 16 はトレンチ 2 から出土した平瓦である。6 は



第55図 台渡里官衙遺跡（台渡里第80次）出土遺物①

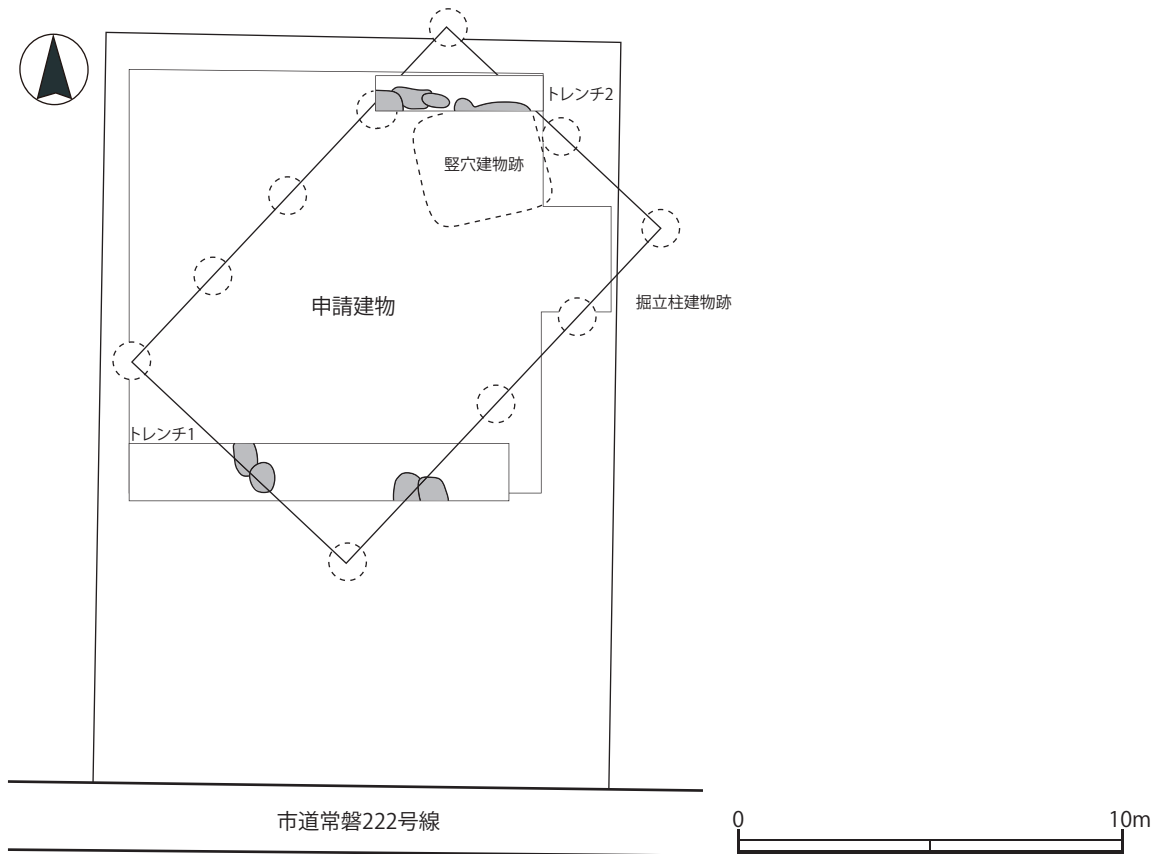


第 56 図 台渡里官衙遺跡（台渡里第 80 次）出土遺物②

凸面に正格子叩きが観察されるが、水戸市山田窯跡群（常陸古代窯業史研究会 1998）のものとは格子の形状が異なり、格子の間隔が広い。水戸市木葉下窯跡群 A 地点（根本 1983）のものと同様であることから、木葉下窯跡群の製品である可能性が高い。7 は凸面に縄叩きの痕跡がみられ、凹面には布目圧痕が見られず、横方向にナデ消した痕跡が認められる。上下ともに欠失しており、特に上端が直線的に割れていることから、凹面のナデ調整は輪積み痕を消したものと理解され、泥条盤築技法により成形されたものと考えられる。8 は凸面の下部に格子叩きの痕跡が僅かに観察され、横方向のナデ調整により消している。凹面には布目圧痕と杵板圧痕が見られることから粘土板桶巻き作りによる製品とみられる。9 は凸面に長縄叩きの痕跡がみられ、凹面には布目圧痕が残されているが、杵板圧痕はみられない。側面と端面の角度が鈍角になることから狭端部側とみられ、粘土板一枚作りによる製品とみられる。断面形状が平坦であることから熨斗瓦の可能性もある。10 は 7 は凸面に縄叩きの痕跡が、凹面に布目圧痕と糸切痕が観察される。左右の両側面は失われているが、糸切痕の方向が瓦の円弧に対して直交することから、粘土板一枚作りによる製品とみられる。11 は凸面に縄叩きと糸切痕が、凹面に布目圧痕と糸切痕が観察される。左右の両側面は失われているが、糸切痕の方向が瓦の円弧に対して直交することから、粘土板一枚作りによる製品とみられる。12 も 11 と同様、凸面に縄叩きと糸切痕が、凹面に布目圧痕と糸切痕が観察される。左右の両側面は失われているが、糸切痕の方向が瓦の円弧に対して直交することから、11 と同様に一枚作りによる製品とみられる。断面形状が平坦であることから熨斗瓦の可能性もある。13 は凸面に凸面に短縄叩きが、凹面に布目圧痕が観察される。側面の断面形状から一枚作りによる製品とみられる。14 は凸面に長縄叩きが、凹面に布目圧痕と糸切痕が観察される。糸切痕の方向が瓦の円弧に対して直交することから、一枚作りによる製品とみられる。15 は凸面に短縄叩きが、凹面に布目圧痕が観察される。側面と端面が残存しており、角度から狭端側の角とみられる。側面の断面形状から一枚作りによる製品とみられる。16 は凸面にナデ調整、凹面に布目圧痕と糸切痕が観察される。糸切痕の方向が瓦の円弧に対して直交することから一枚作りによる製品とみられる。17 は凸面・凹面ともにヘラケズリ調整が観察される。第 56 図 18・19 はトレンチ 1 から出土した丸瓦である。18 は凸面が横方向のヘラケズリ調整、凹面に布目圧痕・ヘラケズリ調整・輪積み痕が観察される。輪積み痕がみられる丸瓦は、台渡里官衙遺

跡長者山地区の瓦倉の屋根に葺かれた有段式丸瓦の特徴であり、粘土紐巻き作りによるものと考えられている（須田 2005・2013, 眞保 2014・2018）ことから、広端部側であるものの本製品は有段式丸瓦であった可能性が考えられる。19は凸面が横方向のナデ調整，凹面に布目圧痕・輪積み痕が観察され，粘土紐巻き作りによるものと理解されることから，18と同様，有段式丸瓦であった可能性が考えられる。

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構・遺物が確認され，道路構造令に準拠する規格の道路であることから記録保存を目的とした本発掘調査扱いとした。その後，平成23年9月に本路線は国指定史跡「台渡里官衙遺跡群 台渡里官衙遺跡」の指定範囲となり，平成24年度に現状変更許可申請書を文化庁へと提出し，事前の確認調査を実施する範囲と記録保存を目的とした本発掘調査を実施する範囲に分け，業務委託により株式会社東京航業研究所に確認調査と本発掘調査を発注した(台渡里第114次)。発掘調査は平成25年3月11日～7月27日の期間に実施し，掘込地業を伴う礎石建物跡2棟のほか縄文時代の竪穴建物跡4軒，古墳時代の竪穴建物跡5軒，奈良・平安時代の掘立柱建物跡3棟，古墳時代～近世までの溝跡14条などの遺構が検出されるとともに，縄文時代中期～後期の土器・石器・土製品，古墳時代～奈良・平安時代の土師器・須恵器，瓦等の遺物が61箱分出土した。調査成果については、『台渡里15 一市道常磐223号線狭あい道路整備工事及び公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(台渡里第114次)一』に収録済みである(林・渥美編 2013)。 (渥美・川口)



第 56 図 台渡里官衙遺跡（台渡里第 82 次）のトレンチ配置

辺においては、7 世紀第 4 四半期の竪穴建物跡はいずれも真北ではなく北西に主軸を傾ける斜め方位を採用する傾向にあることから、竪穴建物跡の年代は 7 世紀第 4 四半期の遺構と理解することができ、掘立柱建物跡はその前後に造営されたと理解される。

(2) 出土遺物 図化に耐えうる資料はなかった。

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構・遺物が確認され、30cm 以上の保護層を確保できるものの、設計通りに施工されるかを確認するため工事立会扱いとした。 (川口)

2-22 谷田古墳群（第12地点）

所在地 水戸市酒門町 590-1 番地

開発面積 939.76 m²

調査期間 平成 22 年 6 月 4 日

調査面積 49.0 m²

調査原因 共同住宅建築

調査担当 川口武彦

調査方法 開発対象地のうち、申請建物部分及び浄化槽埋設部分にトレンチを2本設定し（第58図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要 トレンチ1 4.0m × 2.5 m。地表下 80cm の深さで関東ローム層上面が確認されたが遺構・遺物は確認されなかった。トレンチ2 26.0m × 1.5 m。地形に傾斜があり、地表下 30 ~ 80cm の深さで関東ローム層上面が確認されたが、遺構は確認されなかった。遺物は土師器の小片が1点出土した。

(2) 出土遺物 トレンチ2より出土した土器片は小片のため図化には至らなかった。

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構は確認されなかったことから慎重工事扱いとした。 (川口)



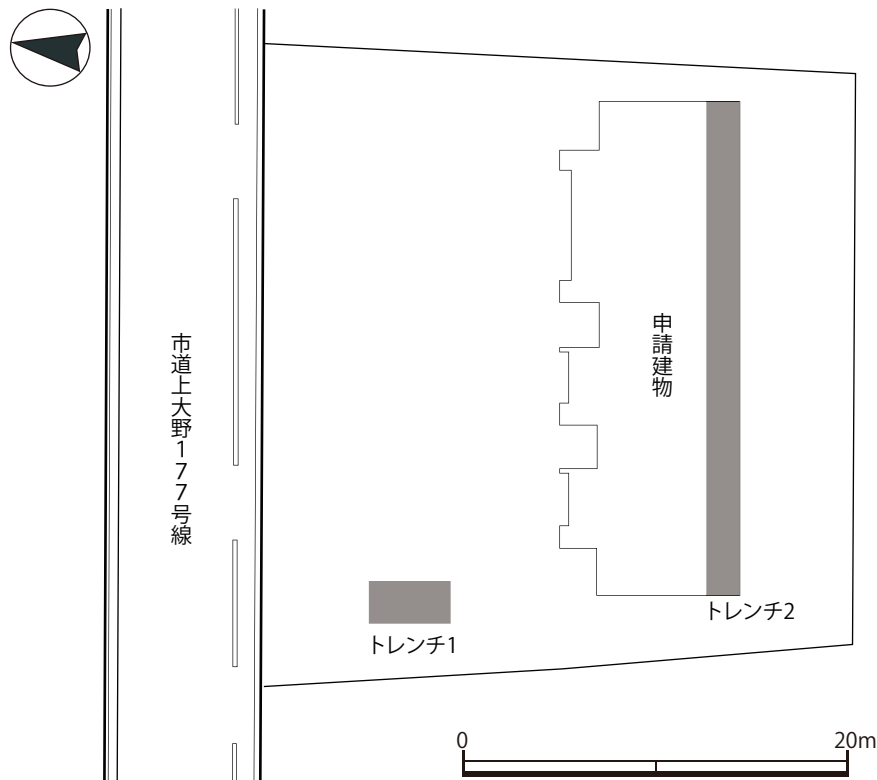
第57図 谷田古墳群（第12地点）の位置



写真79 トレンチ1掘削状況（南から）



写真80 トレンチ2掘削深度（南から）



第57図 谷田古墳群（第12地点）のトレンチ配置

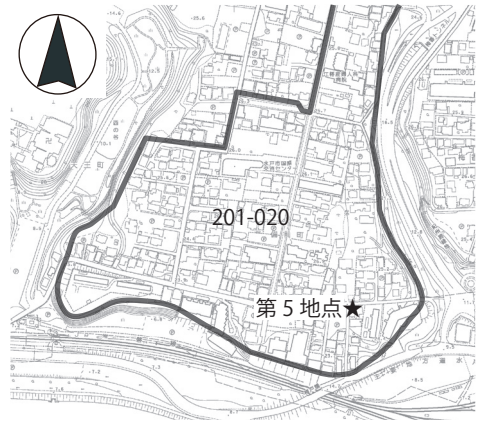
2-23 釜神町遺跡（第5地点）

所在地 水戸市備前町752番地8
 開発面積 307.12㎡
 調査期間 平成22年6月4日
 調査面積 44.0㎡
 調査原因 個人住宅建築
 調査担当 川口武彦

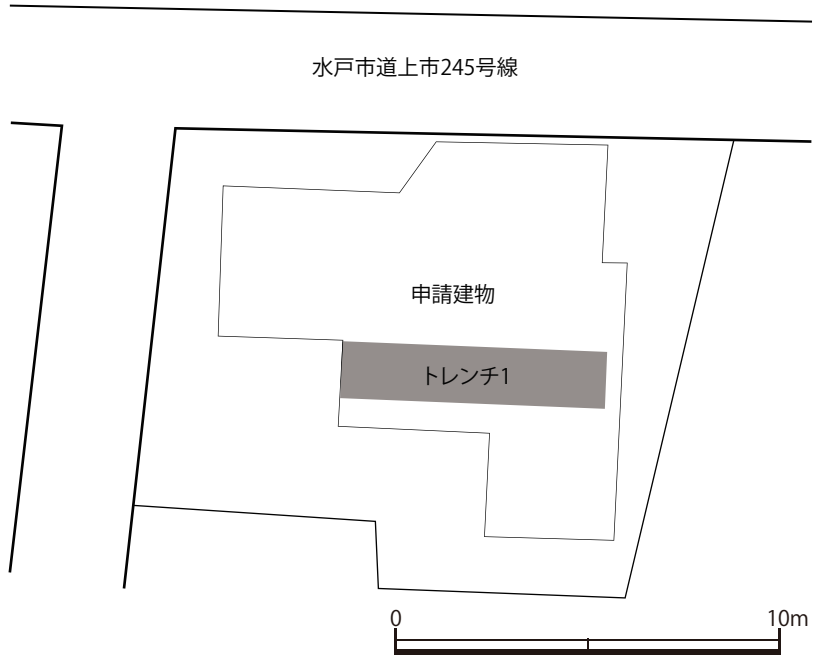
調査方法 開発対象地のうち、申請建物部分にトレンチを1本設定し（第60図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要 トレンチ1 7.0m×2.0m。地表下50cmの深さで関東ローム層が確認されたが攪乱が著しく遺構は確認されなかった。遺物は攪乱中より近世～近・現代にかけて縄文土器及び陶磁器・土製品が出土した。

(2) 出土遺物 第61図1は、縄文土器深鉢形土器の胴部片である。単節LR縄文が縦方向に回転施文されている。胎土に雲母を多く含んでおり、縄文中期後半のものと考えられる。2・3・6・8は近世、4・5・7・10～11は近代、9は近世～近代の遺物である。2は肥前産の磁器小碗で、畳付は無釉、削り出し高台で、外面に龍文が描かれている。3は肥前産の磁器半球碗で、外面には矢羽根文、高台脇に一重圈線が描かれている。1750年代～1860年代の製品である。4は産地不明の磁器の皿で、色絵（青・緑・黒）により、内面に竹に鶯文が描かれている。近代の製品である。5は産地不明の磁器の碗で、高台内に釉下墨書で文字が描かれている。近代の製品である。6は瀬戸美濃産陶器の土瓶蓋で、摘み部は欠失しているが、上



第59図 釜神町遺跡（第5地点）の位置



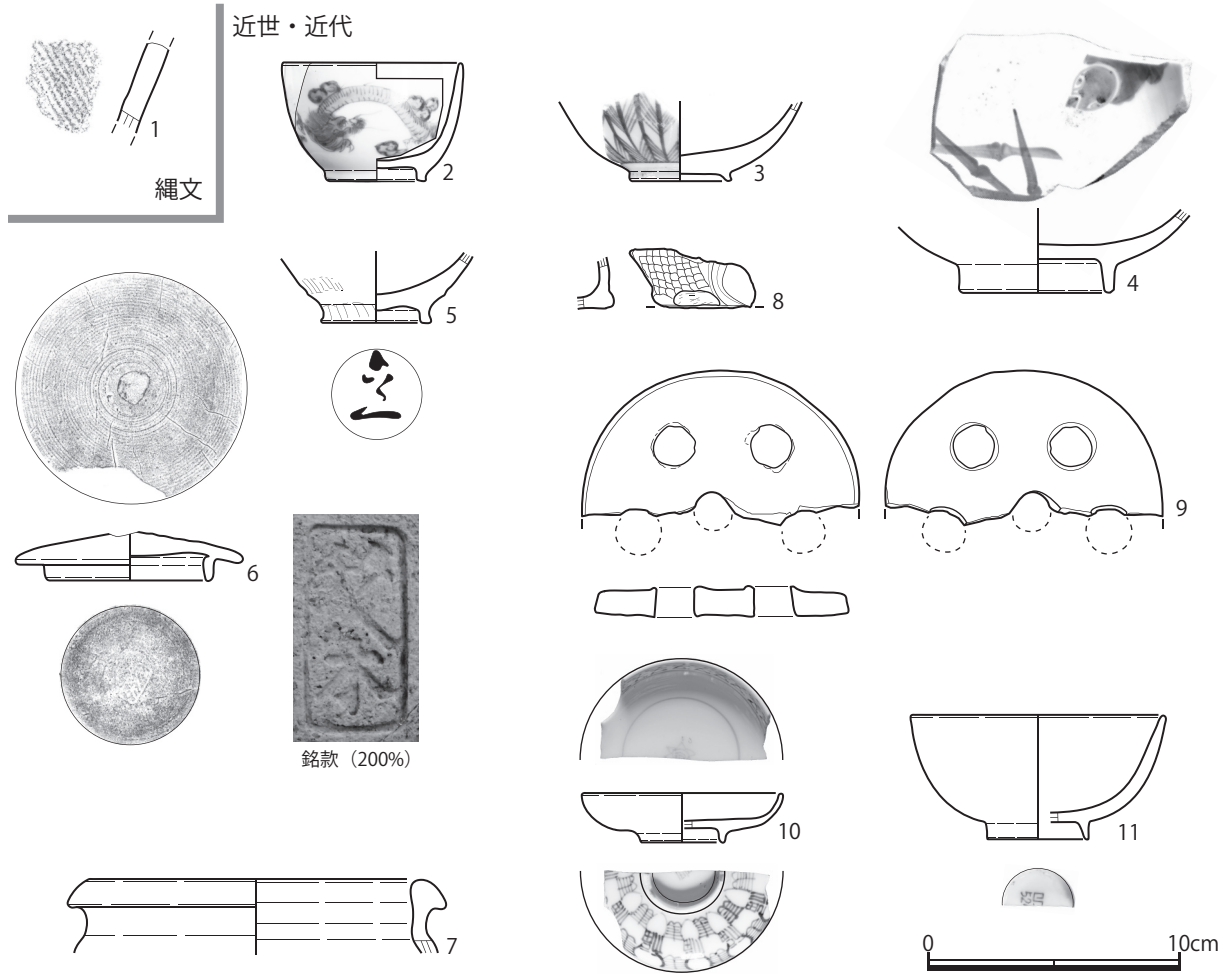
第60図 釜神町遺跡（第5地点）のトレンチ配置



写真81 トレンチ1掘削状況（東から）



写真82 トレンチ1掘削深度（南西から）



第 61 図 釜神町遺跡（第 5 地点）出土遺物

面・下面に鉄釉が掛けられており，上面には糸目の痕跡が，受部内中央には銘款「茶」が押されている。近世の製品である。7 は在地産の可能性のある施釉陶器の甕で，内外面には鉄釉が掛けられており，口縁は折縁となっている。近代の製品であろう。8 は土製の人形（鯉）で，型押成形左右合わせによる。表面にキラが多量に付着しており，産地は不明だが，近世以降の製品である。9 はサナで，焼成前の穿孔が 5 箇所残存しており，下部・上部ともに灰が付着している。産地は不明だが，近世～近代にかけての製品であろう。10 は産地不明の磁器の皿で，色絵（青・緑・黒）により内面に竹に鶯文が描かれている。近代の製品である。11 は瀬戸・美濃産の磁器碗（国民食器）で，底裏には「岐 52 □」の統制番号が観察される。戦時統制下の 1941 年～1945 年の製品である。（川口・関口）

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構は確認されなかったことから慎重工事扱いとした。（川口）

2-24 釜神町遺跡（第24地点）

所在地 水戸市備前町808番2
 開発面積 132.83㎡
 調査期間 平成22年12月24日
 調査面積 4.5㎡
 調査原因 個人住宅建築
 調査担当 川口武彦

調査方法 開発対象地のうち、申請建物部分にトレンチを1本設定し（第63図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

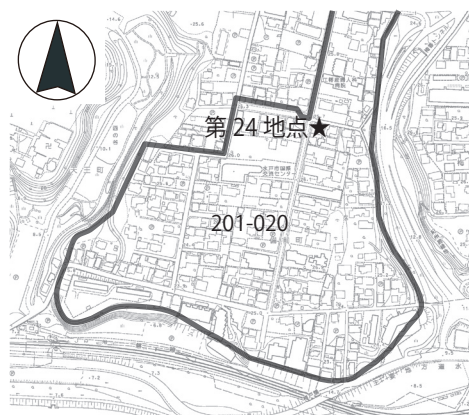
(1) トレンチの概要 トレンチ1 3.0m×1.5m。地表下70cmの深さまで掘削を行ったが、攪乱が著しく、遺構は確認されなかった。遺物は攪乱中より近世～近代にかけての陶磁器やガラス瓶等が出土した。

(2) 出土遺物 近世～近代の遺物が検出され、第64図1～9は近世、8～19は近代の製品である。1は七面製陶所産とみられる焼締陶器皿で、いわゆる「精製七面焼」（関口・渥美・米川編 2017）で、天保9（1838）年以降の製品である。2は磁器のコバルト染付皿で、内面に格子文・鳥文、外面の高台脇には二重圏線が描かれている。産地は不明。3は瀬戸・美濃産とみられる陶器の段重で、轆轤成形で鉄釉が掛かっている。4は削出高台の陶器皿で、白泥が掛かっており、貫入がみられる。瀬戸・美濃産か。5は七面製陶所産とみられる陶器徳利で、いわゆる「精製七面焼」で天保9（1838）年以降の製品である。6は陶器片口鉢で、内外面ともに灰釉が掛かっており、口縁部は玉縁状となる。片口部は貼付によるもので、内面見込みに目痕が8箇所ある。無釉の蛇ノ目高台で、高台に墨書「臺」がある。7は土師質土器の鉢とみられ、口縁は折縁となっている。産地は不明。8～9は磁器のコバルト染付碗で、いずれも畳付は無釉である。8は外面に波文に鳥、高台内と高台脇には一重圏線が、高台には櫛歯文が描かれている。底裏には銘「角福」がある。産地不明で1870年代以降の製品とみられる。9は吹掛けによるコバルト染付で、外面に花卉文が描かれている。産地は不明だが近代後期（20世紀以降）の製品とみられる。10は外面に薔薇文、高台脇に一重圏線が描かれており、産地は不明だが近代後期（20世紀以降）の製品とみられる。11は統制陶器の磁器碗で、白泥塗布の上に透明釉が掛かっており、口縁の外面には二重圏線が描かれている。底裏には「日陶製」の銘がある。産地は美濃と思われ、戦時統制期（1941～1945年）の製品である。12はコバルト染付の磁器徳利で、畳付は無釉、砂の付着がみられる。口縁部は玉縁状、外面に竹に笹文が描かれている。底裏に「楽山」の銘（上絵付・黒）がある。13は鉄釉が掛かった瀬戸美濃産の陶器の播鉢である。14は型押成形による磁製品のミニチュア碗で、透明釉が掛かっている。産地は不明。15・16は型吹き成形によるガラス製化粧クリーム瓶で、16の底部には陽刻で「18」の文字がある。いずれも産地不明である。17は無釉の磁器の小壺で、底部に陰刻で「MADE IN JAPAN」の文字があり、肩部から胴部にかけて朱が付着している。18・19は型吹き成形によるガラス製薬瓶で、18の外面には陽刻で「ラヂウム液」「RADIUM」、底部に陽刻で「平尾」の文字がある。19は、外面に目盛りが陽刻で施されている。

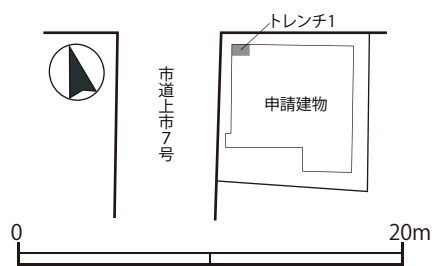
(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構は確認されなかったことから慎重工事扱いとした。

（川口・関口）

（川口）



第62図 釜神町遺跡（第24地点）の位置

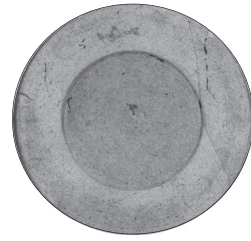
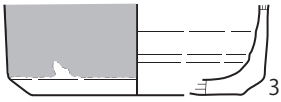
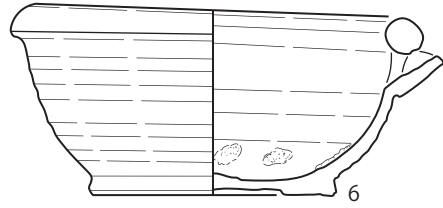
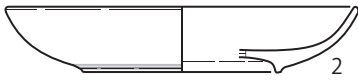
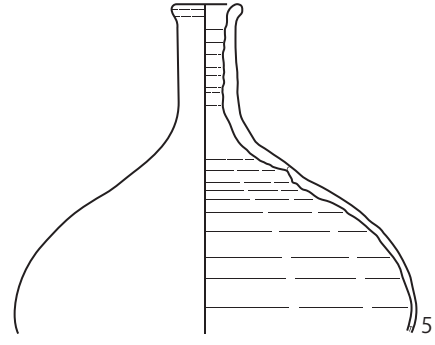
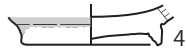
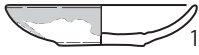


第63図 釜神町遺跡（第24地点）のトレンチ配置

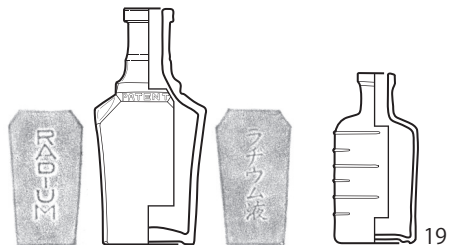
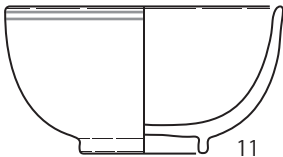
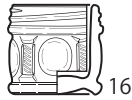
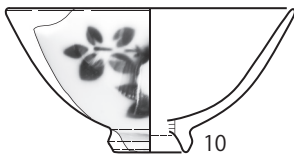
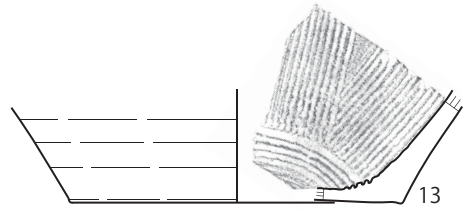
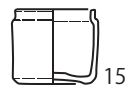
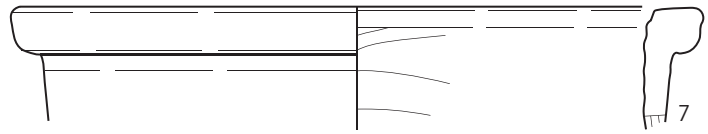
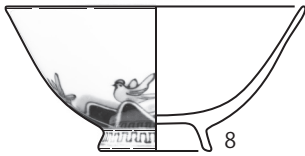


写真83 トレンチ1掘削状況（西から）

近世



近代



第 64 図 釜神町遺跡 (第 24 地点) 出土遺物

2-25 上平遺跡（第1地点）

所在地 水戸市栗崎町字上平 2241-6

開発面積 399 m²

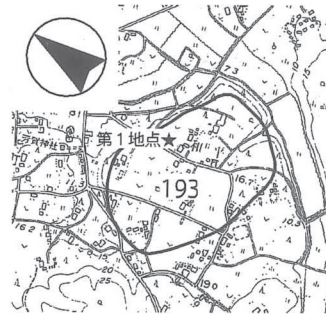
調査期間 平成 22 年 7 月 1 日

調査面積 17 m²

調査原因 個人住宅建築

調査担当 川口武彦, 田中恭子

調査方法 開発対象地のうち、申請建物部分、浄化槽埋設部分、土壌拡散処理システム埋設部分にトレンチを3本設定し（第66図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

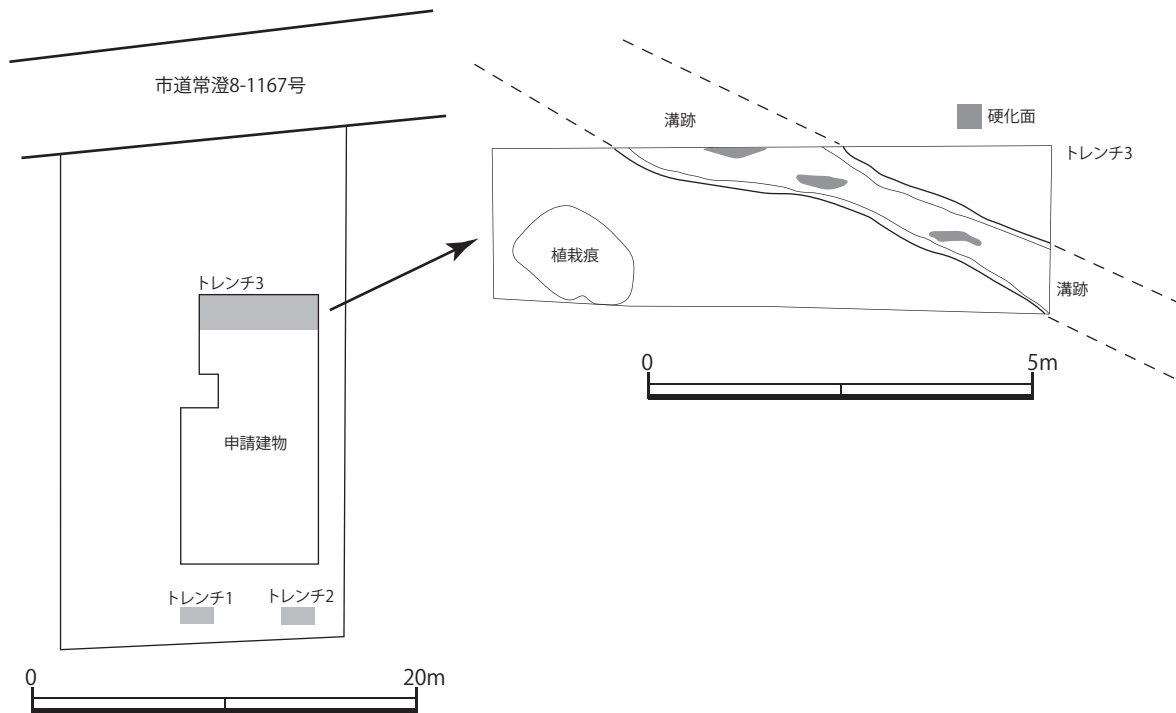


第65図 上平遺跡（第1地点）の位置

(1) トレンチの概要 トレンチ1 2.0m × 1.0 m。地表下 40cm の深さで関東ローム層上面が確認されたが、耕作による攪乱が著しく、遺構は確認されなかった。遺物は胎土に繊維を含む縄文時代前期前葉の土器片が2点出土した。トレンチ2 2.0m × 1.0 m。地表下 30cm の深さで関東ローム層上面が確認されたが、耕作による攪乱が著しく、遺構は確認されなかった。遺物は奈良・平安時代の土師器・須恵器片が2点出土した。トレンチ3 6.5m × 2.0 m。地表下 40cm の深さで関東ローム層上面が確認され、近世以降の所産とみられる溝跡1条、植栽痕が1基確認された。ただし、耕作による攪乱が著しく、遺存状況は良くない。遺物は縄文土器、奈良・平安時代の土師器・須恵器、近世陶器の細片が出土した。

(2) 出土遺物 トレンチ1～3の出土遺物で図化に耐えうる資料はなかった。

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 溝跡は近世以降の所産である事から、慎重工事扱いとした。 (川口)



第66図 上平遺跡（第1地点）のトレンチ配置

2-26 馬場尻遺跡（第3地点）

所在地 水戸市田野町字馬場尻 168-1
 開発面積 418.52 m²
 調査期間 平成 22 年 7 月 6 日
 調査面積 35.0 m²
 調査原因 店舗建築
 調査担当 川口武彦, 田中恭子

調査方法 開発対象地内のうち申請建物部分にトレンチを 1 本設定し（第 68 図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要 トレンチ 1 17.5m × 2.0 m。地表下 70 ~ 80cm の深さで関東ローム層上面が確認されたが、耕作による攪乱が著しく、遺構は確認されなかった。遺物は古墳時代前期の土師器片が 1 点出土した。

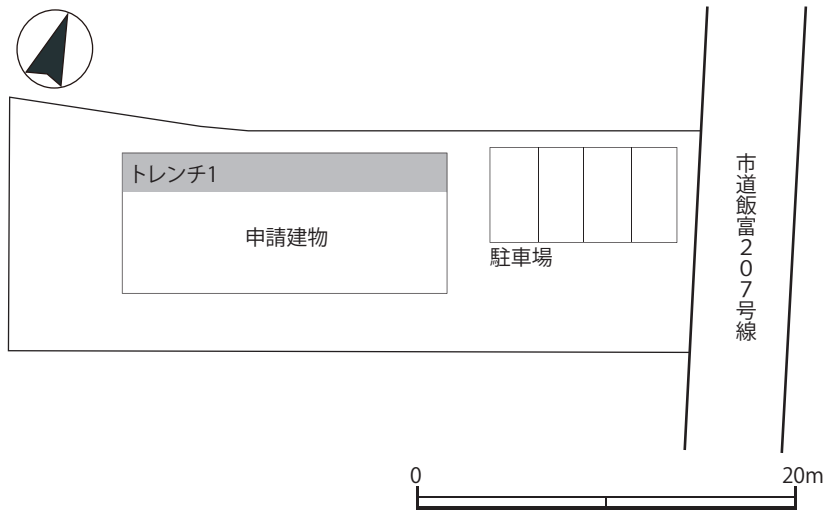
(2) 出土遺物 トレンチ 1 から出土した土師器片は図化に耐える資料ではなかった。

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構が確認されなかったことから、慎重工事扱いとした。

（川口）



第 67 図 馬場尻遺跡（第 3 地点）の位置



第 68 図 馬場尻遺跡（第 3 地点）のトレンチ配置



写真 84 トレンチ掘削状況（東から）



写真 85 トレンチ掘削深度（南東から）

2-27 馬場尻遺跡 (第4地点)

所在地 水戸市田野町 175, 176 の一部, 177-2 番地
 開発面積 495.23 m²
 調査期間 平成 22 年 9 月 21 日
 調査面積 4.5 m²
 調査原因 個人住宅建替
 調査担当 川口武彦

調査方法 開発対象地のうち、申請建物部分にトレンチを 1 本設定し (第 70 図)、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

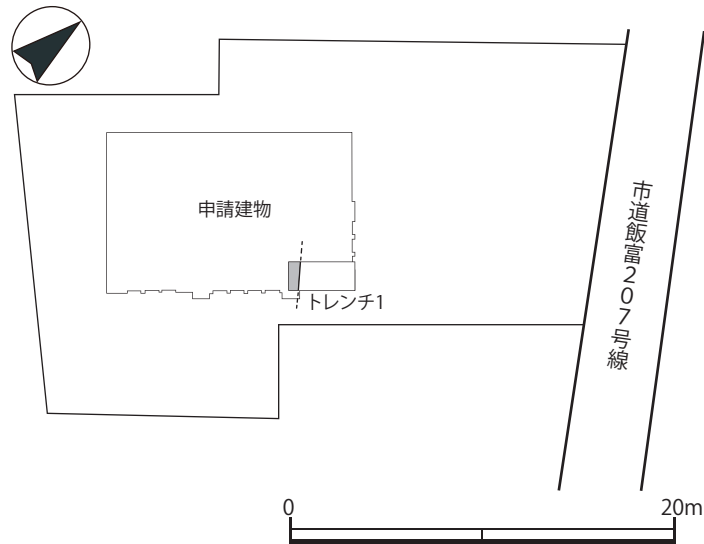
(1) トレンチの概要 トレンチ 1 3.0m × 1.5 m。地表下 90cm の深さで関東ローム層上面が確認されるとともに、トレンチの西端で 72cm の深さより竪穴建物跡とみられるプランが 1 基確認された。遺物は確認されなかった。

(2) 出土遺物 なし。

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構が確認され、30cm 以上の保護層を確保できるものの、設計通りに施工されるかを確認するため工事立会扱いとした。 (川口)



第 69 図 馬場尻遺跡 (第 4 地点) の位置



第 70 図 馬場尻遺跡 (第 4 地点) のトレンチ配置



写真 86 竪穴建物跡掘削状況 (東から)



写真 87 竪穴建物跡掘削深度 (北から)

2-28 坏遺跡 (第13地点)

所在地 水戸市河和田1丁目1637-1, 1638

開発面積 656.53 m²

調査期間 平成22年7月16日

調査面積 23.0 m²

調査原因 集合住宅建築

調査担当 米川暢敬

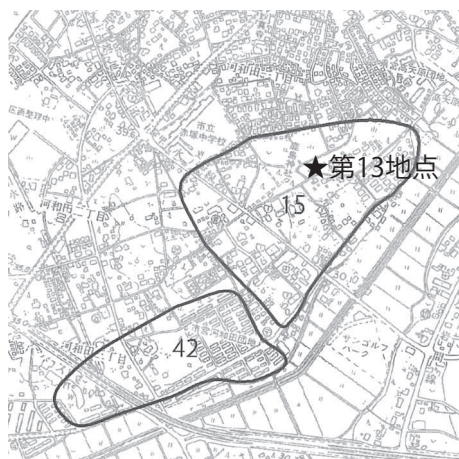
調査方法 開発対象地内のうち申請建物部分及び駐車場設置に伴う抜根予定地にトレンチをそれぞれ1本ずつ設定し(第72図)、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要 トレンチ1 9.0m×1.0m。地表下50cmの深さで関東ローム層上面が確認されるとともに土坑2基が確認されたが、遺構に伴う遺物はなかった。トレンチ2 7.0m×2.0m。地表下70cmの深さで関東ローム層が確認されるとともに溝跡1条、土坑1基が検出された。遺構に伴う遺物はなかった。

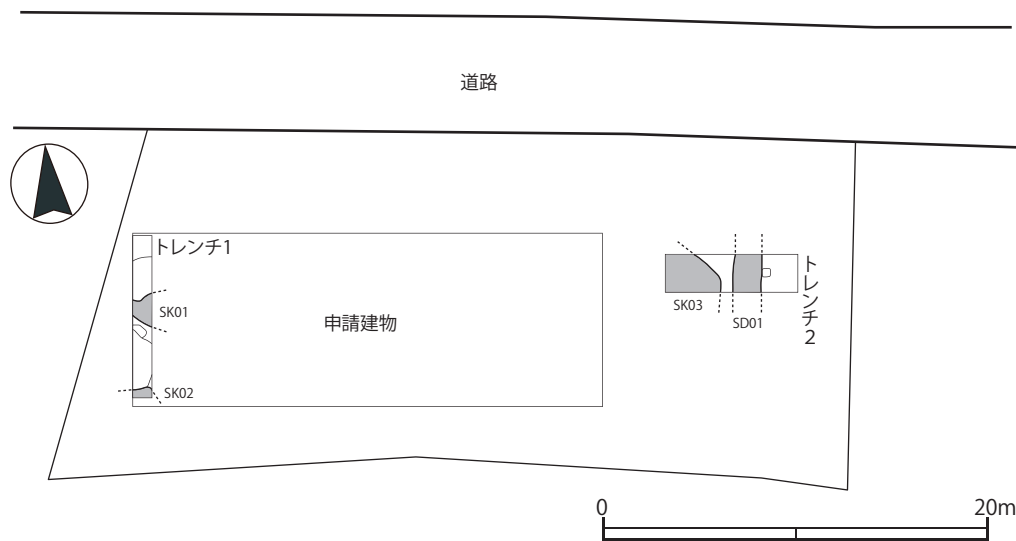
(2) 出土遺物 なし。

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構が確認され、申請建物部分については30cm以上の保護層を確保できるものの、設計通りに施工されるかを確認するため工事立会扱い、抜根予定地についても工事立会扱いとした。

(米川)



第71図 坏遺跡(第13地点)の位置



第72図 坏遺跡(第13地点)のトレンチ配置



写真88 トレンチ1掘削状況(北から)



写真89 トレンチ1確認面深度(北から)



写真 90 トレンチ 2 掘削状況 (西から)



写真 91 トレンチ 2 確認面深度 (北から)

2-29 坏遺跡 (第 14 地点)

所在地 水戸市河和田 3 丁目 2376-1, 2376-2

開発面積 1,420 m²

調査期間 平成 22 年 7 月 6 日 (第 1 次試掘調査)
平成 22 年 10 月 29 日 (第 2 次試掘調査)

調査面積 36.0 m² (第 1 次試掘調査)
42.0 m² (第 2 次試掘調査)

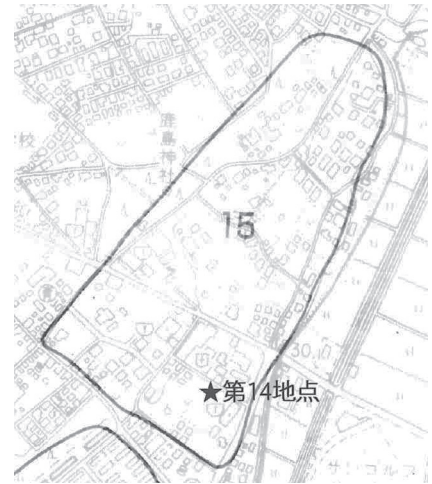
調査原因 個人住宅建築

調査担当 川口武彦, 三浦健太

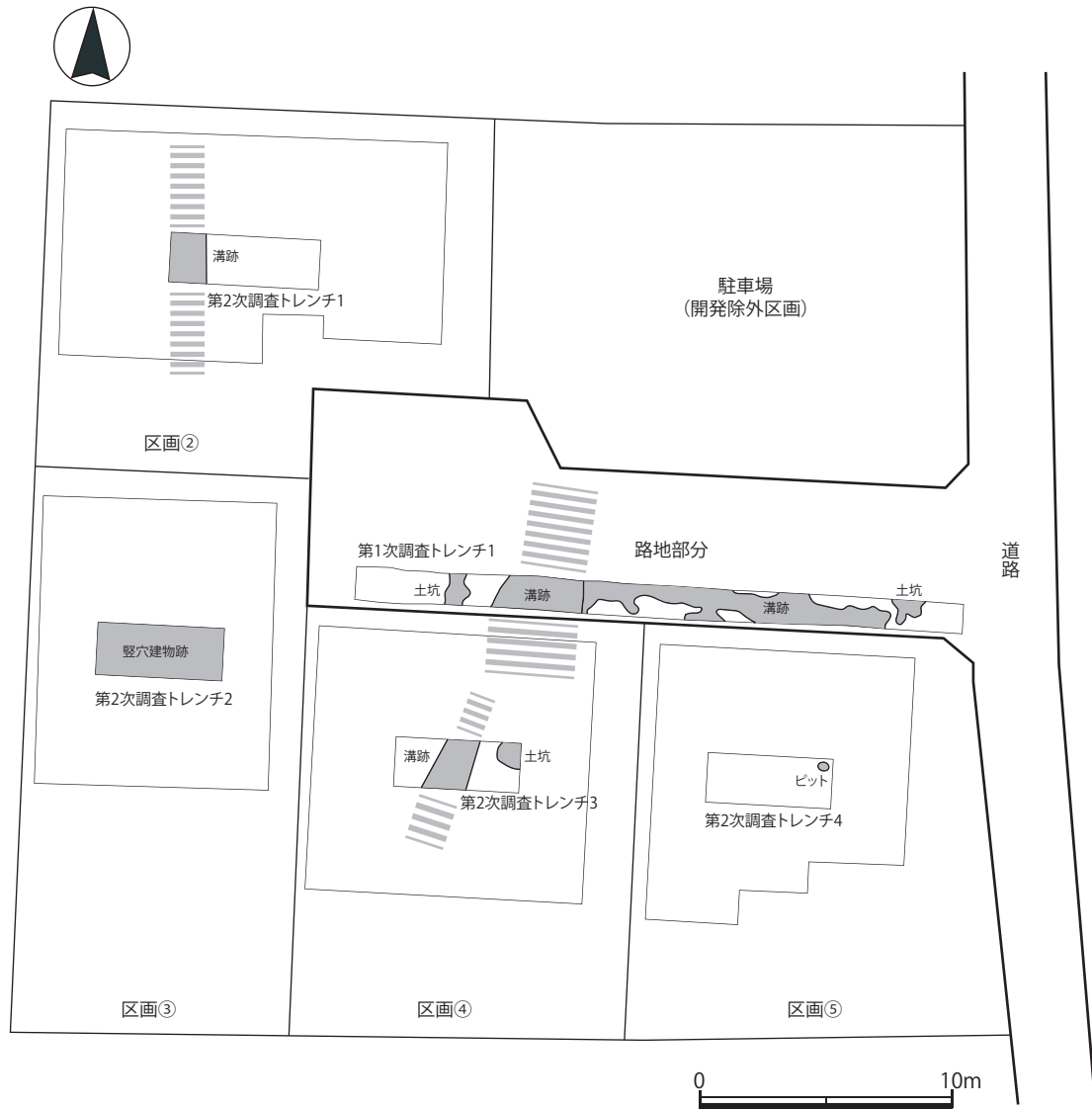
調査方法 開発対象地内のうち進入道路部分にトレンチ 1 本 (第 1 次調査), 宅地部分にトレンチ 4 本 (第 2 次調査) を設定し (第 74 図), 重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要 第 1 次試掘調査トレンチ 1 24.0m × 1.5 m。地表下 70 ~ 90cm の深さで関東ローム層上面が確認されるとともに中世以降の溝跡 2 条, 土坑 2 基が検出された。遺物は土師質土器片が少量出土した。第 2 次試掘調査トレンチ 1 6.0m × 2.0 m。地表下 60cm の深さで関東ローム層上面が確認されるとともに中世以降の溝跡 1 条が検出された。遺物は土師器片が出土した。第 2 次試掘調査トレンチ 2 5.0m × 2.0 m。地表下 35cm の深さで黒色土が面的に広がっている状況が確認され, さらに掘り下げたところ, 竪穴建物跡の床面が確認された。遺物は土師器が出土した。第 2 次調査トレンチ 3 5.0m × 2.0 m。地表下 70cm の深さで関東ローム層上面が確認されるとともに中世以降の溝跡 1 条が検出された。遺物は土師器片が少量出土した。第 2 次試掘調査トレンチ 4 5.0m × 2.0 m。地表下 60cm の深さで関東ローム層上面が確認されるとともにピット 1 基が検出された。遺物は土師器片が少量出土した。

(2) 出土遺物 第 75 図 1 ~ 9 は第 1 次試掘調査の出土遺物である。1 ~ 8 は縄文時代中期の深鉢形土器の破片で, 1 は中期中葉の阿玉台 Ib 式の口縁部片で, 口唇部には刻み目が, その直下には角押文が連続的に施されている。2 は中期後葉の加曾利 E1 式土器の胴部片で, 外面には縦方向に燃糸文が施されている。3 ~ 7 は地文に縄文が施されており, 加曾利 E 式もしくは大木式の胴部片とみられる。8 は外面に条線が施されており, 中期後葉の加曾利 E3 式もしくは加曾利 E4 式の胴部片とみられる。9 は須恵器坏の底部 ~ 体部片で, 胎土に海绵状骨針が含まれていることから木葉下窯跡群の製品と考えられる。口縁部は残存していないが, 推定される口縁部径に比して底部の径が小さいことから 9 世紀以降の製品であろう。10 は土師質土器の内耳土鍋と考えられる。中世の遺物であろう。第 75 図 -10 ~ 18 は第 2 次試掘調査の出土遺物である。11 ~ 15 は縄文時代中期の深鉢形土器の破片で, 11 は中期後葉加曾利 E2 式の連弧文系土器の口縁部片で, 口唇部無文帯の直下に二条の横走る沈線文を描き, その間に連続する刻み目を施している。下半は単節 LR 縄文が施されている。12 は口唇部直下に半円形の沈線文が描かれており, 口唇部は刻み目文が施されている。中期後葉の曾利式であろうか。13 ~ 15 は胴部の破片である。13 は単節 LR 縄文を施した後, 縦走る沈線文により磨り消している。中期後葉加曾利 E2 式 ~ E3 式であろう。14 は



第 73 図 坏遺跡 (第 14 地点) の位置



第74図 坏遺跡（第14地点）のトレンチ配置



写真92 第1次調査トレンチ掘削状況（西から）



写真93 第1次調査トレンチ土坑検出深度（南西から）



写真 94 第 1 次調査トレンチ溝跡検出深度 (南西から)

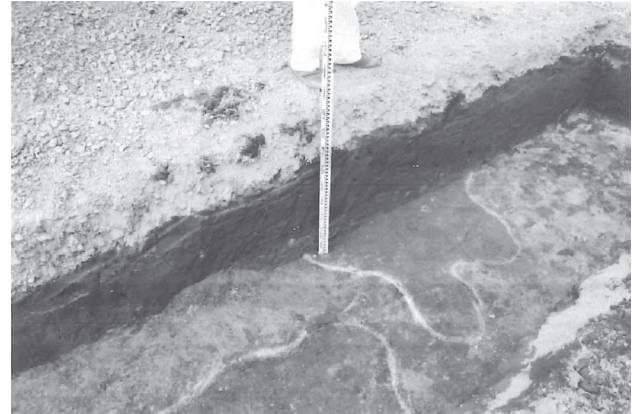


写真 95 第 1 次調査トレンチ土坑検出深度 (南西から)



写真 96 第 2 次調査トレンチ 1 遺構検出状況 (東から)



写真 97 第 2 次調査トレンチ 1 遺構検出深度 (南東から)



写真 98 第 2 次調査トレンチ 2 床面検出状況 (東から)



写真 99 第 2 次調査トレンチ 2 床面検出深度 (南から)

地文に単節 LR 縄文が施されており、加曾利 E 式もしくは大木式の 15 は外面に条線が施されており、中期後葉の加曾利 E3 式もしくは加曾利 E4 式の胴部片とみられる。16 は定角式磨製石斧である。刃部には剥離痕が認められ、挟んでいることから、使用による欠損と考えられる。17 は土師器の甕の胴部片で、外面には刷毛目が顕著に認められる。古墳時代前期の遺物であろう。18 は直径が小さく肉厚な土師器の底部片であるが、時代については判然としない。

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構が確認されたことから事業者と協議をおこなった。進入道路部分については、道路構造令に準拠しない規格となることから、工事立会扱いとした。申請建物部分については、30cm 以上の保護層の確保の可否を 4 棟の建て主と協議したが、いずれも 30cm 以上の保護層の確保が困難との結論に達した



写真 100 第 2 次調査トレンチ 3 遺構検出状況 (西から)



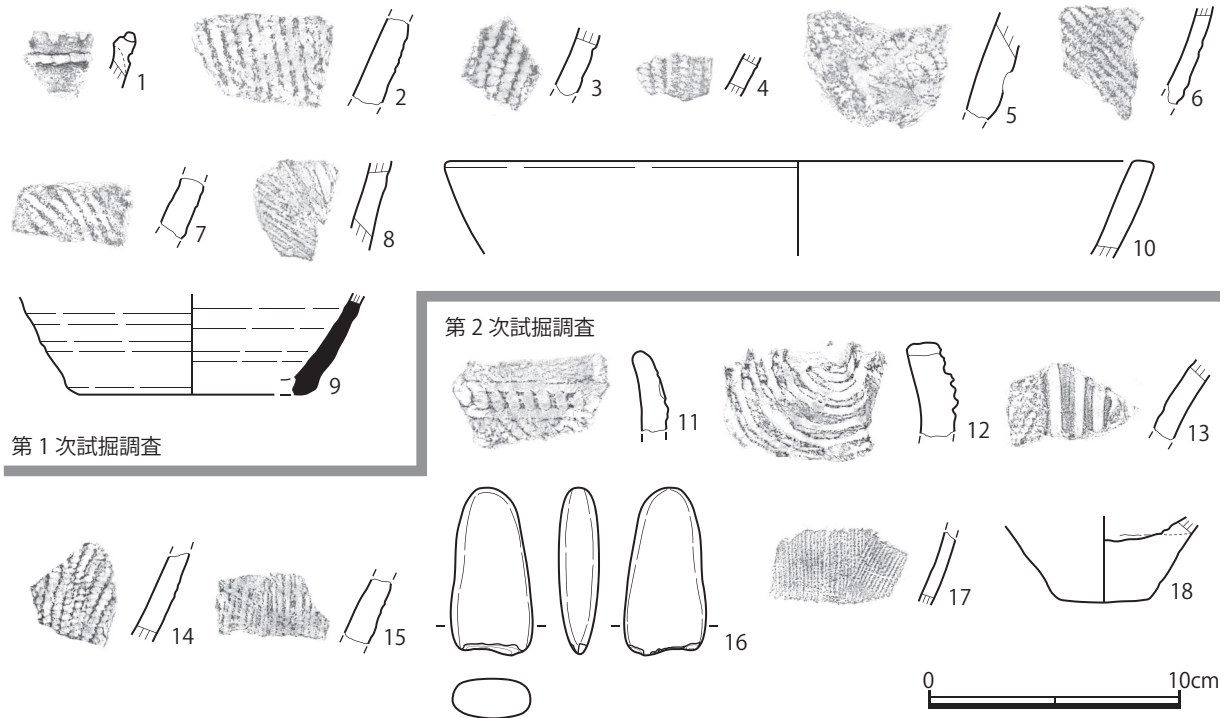
写真 101 第 2 次調査トレンチ 3 遺構検出深度 (南西から)



写真 102 第 2 次調査トレンチ 4 遺構検出状況 (西から)



写真 103 第 2 次調査トレンチ 4 遺構検出深度 (南から)



第 75 図 坏遺跡 (第 14 地点) 出土遺物

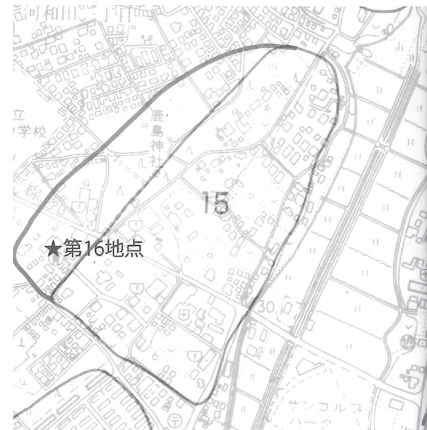
ことから、平成 23 年 4 月 11 日から 5 月 31 日の期間に 4 棟の建物部分について、記録保存を目的とした本発掘調査を実施した。各区画の調査については、今後刊行を予定している『平成 23 年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』に収録予定である。
(川口)

2-30 坏遺跡 (第 16 地点)

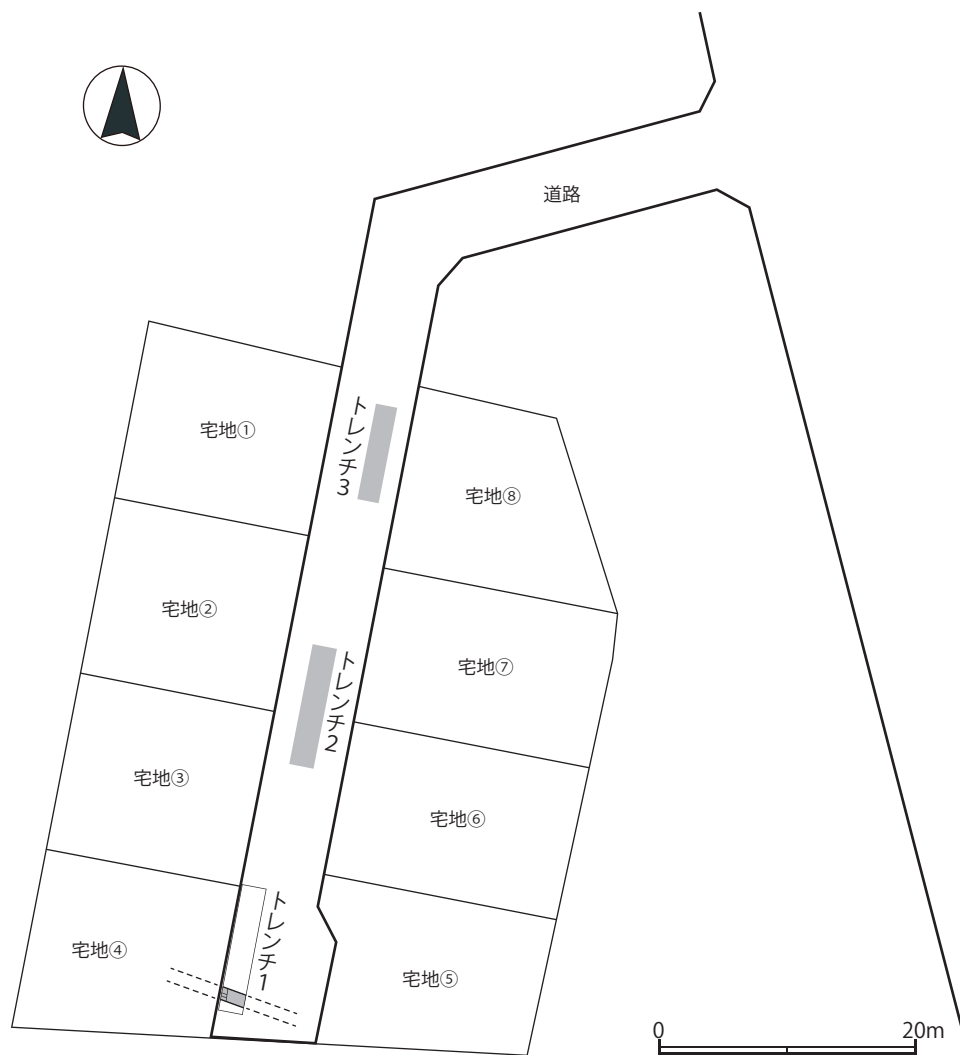
所在地 水戸市河和田 2 丁目 1713-10 外
 開発面積 2,183.04 m²
 調査期間 平成 23 年 2 月 4 日
 調査面積 60.0 m²
 調査原因 宅地造成
 調査担当 川口武彦, 三浦健太

調査方法 開発対象地内のうち道路部分にトレンチ 3 本を設定し (第 77 図), 重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要 トレンチ 1 10.0m × 2.0 m。地表下 70 ~ 80cm の深さで関東ローム層上面が確認されるとともに、南端において東西方向の溝跡が 1 条検出された。遺物は溝跡の覆土上面より奈良・平安時代の土師器片と縄文土器片が少量出土した。トレンチ 2 10.0m ×



第 76 図 坏遺跡 (第 16 地点) の位置



第 77 図 坏遺跡 (第 16 地点) のトレンチ配置



写真 104 トレンチ 1 溝跡検出状況 (南から)

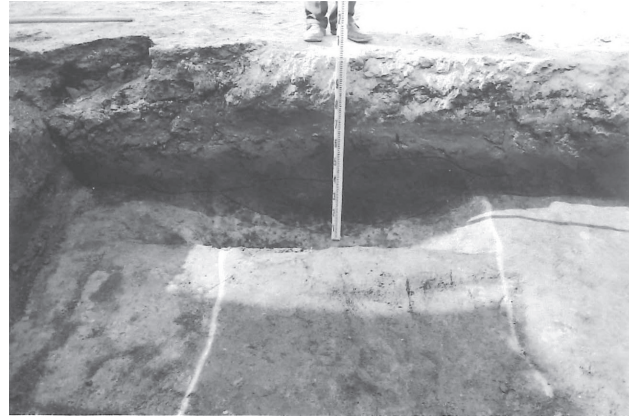


写真 105 トレンチ 1 溝跡検出深度 (東から)



写真 106 トレンチ 2 掘削状況 (南から)

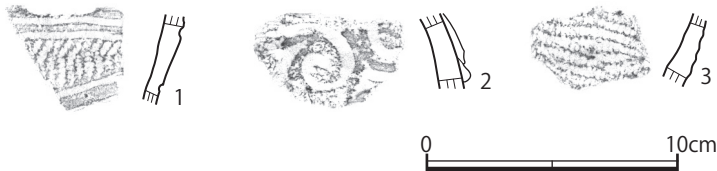


写真 107 トレンチ 3 掘削状況 (南から)

2.0 m。地表下 60～70cm の深さで関東ローム層上面が確認されたが、遺構は確認されなかった。遺物は縄文土器片が 1 点出土した。トレンチ 3 10.0m×2.0m。地表下 60～80cm の深さで関東ローム層上面が確認されたが、遺構は確認されなかった。遺物は縄文土器片が 1 点出土した。

(2) 出土遺物 第 78 図 -1～3 はトレンチ 1 の溝跡より出土した縄文土器の深鉢形土器である。1 は胴部の破片とみられ、単節 LR 縄文を横位に回転施紋したのち、2 条の沈線で磨り消して区画を創り出している。中期の加曾利 E 式土器あるいは大木式であろうか。2 は口縁部に近い位置の破片とみられ、隆帯により渦巻き文を創出している。中期の加曾利 E2 式であろう。3 は胴部の破片で、単節 LR 縄文を縦位に回転施紋している。中期の加曾利 E 式土器あるいは大木式であろう。

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構が確認されたことから事業者と協議をおこなった。道路部分については、道路構造令に準拠しない規格となることから、工事立会扱いとした。(川口)



第 78 図 坏遺跡 (第 16 地点) 出土遺物

2-31 薬王院東遺跡（第2地点第3次区画No.2）

所在地 水戸市元吉田町字東組 573 番 15
 開発面積 200.48 m²
 調査期間 平成 22 年 7 月 15 日～7 月 16 日
 調査面積 6.0 m²
 調査原因 個人住宅建築
 調査担当 米川暢敬

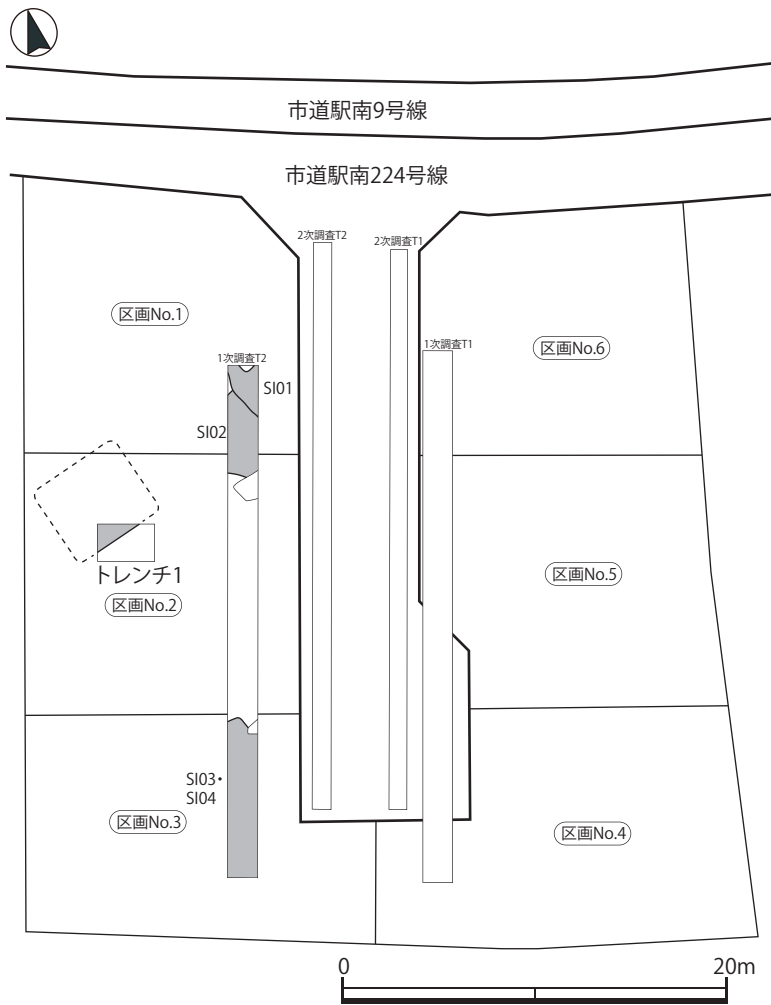
調査方法 開発対象地内のうち申請建物部分にトレンチを 1 本設定し（第 80 図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要 トレンチ 1 3.0m × 2.0 m。地表下 80cm の深さで関東ローム層上面が確認されるとともにトレンチの北西隅において、竪穴建物跡とみられるプランが 1 軒確認された。主軸は北西方向にやや傾いており、市立千波中学校建設に伴い実施された第 1 地点の発掘調査でも、弥生時代後期の竪穴建物跡が 9 軒確認されており、いずれも北西方向に主軸を傾けていることから、本トレンチで確認された竪穴建物跡は弥生時代後期の所産である可能性が考えられる。ただし、第 1 地点の調査で確認された奈良・平安時代の竪穴建物跡の中には北西方向に主軸を傾げるものも数軒確認されていることから、帰属時期については幅を持たせておくのが穏当であろう。遺物は覆土上面より弥生土器・土師器片が数点出土した。

(2) 出土遺物 第 81 図-1～3 は弥生土器の壺形土器の破片である。いずれも後期後葉の十王台式土器と考えられる。



第 79 図 薬王院東遺跡（第 2 地点第 3 次）の位置



第 80 図 薬王院東遺跡（第 2 地点第 3 次区画 No.2）のトレンチ配置

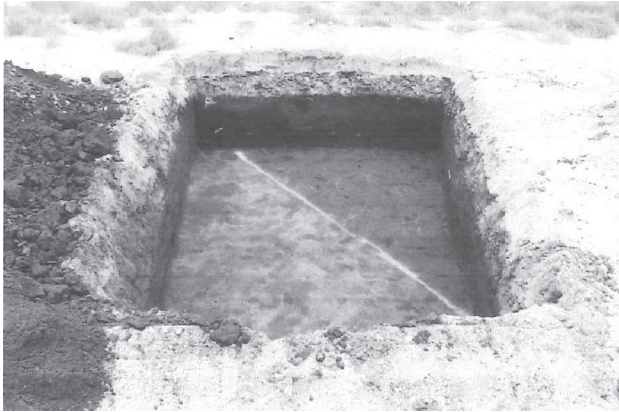


写真 108 トレンチ 1 遺構検出状況 (南から)

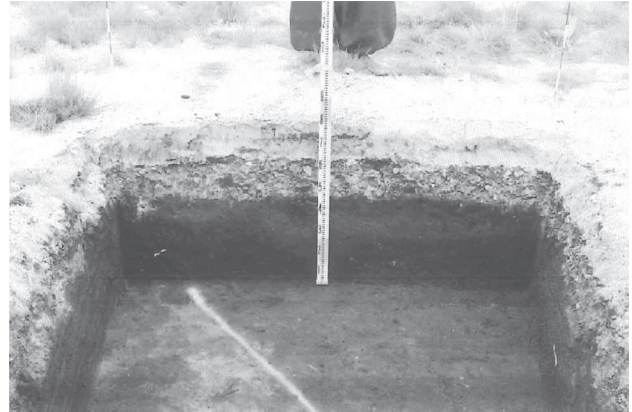
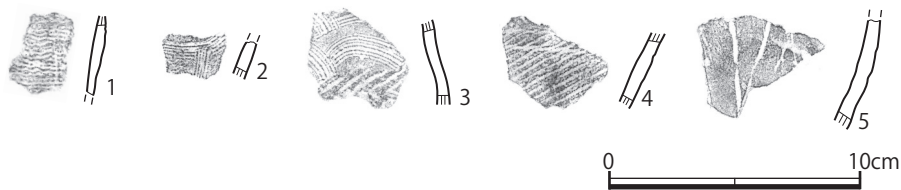


写真 109 トレンチ 1 遺構検出深度 (南から)



第 81 図 薬王院東遺跡 (第 2 地点第 3 次区画 No.2) 出土遺物

1～2 は頸部の破片とみられ、外面には櫛歯状工具による波状文や連続弧線文が描かれている。3 は頸部～胴部上半にかけての破片とみられ、外面には櫛歯状工具による連続弧線文と附加条縄文が施紋されている。4 は胴部の破片みられ、附加条縄文が施紋されている。5 は土師器の胴部片である。外面は縦方向にヘラケズリが施されている。古墳時代後期以降の所産であろう。

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構が確認され、申請建物部分については 30cm 以上の保護層を確保できるものの、設計通りに施工されるかを確認するため工事立会扱いとした。(米川)

2-32 薬王院東遺跡 (第 2 地点第 3 次区画 No.3)

所在地 水戸市元吉田町字東組 573 番 16

開発面積 198.28 m²

調査期間 平成 22 年 7 月 15 日～7 月 16 日

調査面積 6.0 m²

調査原因 個人住宅建築

調査担当 米川暢敬

調査方法 開発対象地内のうち申請建物部分にトレンチを 1 本設定し (第 82 図)、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要 トレンチ 1 3.0m × 2.0 m。地表下 90cm の深さで関東ローム層上面が確認されるとともにトレンチの北西隅において、竪穴建物跡と判断されるプランが確認された。位置関係から、第 1 次調査のトレンチ 2 において確認されていた竪穴建物跡 SI03・SI04 と同一遺構と考えられる。遺物は旧耕作土中より土師器の細片が数点出土した。

(2) 出土遺物 図化に耐えうる資料はなかった。

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構が確認され、申請建物部分については 30cm 以上の保護層を確保できるものの、設計通りに施工されるかを確認するため工事立会扱いとした。(米川)

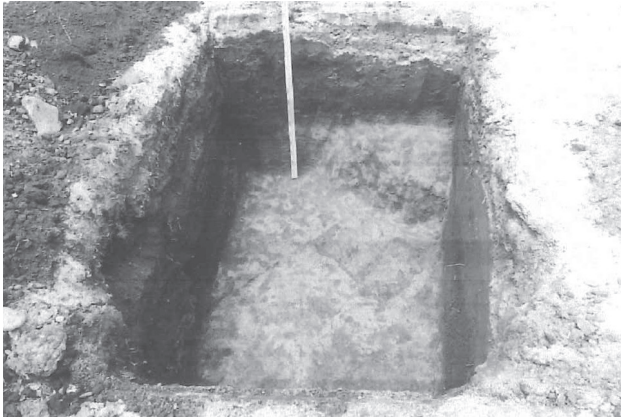


写真 110 トレンチ 1 遺構検出状況（東から）

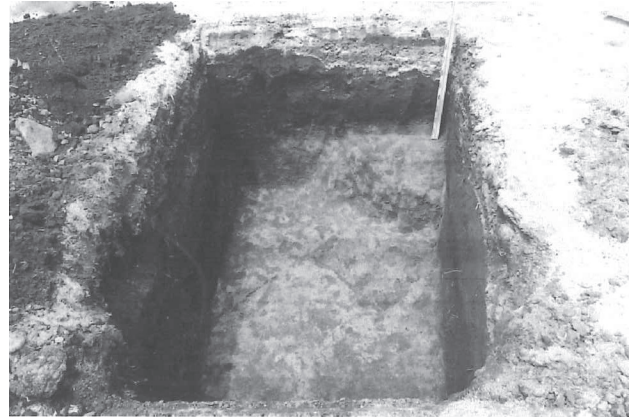
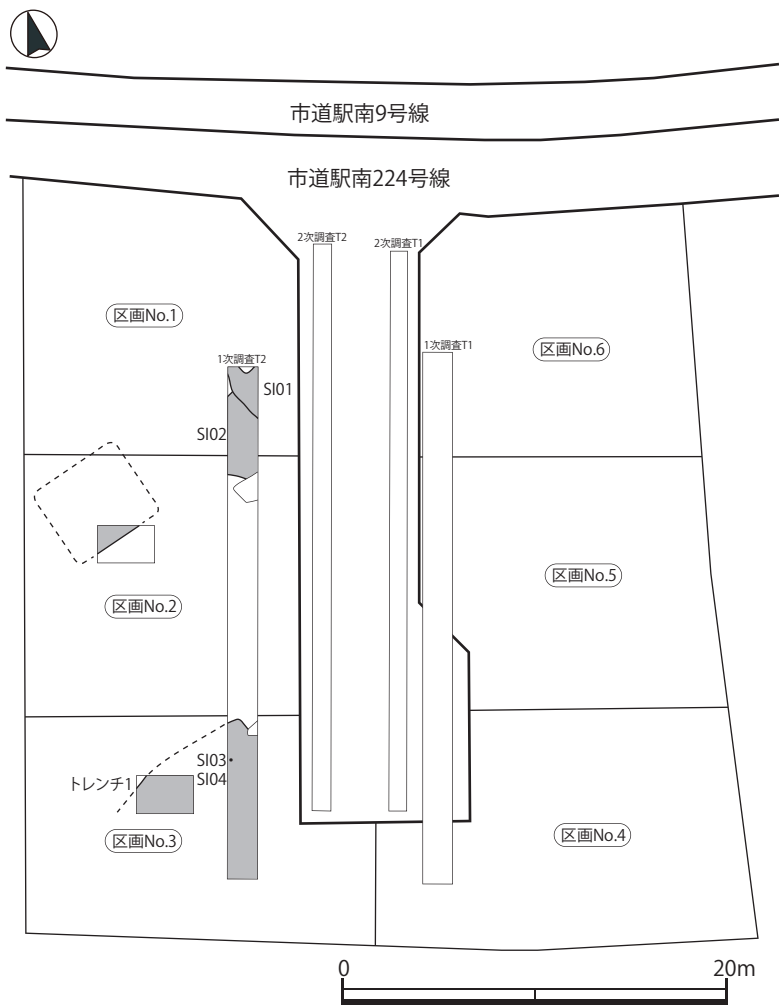


写真 111 トレンチ 1 遺構底面検出深度（東から）



第 82 図 薬王院東遺跡（第 2 地点第 3 次区画 No.3）のトレンチ配置

2-33 薬王院東遺跡（第2地点第3次区画No.6）

所在地 水戸市元吉田町字東組 573 番 20

開発面積 188.17 m²

調査期間 平成 23 年 2 月 10 日

調査面積 9.6 m²

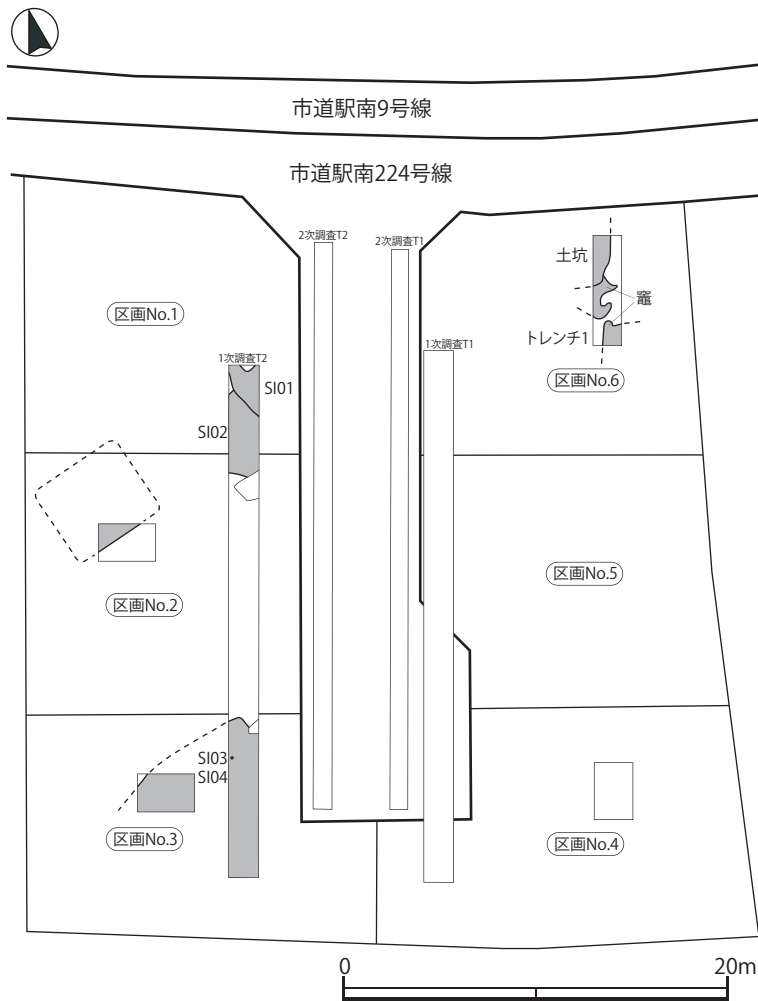
調査原因 個人住宅建築

調査担当 川口武彦・三浦健太

調査方法 開発対象地内のうち申請建物部分にトレンチを1本設定し（第83図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要 トレンチ1 6.0m × 1.6 m。地表下 90cm の深さで関東ローム層上面が確認されるとともに平安時代の竪穴建物跡の竈2基と土坑1基とみられるプランが検出された。竪穴建物跡の竈2基のうち1基は東竈で土坑に切られる形で検出された。遺物は土師器・須恵器片が少量出土した。千波中学校建設に伴い実施された第1地点の調査では、東竈を有する竪穴建物跡は全て平安時代に帰属するもので、9世紀第1四半期が1軒(18号)、9世紀第3四半期が1軒(21号)、9世紀第4四半期が3軒(2号・4号・24号)、9世紀第4四半期～10世紀第1四半期が1軒(11号)、10世紀第1四半期～第2四半期が1軒(27号)、10世紀第4四半期が1軒(30号)と平安時代前半から半ばにかけて8軒分確認されている（井上編 1990）。こうした状況からみて、当トレンチで確認された竪穴建物跡2軒のうち、北側で土坑と重複するものについては平安時代の遺構と理解して差し支えないだろう。

(2) 出土遺物 第84図1は遺構確認面より出土した土師器の坏である。内外面ともにロクロ水挽整形痕が認められ、底部は右回転の糸切り痕が残されている。内面黒色処理が施されていないこと、形態の特徴などから10世紀第2四半期～第3四半期くらいの年代が想定されようか。2は遺構確認面より出土した土師器の高台付椀である。内面



第83図 薬王院東遺跡（第2地点第3次区画No.6）のトレンチ配置



写真 112 トレンチ 1 遺構検出状況 (北から)

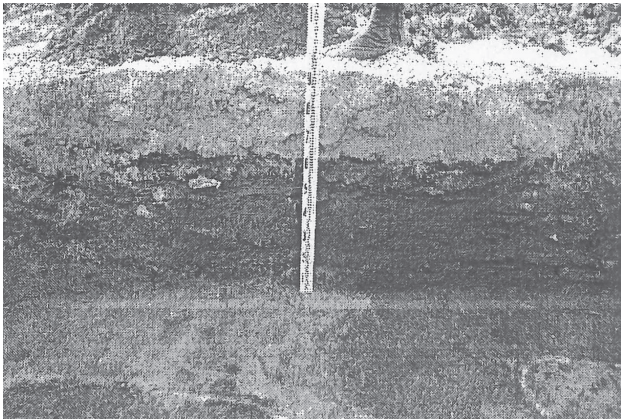


写真 113 トレンチ 1 遺構検出深度 (東から)

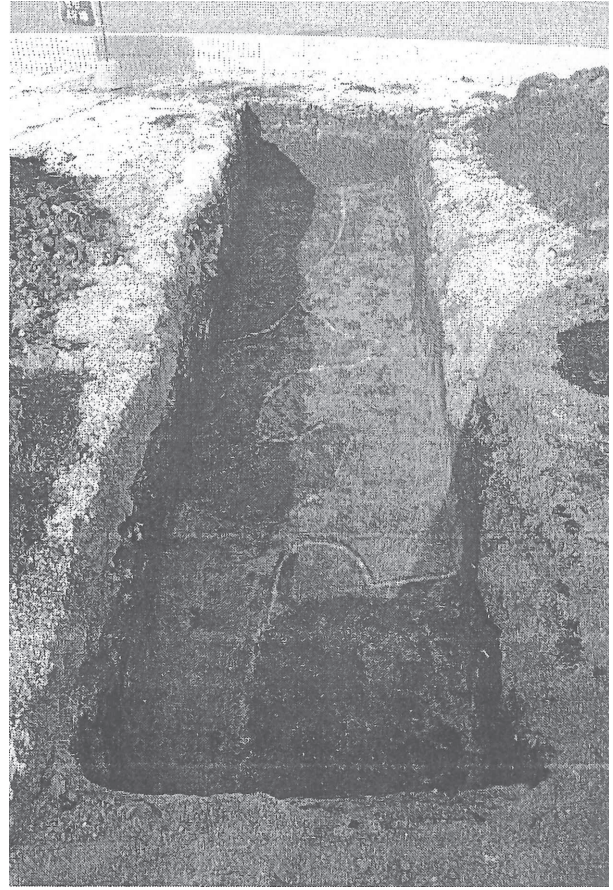
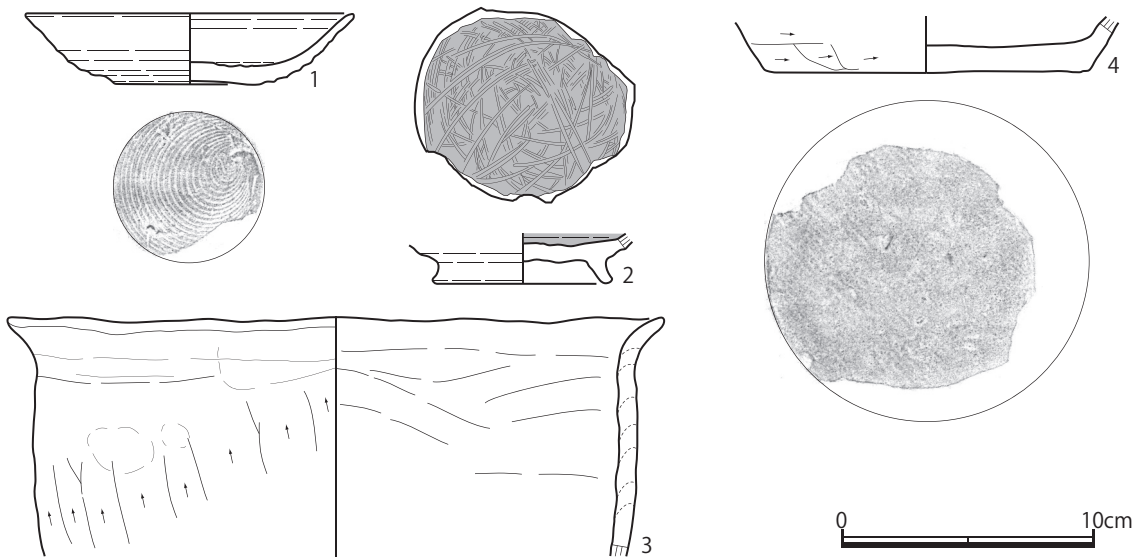


写真 114 トレンチ 1 遺構検出状況 (南から)



第 84 図 薬王院東遺跡 (第 2 地点第 3 次区画 No.6) 出土遺物

は丁寧なミガキに加えて黒色処理が施されている。外面はロクロ水挽整形痕が認められる。その形状から 9 世紀第 4 四半期～ 10 世紀第 1 四半期くらい年代が与えられる。3・4 は同一個体の可能性がある土師器の甕である。胴部外面はタテ方向のヘラケズリ、内面は斜め方向のナデ調整、底部付近は外面が横方向のヘラケズリ、底面はナデ調整が施されている。年代については、1～2 の土師器と近い時期が想定される。

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構が確認され、申請建物部分については 30cm 以上の保護層を確保できるものの、設計通りに施工されるかを確認するため工事立会扱いとした。(川口)

2-34 堀遺跡 (第3地点区画 No.1)

所在地 水戸市渡里町字高野台 3231 番 10

開発面積 1778.53 m²

調査期間 平成 22 年 12 月 1 日

調査面積 9.45 m²

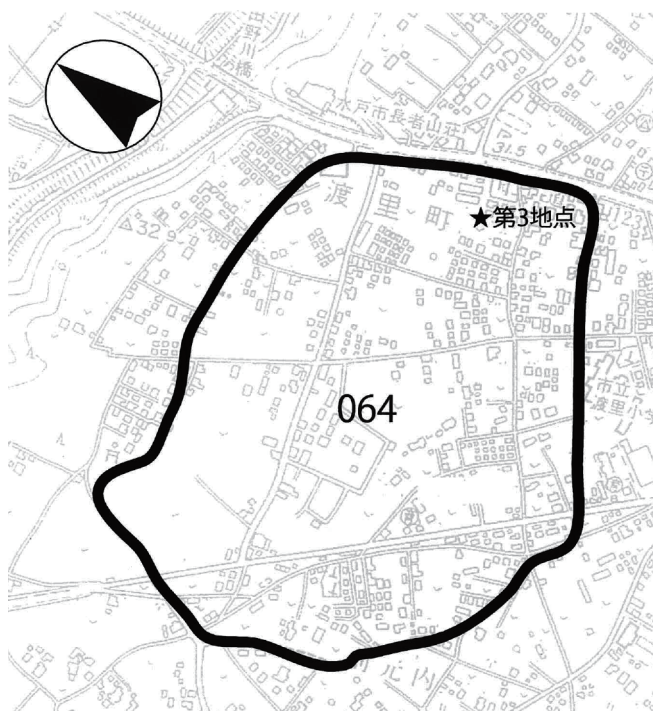
調査原因 個人住宅建築

調査担当 川口武彦, 三浦健太

調査方法 開発対象地内のうち申請建物部分にトレンチを 1 本設定し (第 86 図), 重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要 トレンチ 1 6.4m × 1.5 m。地表下 95 ~ 100cm の深さで関東ローム層上面が確認されるとともに古墳時代終末期と奈良・平安時代の竪穴建物跡とみられるプランが 2 軒重複する形で確認された (第 86 図)。遺物は遺構確認面より土師器・須恵器片が多数出土した。

(2) 出土遺物 第 87 図 1 ~ 6 はトレンチより出土した須恵器である。1 ~ 4・6 は木葉下窯跡群, 5 は山田窯跡群の製品とみられる。1 ~ 2 は無台坏, 3 ~ 4 が有台坏, 5 ~ 6 は坏蓋である。1 は口縁部 ~ 体部を残す有台坏で, 内外面ともにロクロ水挽整形痕が見られる。特に外面の水挽整形痕は稜が強く浮き出ている点が特徴的である。底部を欠失しているため二次



第 85 図 堀遺跡 (第 3 地点) の位置



写真 115 トレンチ 1 竪穴建物跡検出状況 (南東から)



写真 116 トレンチ 1 竪穴建物跡検出状況 (北西から)

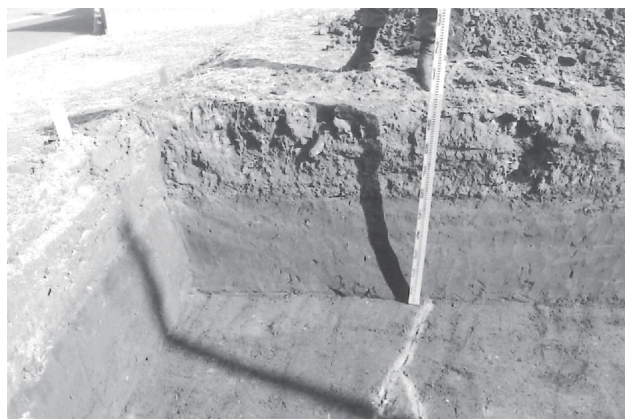
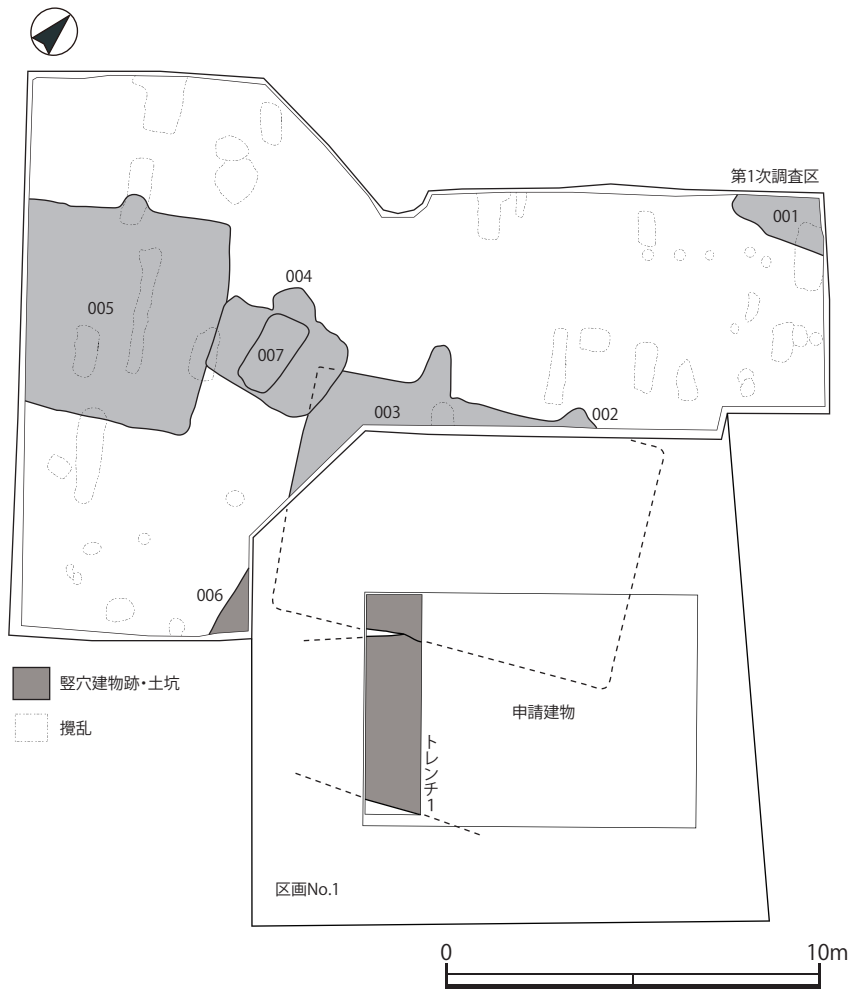


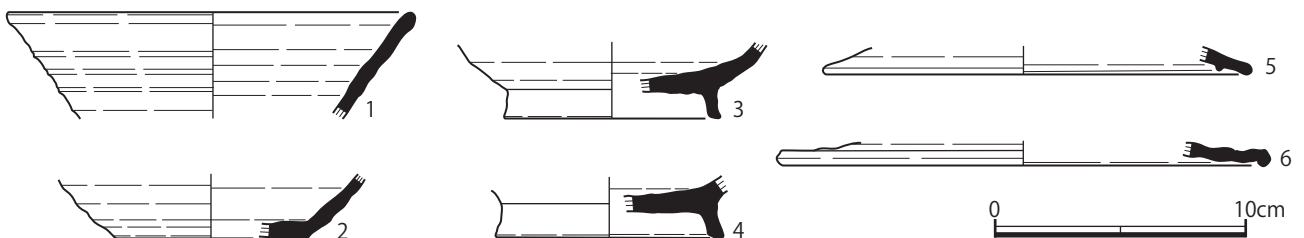
写真 117 トレンチ 1 竪穴建物跡検出深度 (南西から)



写真 118 トレンチ 1 竪穴建物跡検出深度 (南西から)



第 86 図 堀遺跡（第 3 地点区画 No.1）のトレンチ配置と第 1 次調査の遺構配置



第 87 図 堀遺跡（第 3 地点区画 No.1）出土遺物

底部面の有無は不明だが、体部の傾きを見る限りでは 8 世紀第 4 四半期～9 世紀第 1 四半期くらいに位置づけられる可能性が高い。焼成が良好で胎土が堅緻であることもその証左となろう。2 は底部から体部の破片で二次底部面を持たない。内外面ともにロクロ水挽整形痕が見られる。底面には墨書が観察されるが、薄くて文字の判別は不可能である。底部未調整で、底径に比して口径が開くことから、9 世紀第 3 四半期～第 4 四半期くらいに位置づけられる。焼成は良好であるが、胎土がやや軟質であることもその証左となろう。3・4 とともに有台坯の高台部～体部の破片であるが、口縁部や頸部の部分を欠失しているため、全体形状は不明である。強いて言うならば、3 は 9 世紀代、4 は 8 世紀第 4 四半期くらいに位置づけられようか。5・6 はともに坯蓋の破片で、5 は内面に粘土紐貼り付けによる「かえり」を持つ。胎土に雲母を含まないことから、水戸市山田窯跡群の製品とみられ、7 世紀第 4 四半期に位置づけられる。他方、6 は端部を下方へ短く屈曲させ、端部外面に面を形成する「端部 B 類」（佐々木 1997）に分類されるものである。こうした形状の坯蓋は 8 世紀第 1 四半期後半（713 年～724 年）の「TB2 段階」（佐々

木前掲)以降にみられる。

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構が確認され、30cm以上の保護層を確保できるものの、設計通り施工されるかを確認するため、工事立会扱いとした。(川口)

2-35 堀遺跡(第22地点)

所在地 水戸市渡里町字高野台 3307 番 20

開発面積 199.48 m²

調査期間 平成 22 年 7 月 28 日

調査面積 17.25 m²

調査原因 個人住宅建築

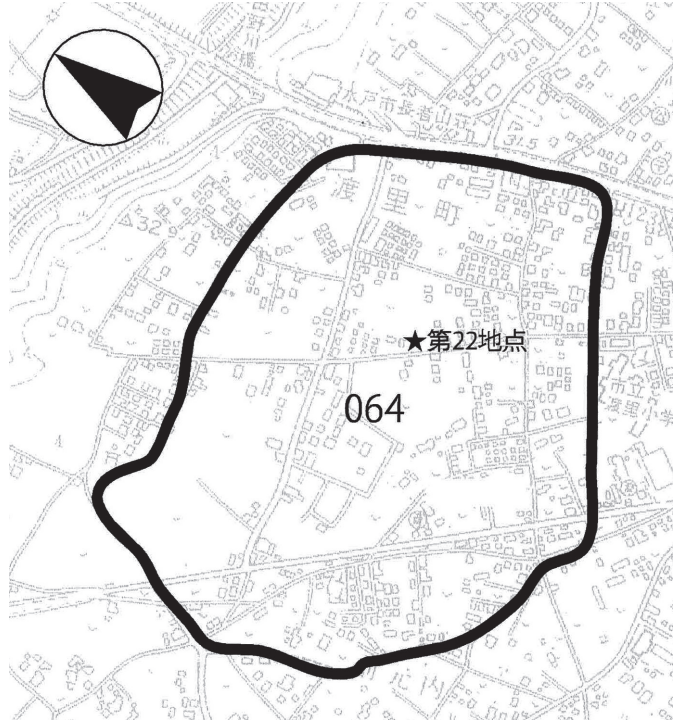
調査担当 川口武彦, 色川順子

調査方法 開発対象地内のうち申請建物部分及び合併浄化槽埋設部分にトレンチを1本ずつ設定し(第89図)、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要 トレンチ1 9.0m×1.5m。地表下90～110cmの深さで関東ローム層上面が確認されるとともに平安時代の溝跡1条、竪穴建物跡1軒が切り合う形で確認された(第89図)。遺物は遺構確認面より土師器・須恵器片が多数出土した。トレンチ2 2.5m×1.5m。地表下90cmの深さで関東ローム層上面が確認されるとともに奈良・平安時代の柱穴とみられるプラン1基が確認された(第89図)。柱穴とみられるプランは円形のプランと隅丸方形のプランが重複するもので、建て替えによる重複か、柱の抜き取りによる重複の可能性が考えられる。

(2) 出土遺物 第90図1はトレンチ1から出土した土師器坏である。体部中央に稜を有し、稜から口縁部にかけては横方向のナデ調整が、稜から底部にかけては反時計回りの方向に横位のヘラ削り調整を施している。内面は口唇部に僅かに漆塗りの痕跡がみられ、横位方向のナデ調整が施されている。胎土に白雲母を多量に含んでいることから、新治窯跡群を中心とする筑波山南麓地域方面からもたらされた搬入品と考えられる。7世紀後半から8世紀初頭頃の製品であろう。2は須恵器有台坏の底部片である。内外面ともにロクロ水挽成形痕が施され、高台部を貼り付けている。胎土に海綿状骨針を含むことから木葉下窯跡群の製品と考えられる。3は須恵器甕の底部片である。内面は横位のナデ調整、外面は時計回りの方向にヘラ削り調整が施されている。胎土にチャート礫を含むことから木葉下窯跡群の製品と考えられる。

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 申請建物直下と合併浄化槽埋設部分より遺構が確認され、30cm以上の保護



第88図 堀遺跡(第22地点)の位置



写真 119 トレンチ1 溝跡・竪穴建物跡検出状況(東から) 写真 120 トレンチ1 溝跡・竪穴建物跡検出深度(南から)

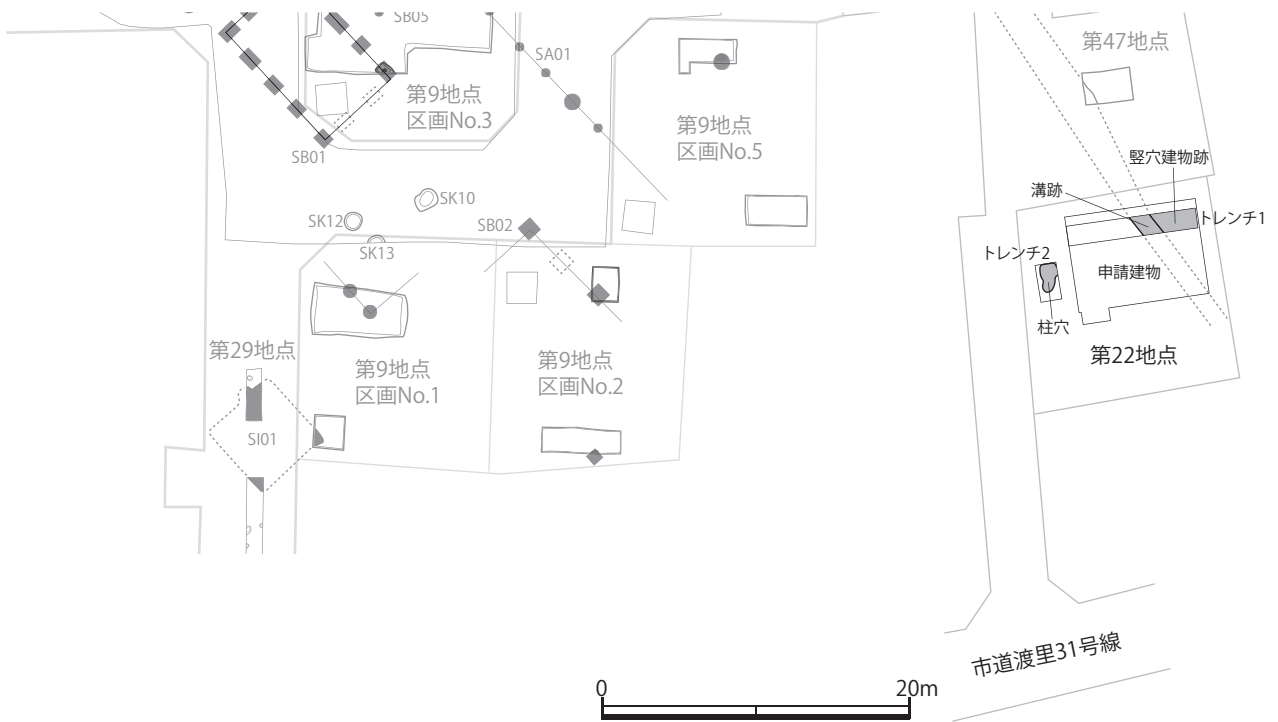
層の確保について事業者と協議を重ねたが、申請建物は地盤改良が必要となり 30cm 以上の保護層の確保が困難であること、合併浄化槽埋設部分も他の場所へ移動できないことから、記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。本発掘調査は、平成 22 年 9 月 9 日～ 10 月 2 日の期間に実施した。調査成果の詳細は本書の「3-5 堀遺跡（第 22 地点第 2 次）」を参照されたい。（川口）



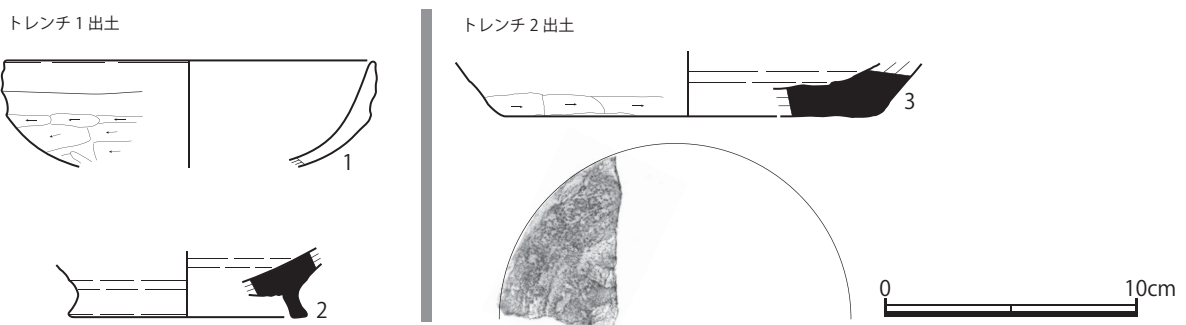
写真 121 トレンチ 2 柱穴検出状況（南から）



写真 122 トレンチ 2 柱穴検出深度（南から）



第 89 図 堀遺跡（第 22 地点）のトレンチ配置



第 90 図 堀遺跡（第 22 地点）出土遺物

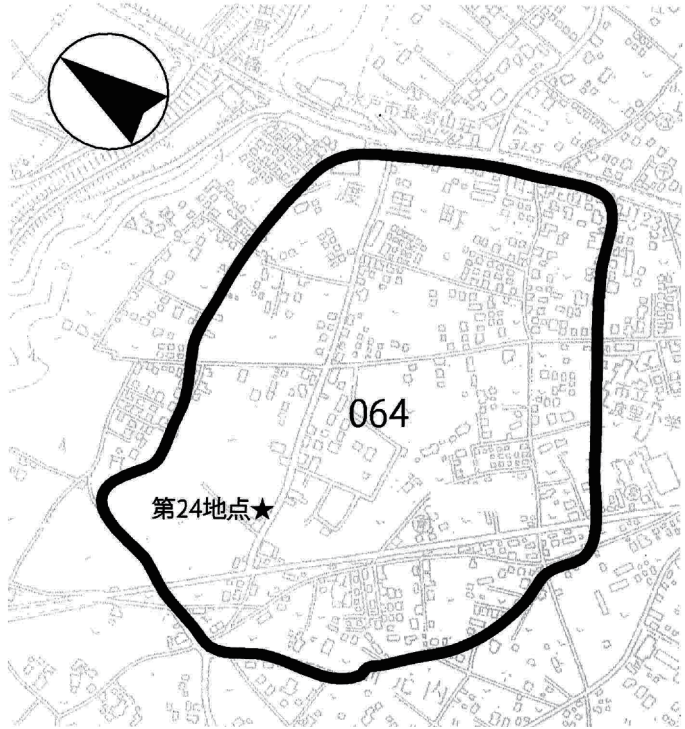
2-36 堀遺跡 (第24地点)

所在地 水戸市堀町字馬場東 307-2, 30-7-3
の一部
開発面積 160.36 m²
調査期間 平成 22 年 8 月 27 日
調査面積 5.7 m²
調査原因 個人住宅建築
調査担当 川口武彦

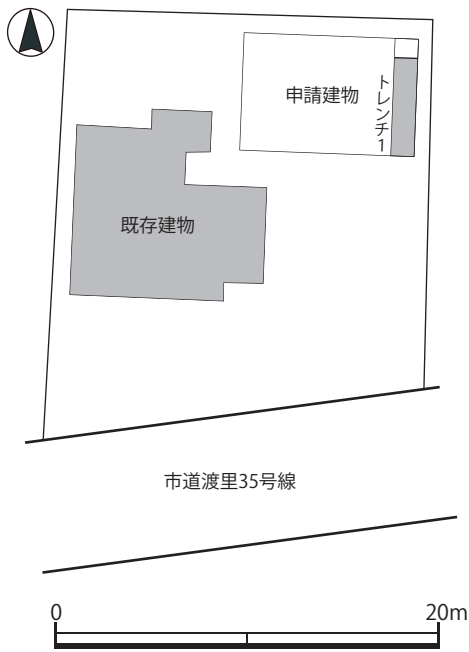
調査方法 開発対象地内のうち申請建物部分に
トレンチを 1 本設定し (第 92 図), 重機を用いて
関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレン
チの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要 トレンチ 1 5.7m × 1.0 m。
地表下 90cm の深さで関東ローム層上面が確認さ
れるとともに竪穴建物跡とみられるプランが確認
された (第 92 図)。遺物は遺構確認面より土師器・
須恵器片が数点出土した。

(2) 出土遺物 第 93 図 1 は須恵器の無台坏である。
(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構が確認
され, 30cm 以上の保護層を確保できるものの,
設計通り施工されるかを確認するため, 工事立会
会扱いとした。 (川口)



第 91 図 堀遺跡 (第 24 地点) の位置



第 92 図 堀遺跡 (第 24 地点) のトレンチ配置



第 93 図 堀遺跡 (第 24 地点) 出土遺物



写真 123 竪穴建物跡検出状況 (南から)



写真 124 竪穴建物跡検出深度 (東から)

2-37 堀遺跡 (第25地点)

所在地 水戸市堀町字馬場東 297-3 番地
 開発面積 250.59 m²
 調査期間 平成 22 年 9 月 15 日
 調査面積 10.0 m²
 調査原因 個人住宅建築
 調査担当 川口武彦

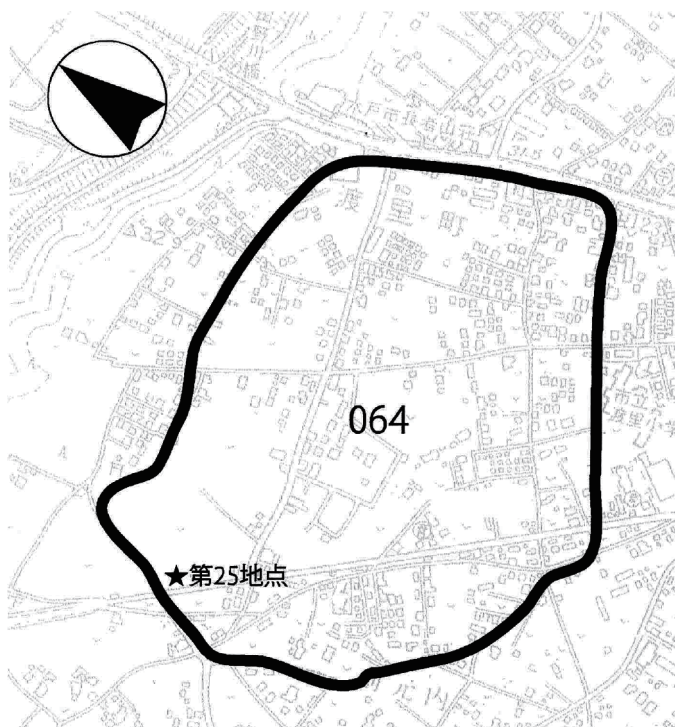
調査方法 開発対象地内のうち申請建物部分及び合併浄化槽埋設部分にそれぞれトレンチを1本ずつ設定し(第95図)、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要 トレンチ1 8.0m × 1.0 m。地表下 90cm の深さで関東ローム層上面が確認されたが、天地返しによる攪乱が著しく、遺構は確認されなかった。遺物は奈良・平安時代の土師器片が1点出土した。トレンチ2 2.0m × 1.0 m。地表下 90cm の深さで関東ローム層上面が確認されたが、天地返しによる攪乱が著しく、遺構は確認されなかった。遺物は奈良・平安時代の土師器片が1点出土した。

(2) 出土遺物 凶化に耐えうる資料はなかった。

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構が確認されなかったことから、慎重工事扱いとした。

(川口)



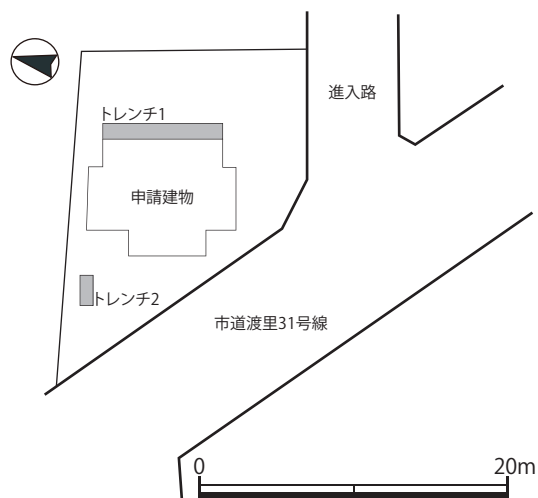
第94図 堀遺跡(第25地点)の位置



写真125 トレンチ1掘削状況(北から)



写真126 トレンチ2掘削状況(東から)



第95図 堀遺跡(第25地点)のトレンチ配置

2-38 堀遺跡 (第28地点)

所在地 水戸市堀町 382-1, 293-3 番地

開発面積 710.29 m²

調査期間 平成 23 年 2 月 16 日

調査面積 30.0 m²

調査原因 個人住宅建築

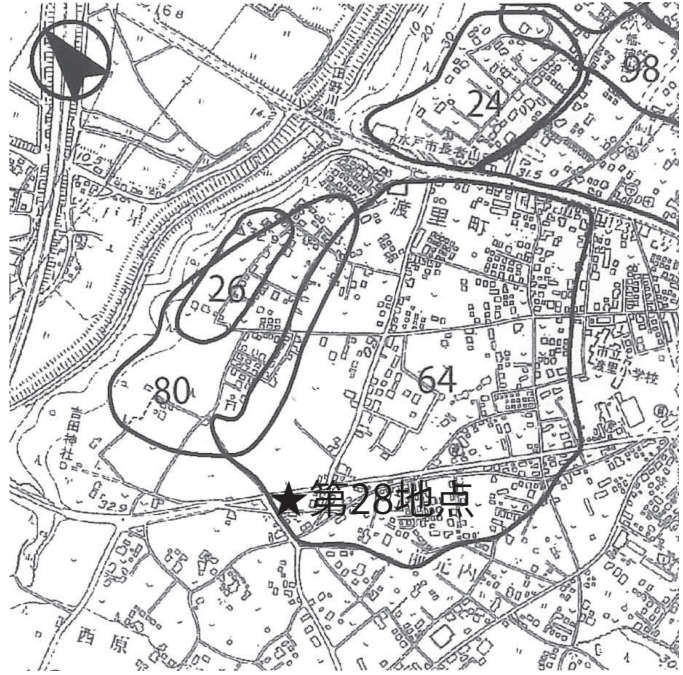
調査担当 米川暢敬, 三浦健太

調査方法 開発対象地内のうち申請建物部分及び合併浄化槽埋設部分にそれぞれトレンチを1本ずつ設定し(第97図), 重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

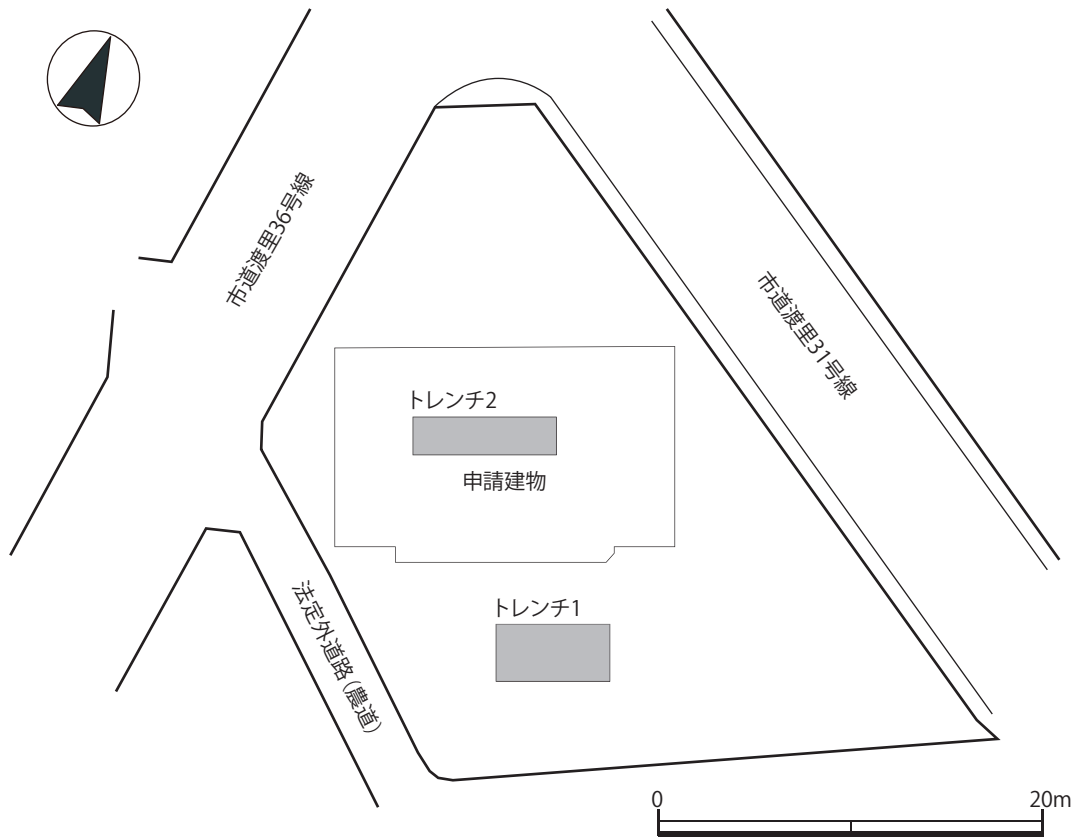
(1) トレンチの概要 トレンチ1 5.0m × 3.0 m。地表下 50cm の深さで関東ローム層上面が確認されたが, 耕作による攪乱が著しく, 遺構は確認されなかった。遺物は奈良・平安時代の土師器・須恵器片が少量出土した。トレンチ2 7.5m × 2.0 m。地表下 52cm の深さで関東ローム層上面が確認されたが, 耕作による攪乱が著しく, 遺構は確認されなかった。遺物は確認されなかった。

(2) 出土遺物 第98図1~4はトレンチ1より

出土した土師器と須恵器である。1は木葉下窯跡群産とみられる須恵器の盤である。内外面ともにロクロ水挽整形痕が見られ, 頸部から口縁部までの距離は短く, こうした形状の盤は9世紀第3四半期にみられることから, 平



第96図 堀遺跡 (第28地点) の位置



第97図 堀遺跡 (第28地点) のトレンチ配置

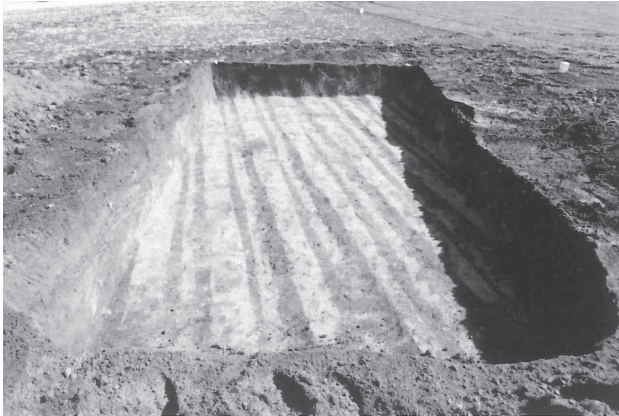


写真 127 トレンチ 1 全景 (西から)



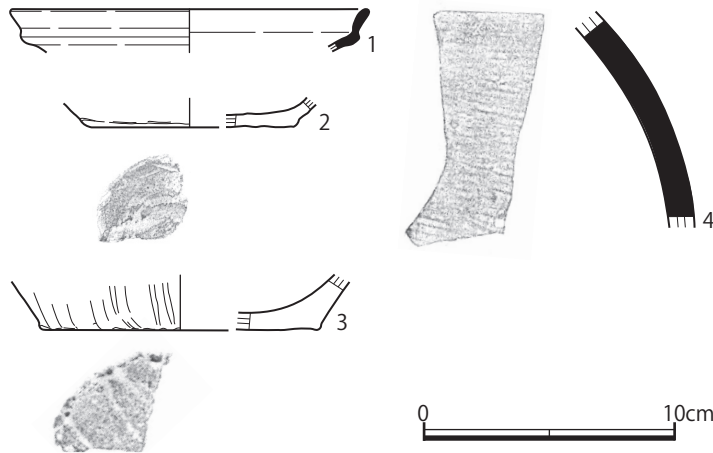
写真 128 トレンチ 1 掘削深度 (西から)



写真 129 トレンチ 2 全景 (西から)



写真 130 トレンチ 2 掘削深度 (西から)



第 98 図 堀遺跡 (第 28 地点) 出土遺物

安時代の遺物と理解しておく。2 は土師器坏である。底部は回転ヘラ起こしの痕跡がみられる。平安時代の遺物であろうか。3 は土師器の甕の底部片で、外面はタテ方向にナデ調整が施されている。4 は木葉下窯跡群産とみられる須恵器の甕の胴部片である。外面には平行線文叩きの痕跡が認められ、内面には当て具痕は見られない。

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構が確認されなかったことから、慎重工事扱いとした。(米川)

2-39 南台遺跡（第3地点）

所在地 水戸市上国井町 3906 番地

開発面積 330,589 m²

調査期間 平成 22 年 8 月 18 日

調査面積 18.60 m²

調査原因 個人住宅建築

調査担当 川口武彦・色川順子

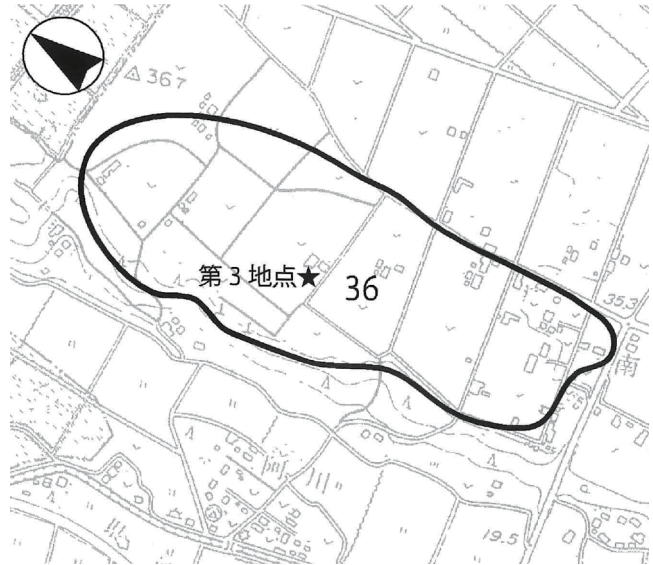
調査方法 開発対象地のうち、申請建物建築予定部分にトレンチを 2 本設定し（第 100 図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要 トレンチ 1 8.2m × 1.5 m。地表下 60cm の深さで関東ローム層上面が確認されたが、耕作に伴う攪乱が著しく、遺構・遺物は確認されなかった。トレンチ 2 4.2m × 1.5 m。地表下 60cm の深さで関東ローム層上面が確認されたが、遺構は確認されなかった。遺物は土師器片が耕作土中より 2 点出土した。

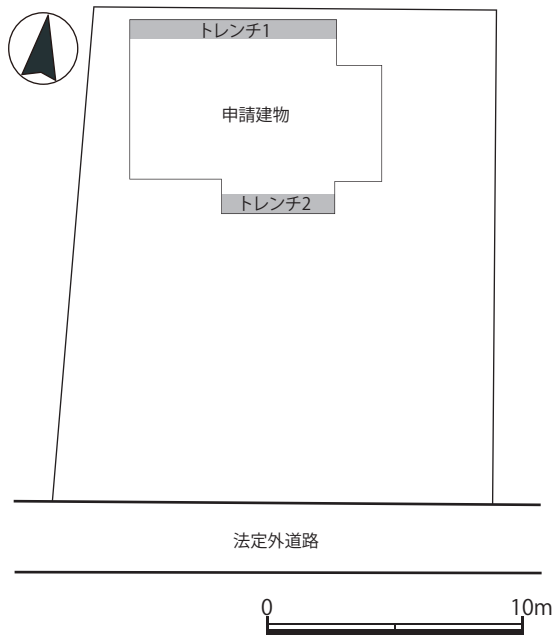
(2) 出土遺物 トレンチ 2 より土師器片 2 点が出土したが、いずれも凶化に耐える資料ではなかった。

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構は確認されなかった事から、慎重工事扱いとした。

（川口）



第 99 図 南台遺跡（第 3 地点）の位置



第 100 図 南台遺跡（第 3 地点）のトレンチ配置



写真 131 トレンチ 1 掘削状況（西から）



写真 132 トレンチ 2 掘削状況（西から）

2-40 アラヤ遺跡（第3地点（台渡里第68次））

所在地 水戸市渡里町字金沢 3111, 字アラヤ
3090-3

開発面積 882.46 m²

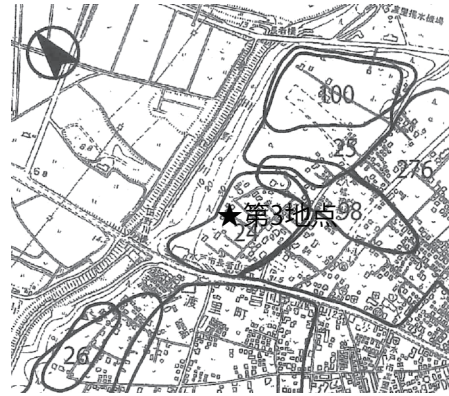
調査期間 平成 22 年 9 月 1 日

調査面積 8.0 m²

調査原因 個人住宅建築

調査担当 米川暢敬・田中恭子・金子千秋

調査方法 開発対象地のうち、申請建物建築予定部分にトレンチを1本設定し（第102図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。



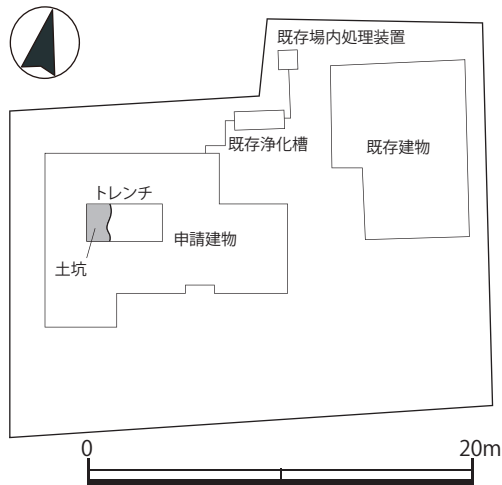
第101図 アラヤ遺跡（第3地点（台渡里第68次））の位置

(1) トレンチの概要 トレンチ 8.0m × 2.0 m。地表下 87cm の深さで関東ローム層上面が確認されるとともに、土坑状のプランが1基確認された。遺物は表土中より縄文土器片と須恵器片が数点出土した。

(2) 出土遺物 第103図1～3は縄文土器の深鉢形土器の胴部片である。1は地文に細かな単節LR縄文を回転施紋した後、沈線とミガキにより磨り消している。内面も丁寧なミガキが施されており、堀之内2式あるいは加曾利B1かB2式の精製土器であろう。2は外面に単節LR縄文が回転施紋され、内面はケズリ調整が施される。堀之内式土器の粗製土器であろう。3は外面に微隆起帯が横走る深鉢形土器の胴部片であるが、型式は不明である。4は木葉下窯跡群産とみられる須恵器無台坯の底部片である。内外面ともにロクロ水挽整形痕が認められ、底部は回転ヘラ切りである。二次底部面を持たない点から、9世紀代の製品と理解してよからう。

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構が確認され、保存について事業者と協議したが、30cm以上の保護層の確保が困難であるとの結論に達した事から、記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。なお、本発掘調査は平成22年10月27日～11月19日の期間に実施した（アラヤ遺跡第3地点（台渡里台73次））。調査成果の詳細については、今後刊行を予定している『平成23年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』に収録予定である。

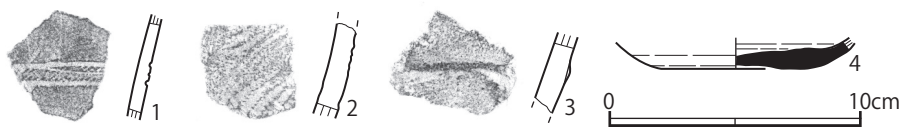
（米川）



第102図 アラヤ遺跡（第3地点（台渡里第68次））のトレンチ配置



写真133 トレンチ掘削状況（東から）



第103図 アラヤ遺跡（第3地点（台渡里第68次））出土遺物

2-41 大鋸町遺跡 (第12地点)

所在地 水戸市元吉田町 2311-7 番地

開発面積 330.57 m²

調査期間 平成 22 年 9 月 10 日

調査面積 15.0 m²

調査原因 個人住宅建築

調査担当 川口武彦

調査方法 開発対象地のうち、申請建物建築予定部分にトレンチを1本設定し(第105図)、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

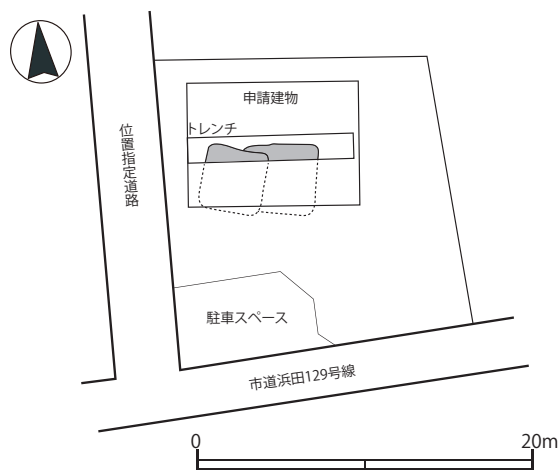
(1) トレンチの概要 トレンチ 10.0m × 1.5 m。地表下 60 ~ 70cm の深さで関東ローム層上面が確認されるとともに、竪穴建物跡とみられるプラン2基が重複する形で検出された。北壁側に竈がみられないことから、古墳時代中期以前に遡る可能性がある。遺物は縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器片が少量出土した。

(2) 出土遺物 第106図1は縄文土器の深鉢形土器の口縁部片である。波状口縁を呈し、突起部には直径6mmほどの孔が穿たれている。地文には単節LR縄文が回転施紋されており、曲線状の沈線により磨り消されている。後期前葉の綱取2式であろう。2~6は弥生土器の壺形土器である。2~4は頸部~口縁部にかけての破片で、5・6は胴部の破片である。2は带状刺突文が施紋された直下に櫛描波状文が横位方向に描かれている。3は縄文を押圧して施紋することにより連続刺突文を描出している。4は横位方向に櫛描波状文を描いた後、縦位方向のスリット(区画文)で区画している。5・6はいずれも附加条縄文が回転施紋されている。紋様の特徴から、2~6はいずれも弥生時代後期十王台式土器の範疇で理解される。

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構が確認され、30cm以上の保護層を確保できるものの、設計通り施工されるかを確認するため、工事立会扱いとした。(川口)



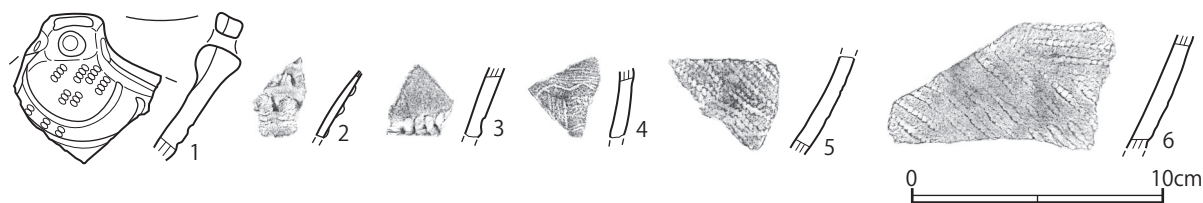
第104図 大鋸町遺跡(第12地点)の位置



第105図 大鋸町遺跡(第12地点)のトレンチ配置



写真134 竪穴建物跡検出状況(東から)



第106図 大鋸町遺跡(第12地点)出土遺物

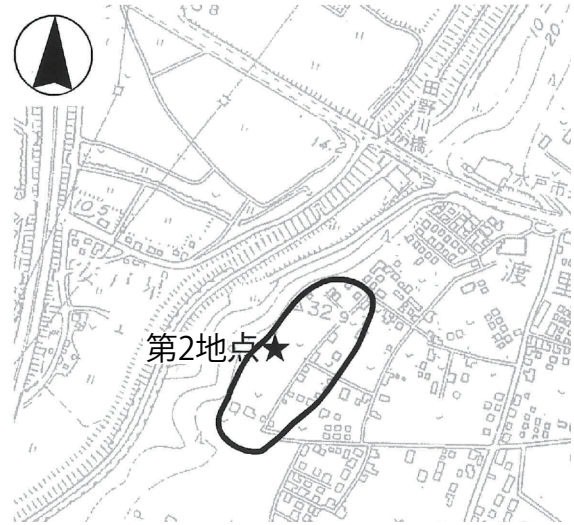
2-42 西原遺跡 (第2地点)

所在地 水戸市渡里町字野木 3387 番 132, 133
 開発面積 494.0 m²
 調査期間 平成 22 年 9 月 15 日
 調査面積 9.3 m²
 調査原因 個人住宅建築
 調査担当 川口武彦

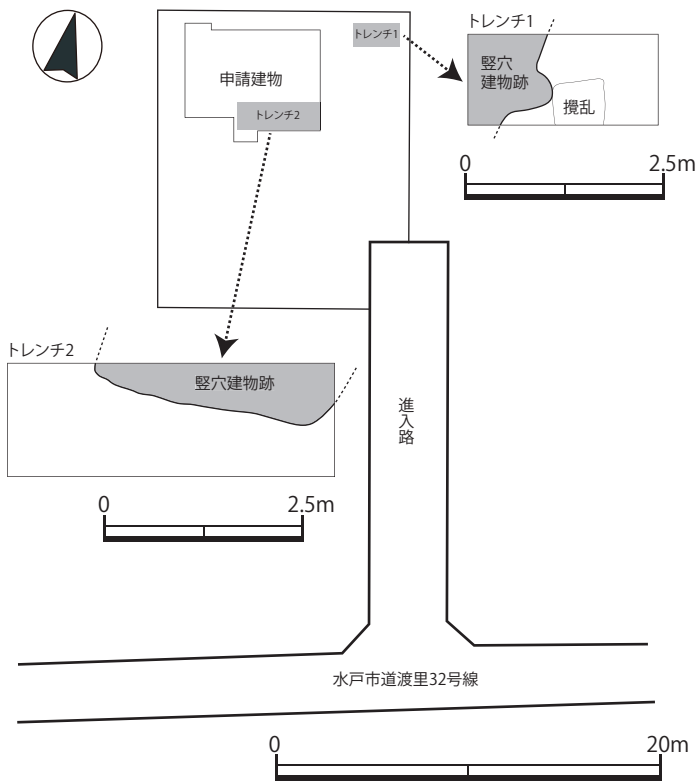
調査方法 開発対象地のうち、申請建物建築予定部分及び浄化槽埋設部分にトレンチを1本ずつ設定し(第108図)、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要 トレンチ1 2.5m × 1.2 m。地表下90cmの深さで関東ローム層上面が確認されるとともに、平安時代の竪穴建物跡が1軒検出された。遺物は土師器・須恵器片が少量出土した。トレンチ2 4.2m × 1.5 m。地表下90～100cmの深さで関東ローム層上面が確認されるとともに、奈良・平安時代の竪穴建物跡が1軒検出された。遺物は土師器・須恵器片が少量出土した。

(2) 出土遺物 第109図1～3はトレンチ1からの出土品である。1は土師器坏である。外面は底部から立ち上がる部分が反時計回りの方向の回転ヘラケズリが施されており、内面はミガキ調整による黒色処理が施されている。



第107図 西原遺跡(第2地点)の位置



第108図 西原遺跡(第2地点)のトレンチ配置

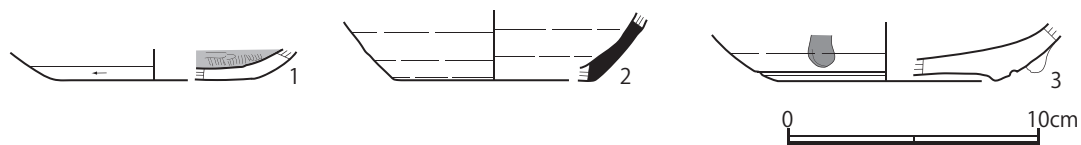
9世紀第2四半期～9世紀第3四半期の年代が想定される。2は須恵器無台坏である。内外面ともにロクロ水挽整形痕が施されており、底部



写真135 トレンチ1竪穴建物跡検出状況(東から)



写真136 トレンチ2竪穴建物跡検出状況(西から)



第109図 西原遺跡(第2地点)出土遺物

は未調整である。胎土や色調・焼成の在り方などから木葉下窯跡群の製品とみられ、9世紀第3四半期以降の年代が想定される。3は近代焼締陶器の破片である。器種は不明だが、内面に施釉されていることから袋物ではなく皿または鉢であろう。(川口・関口)

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構が確認され、申請建物部分については30cm以上の保護層を確保でき、浄化槽埋設部分については位置を変更することで、遺構を保護できることになったが、変更案通り施工されるかを確認するため、工事立会扱いとした。(川口)

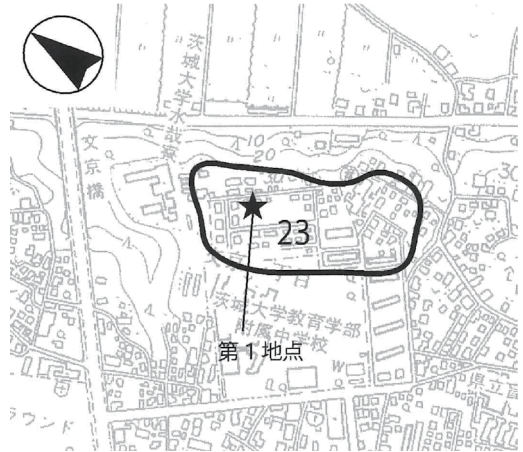
2-43 文京1丁目遺跡(第1地点区画No.1)

所在地 水戸市文京1丁目1898-8番地
 開発面積 213.17㎡
 調査期間 平成22年10月14日
 調査面積 9.0㎡
 調査原因 個人住宅建築
 調査担当 川口武彦
 調査方法 開発対象地のうち、申請建物建築予定部分にDトレンチを設定し(第111図)、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要 Dトレンチ 9.0m×1.0m。地表下70cm～80cmの深さで関東ローム層上面が確認されるとともに、縄文時代中期のものと思われる土坑2基が確認された。遺物はトレンチ中央で確認された土坑より縄文土器が出土した。

(2) 出土遺物 第112図1～5は縄文土器の深鉢形土器である。

1は接合はしないものの、文様構成・胎土・色調の特徴から同一個体と考えられるキャリパー形を呈する波状口縁の持つ深鉢形土器である。口縁部文様帯～頸部文様帯は地文に単節RL縄文を縦方向に回転



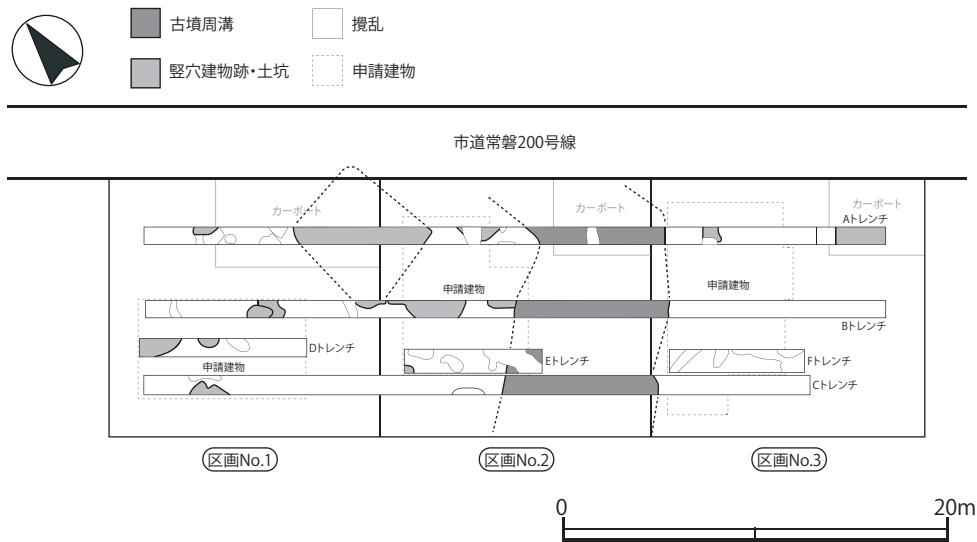
第110図 文京1丁目遺跡の位置



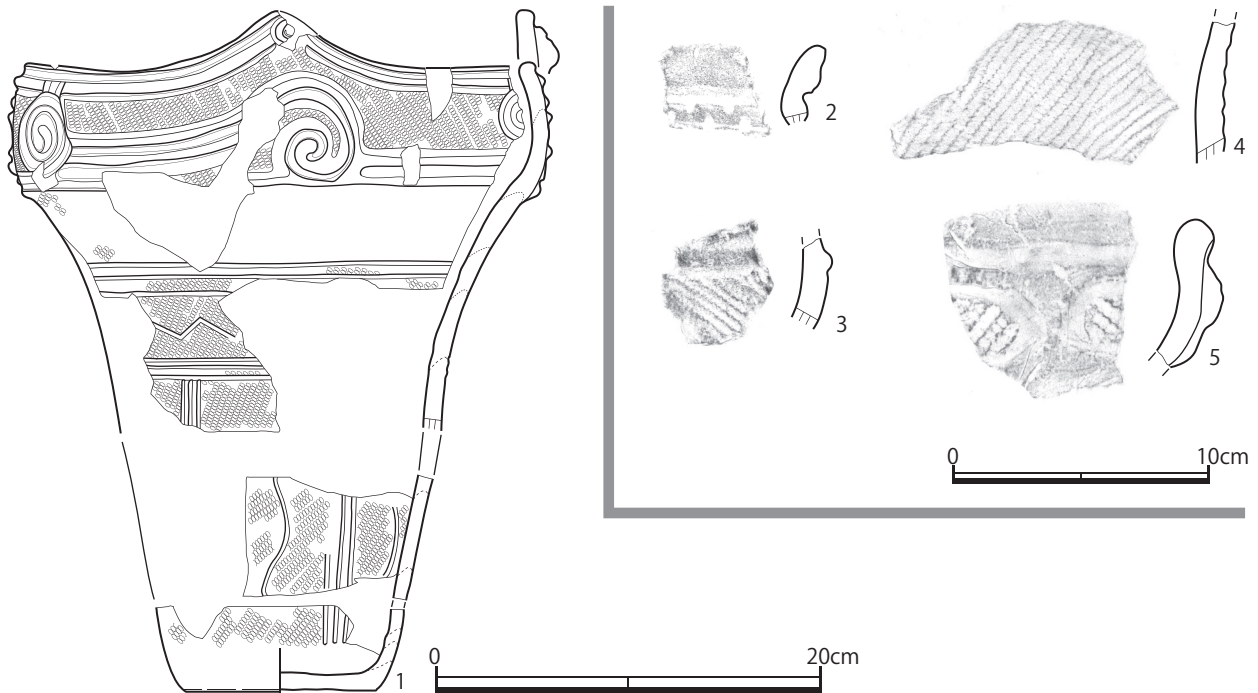
写真137 Dトレンチ土坑検出深度(南東から)



写真138 Dトレンチ掘削状況(南東から)



第111図 文京1丁目遺跡(第1地点区画No.1)のトレンチ配置



第 112 図 文京 1 丁目遺跡 (第 1 地点区画 No.1) 出土縄文土器

施文した後、沈線により渦巻き文や並行線文を描き、磨り消している。胴部は地文に単節 LR 縄文を横方向に回転施文した後、縦位の沈線文や懸垂文を施すことで磨り消している。中期後葉の大木 8b 式であろう。第 112 図・2・5 は深鉢形土器の口縁部の破片で、2 は口唇部直下に交互刺突文を施している。5 は地文に単節 LR 縄文と RL 縄文を施した後、口唇部直下に連続する楕円形の隆帯を貼り付け、それに沿う形で太い沈線文を描き、磨り消している。いずれも加曾利 E2 式土器とみられる。4 はキャリパー形を呈する深鉢形土器の胴部片とみられ、地文に単節 RL 縄文が縦位方向に施紋されている。中期後葉の加曾利 E 式土器であろう。3 は深鉢形土器の胴部片とみられ、地文に単節 RL 縄文を縦位方向に施紋した後、隆帯を貼り付けている。中期後葉の加曾利 E 式土器もしくは大木式土器であろう。

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構が確認され、30cm 以上の保護層を確保できるものの、設計通り施工されるかを確認するため、工事立会扱いとした。(川口)

2-44 文京1丁目遺跡（第1地点区画No.2）

所在地 水戸市文京1丁目1898-7番地

開発面積 213.17㎡

調査期間 平成22年11月25日

調査面積 10.5㎡

調査原因 個人住宅建築

調査担当 川口武彦・三浦健太

調査方法 開発対象地のうち、申請建物建築予定部分にEトレンチを設定し（第113図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要 Eトレンチ 7.0m×1.5m。地表下60cm～70cmの深さで関東ローム層上面が確認されるとともに、縄文時代の土坑1基と古墳の周溝1条が確認された。周溝は幅7.5m～8.0mで上部が攪乱により削平を受けているものの、遺構確認面である関東ローム層上面から底面までの深さは60～70cmほどであった。遺物は古墳の周溝の覆土中より縄文土器・土師器・埴輪片が出土した。

(2) 出土遺物 第114図1・2は古墳時代の土師器である。いずれも腕に分類されるもので、口縁部～頸部の幅が短く、胴部は球胴形を呈するものである。いずれも胴部上半に幅広のナデ調整が施されており、1の胴部下半には幅の細いミガキ調整が施されている。いずれも古墳時代中期に位置づけられる。第114図3～第116図47は黒斑を有する埴



写真139 Eトレンチ掘削状況（南東から）

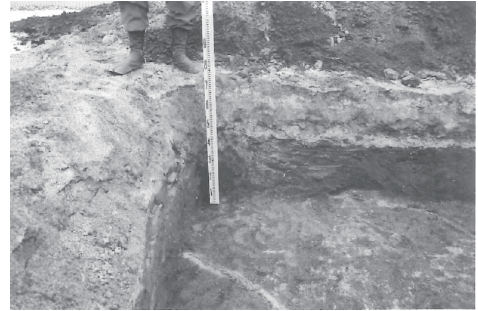


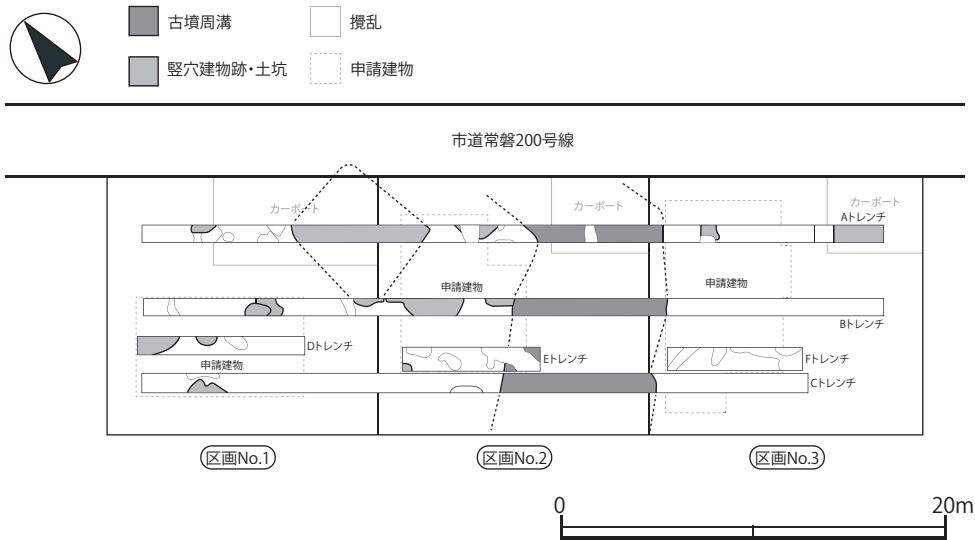
写真140 Eトレンチ古墳周溝検出深度（北から）



写真141 Eトレンチ土坑検出深度（北東から）



写真142 Eトレンチ古墳周溝土層断面（北から）



第113図 文京1丁目遺跡（第1地点区画No.2）のトレンチ配置



第114図 文京1丁目遺跡（第1地点区画No.2）出土遺物①

輪である。これらは器厚・胎土・色調・焼成などの特徴から次の4群に大別が可能である。

A群 (第114図3・5・8～11・第115図15・18・25～28・第116図31・42) 厚さは8～11mmを測り、胎土に透明・白色粒・砂粒を多く含み、稀に赤色粒やチャート礫を含む。色調は浅黄色(2.5Y7/4)～明黄褐色(10YR6/6)を呈し、焼成は普通である。

B群 (第114図4・12～13・第115図14・19・21・第116図32・34～35・47) 器厚は8～11mmを測り、胎土に透明・白色粒・砂粒を多く含む。色調はにぶい赤褐色(5Y5/4)～明赤褐色(5Y5/6)を呈する。焼成はA群・C群・D群に比べて極めて良好で硬質である。

C群 (第114図6～7・第115図20・22～24・29・第116図33・36～37・39～41・43～46) 器厚は10～17mmと他の群よりも厚く、胎土に透明・白色粒・砂粒を多量に含み、稀に赤色粒・チャート礫・石英礫を含む。色調はにぶい黄橙色(10YR6/3)～にぶい橙色(7.5YR6/4)を呈し、焼成はA群・B群・D群に比べるとやや軟質である。

D群 (第115図16～17・第116図38) 器厚は11～13mmを測り、胎土に砂粒を多く含む。色調はオリーブ黒色(5Y3/1)～橙色(7.5YR6/6)を呈し、焼成はA群やB群に比べるとやや軟質であるが、C群よりは硬質である。

これらA群～D群の埴輪はいずれも破片で全体形状を窺い知ることが可能な資料はないが、普通円筒埴輪に分類されるものが大部分を占めている。それらの中でも第114図5・7や第115図22・28のように断面形状が大きく内傾したり、外反する資料は、朝顔形円筒埴輪の可能性があり、第114図5は国史跡愛宕山古墳(水戸市愛宕町)で確認されている二重口縁の壺形埴輪(第117図2)と同様のものである可能性もある。また、第116図43・45・46は基底部として図化した。が、接地面とした面に横位のケズリ調整が見られることから、基底部ではなく口縁部であった可能性もあることを付記しておく。

これらの埴輪の外表面は縦位や斜位の刷毛目を持つものが大半を占めるが、第114図5や第115図22、第116図36のようにナデ調整のみのもも一部認められる。内面には横位や斜位の刷毛目やナデ調整がみられる。

復元値が得られるものは少ないが、第114図8(口径26.6cm)、第114図10(基底部径20cm・体部径21～23cm)、第114図12(体部径27.5～30cm)、第114図13(体部径28cm)、第115図25(口径35.6cm)、第115図26(口径30.5cm)、第116図45(基底部径28.5cm)、第116図46(基底部径25.5cm)等がある。

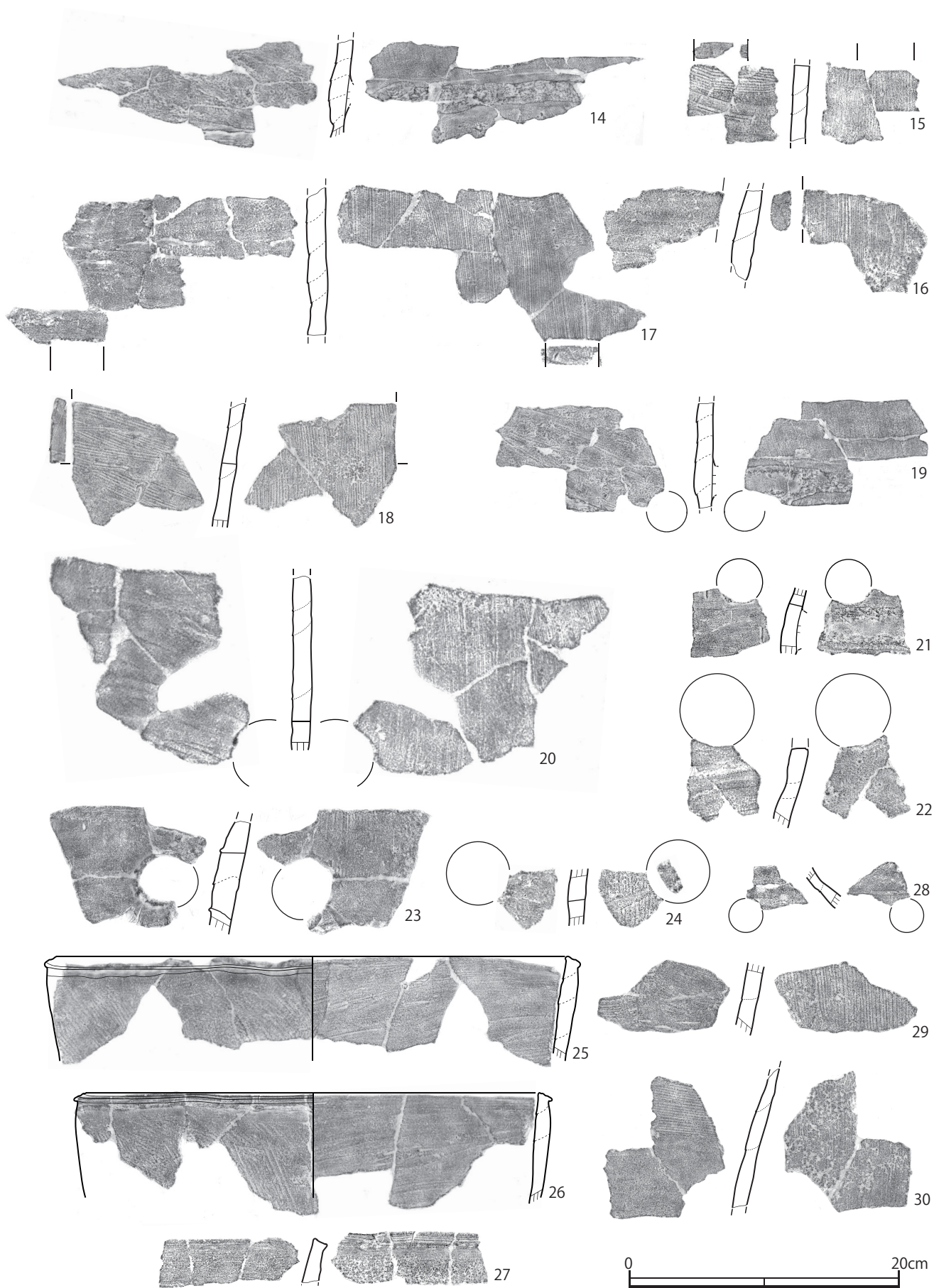
透しは方形のもの(第115図15～18)と円形のもの(第114図12・第115図19～24・28)とがあり、円形のもの直径が25～35mmと小形のもの(第114図12・第115図19・21・28)と45～55mmと大形のもの(第115図20・22～24)に細分可能である。

これらの埴輪は、いずれも黒斑を有する点から窖窯焼成以前の製品と考えられ、B種ヨコハケが観察されないこと、前期の埴輪に特徴的に認められる三角形の透しが観られない点、近接する国史跡愛宕山古墳では円形の透しが主体である(井・小宮山 1999, 栗原 2018)のに対し、当埴輪群には国史跡磯浜古墳群の車塚古墳(東茨城郡大洗町磯浜町)の朝顔形円筒埴輪と同様の方形透し(大洗町教育委員会 2018, 蓼沼 2018, 蓼沼編 2019, 井 2021)と円形透しの両方が認められる点などから、下限年代については中期前葉頃、すなわち前方後円墳集成編年の6期(川西宏幸氏による円筒埴輪編年のIV式)、具体的には車塚古墳築造以後で5世紀前葉頃に位置づけられる国史跡愛宕山古墳に限りなく近接した時期と想定する。

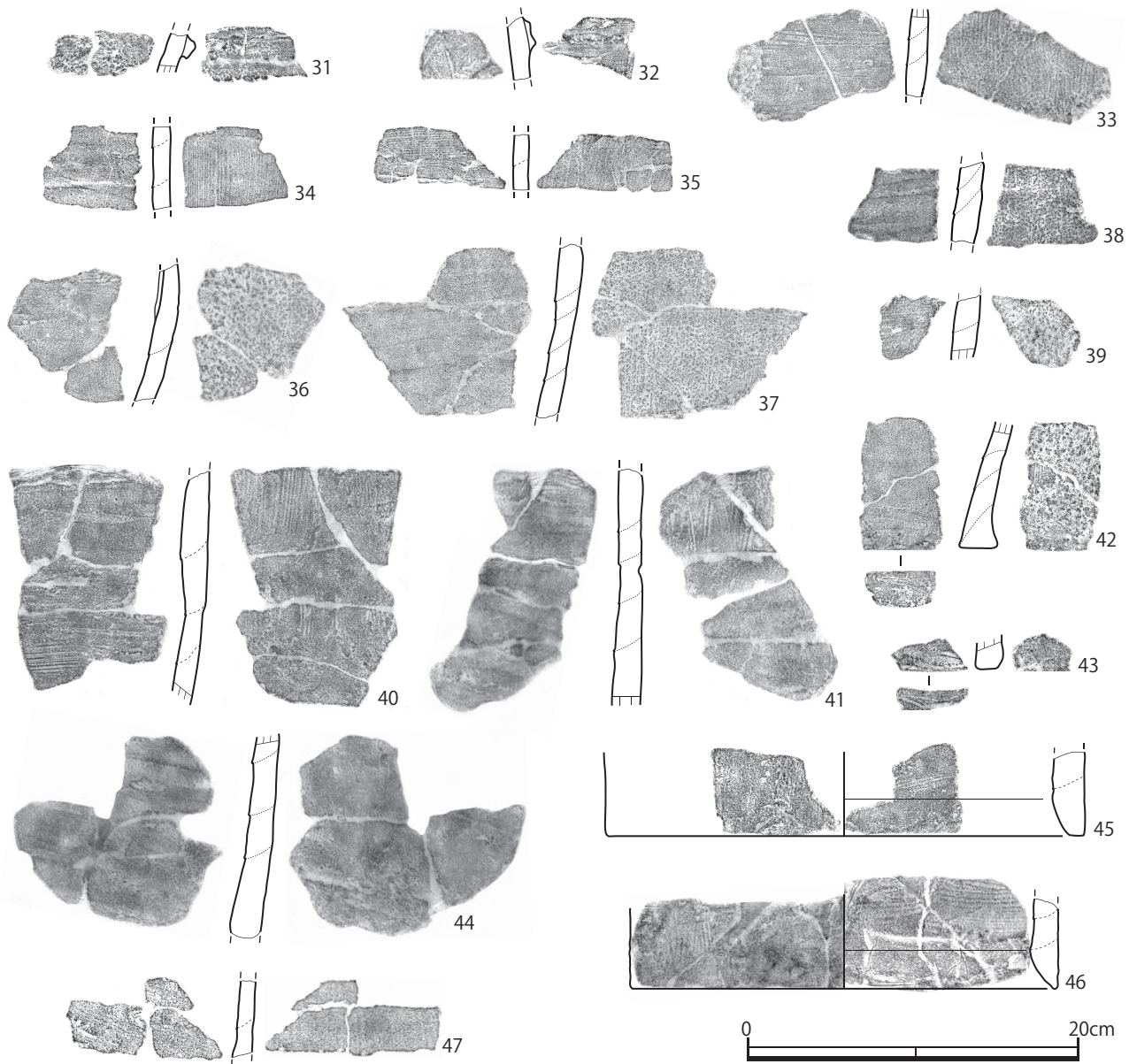
周溝内から出土したこれらの埴輪は、凸帯を持たない破片が圧倒的に多いが、第114図12や第115図14・19・21のように製作時に貼り付けられた凸帯が、焼成後に何らかの理由により打撃を加えて意図的に剥がされたとみられる資料もある。凸帯の断面形状を示す良好な資料は殆どないが、打ち剥がされた凸帯の幅は25～28mmを測り、井 博幸氏が本県県央部の前期・中期古墳から出土している埴輪の凸帯類型の一つとして例示している「普通幅M字形低凸帯」(井 2012)に近い形状と推定される。井氏によれば、普通幅M字形低凸帯を有する埴輪は、久慈川中流域から那珂川流域にかけて分布する中期前葉～後半の古墳に伴っており、国史跡愛宕山古墳にも特徴的に観られるという(井前掲)。

また、第114図10のように凸帯が基底部から40cmの位置まで全く貼り付けられていない資料もあり、愛宕山古墳で採集されている2条の凸帯を有する普通円筒埴輪(第117図1)に近い形状ではないかと推測する。このように剥落した凸帯の幅から推定される年代観も先に指摘した特徴から導き出された中期前葉頃という年代観と齟齬はなく、周溝内から一緒に出土している第114図1・2の土師器椀が古墳に伴うものと理解すれば、下限を中期前葉頃とする年代観は妥当であろう。

なお、第115図26～27は口縁部の破片として図化した。が、天地を逆にした場合には、器台形埴輪の基底部



第115図 文京1丁目遺跡(第1地点区画No.2)出土遺物②



第116図 文京1丁目遺跡(第1地点区画No.2)出土遺物③

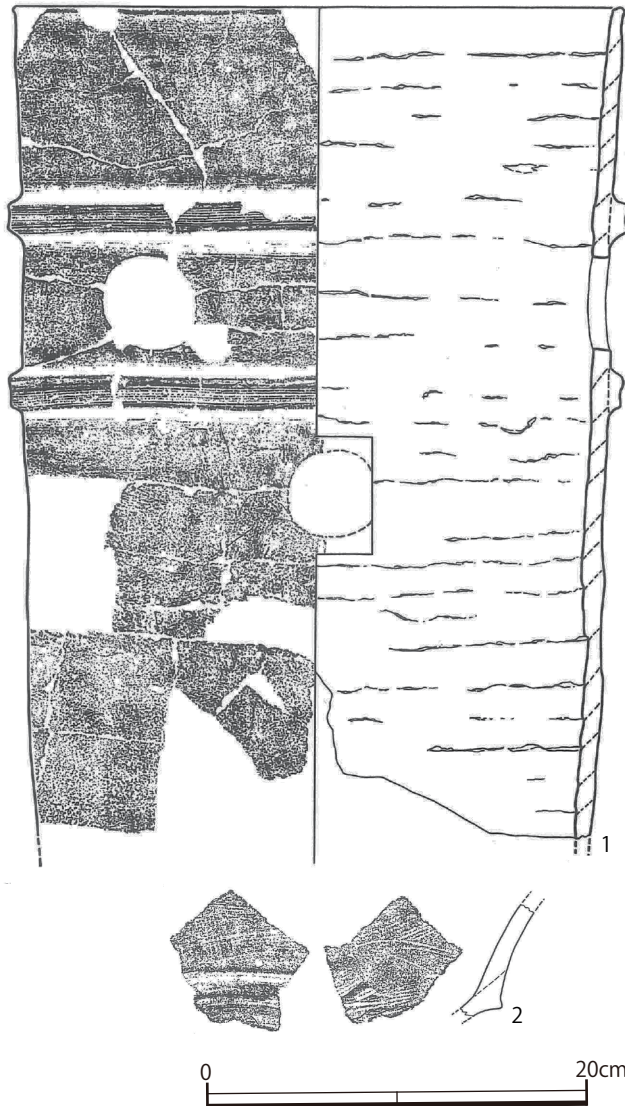
となる可能性もあり、齊藤 新氏が指摘するように前期まで遡る可能性(齊藤 2020)もある。第114図10や第116図42の基底部の断面形状が、国史跡磯浜古墳群の日下ヶ塚(鏡塚)古墳や髭釜4号墳(東茨城郡大洗町)から出土している超長胴化壺形埴輪(井 2021)に類似している点も上限が前期末まで遡る可能性を示唆する。

いずれにしてもこれらの埴輪群は、上面幅が7.5m～8.0mを測る巨大な古墳の周溝の一部から回収できた部分的な資料群に過ぎないため、現状では前期末～中期前葉というやや広い年代観で捉えておくべきである。これらの埴輪群が樹立されていた古墳は、周溝の平面形状から前方後円墳であった可能性があり、当古墳の南東370mの位置に立地する国史跡愛宕山古墳などから構成される愛宕山古墳群を構成する一連の古墳として捉えるべきで、第8号墳(仮称「文京1丁目古墳」)として整理するが(第4表)、その周溝は、当該地点よりも北西側・南西側へと大きく広がっていると想定される(第113図)。今後、周辺で発掘調査が行われる機会があれば、墳形や規模の確認、築造年代を示すような遺物群の積極的な収集に努めるべきであろう。

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構が確認され、30cm以上の保護層を確保できるものの、設計通り施工されるかを確認するため、工事立会扱いとした。(川口)

第4表 愛宕山古墳群古墳一覧

名称	墳丘形状	墳丘規模 (m)	周溝規模 (m)	出土遺物	時期	保存状態	備考
第1号墳	前方後円墳	全長140, 後円部径79, 後円部高10.7, 前方部長61, 前方部幅76以上, 前方部高8.8	不明	普通円筒埴輪・朝顔形円筒埴輪	5世紀前葉	現存	国史跡「愛宕山古墳群」
第2号墳	前方後円墳	全長58, 前方部長18, 前方部幅20, 前方部高3.5, 後円部径40, 後円部高4	不明	土師器(高坏)・石製模造品(鏡)・鉄刀・丸玉・棗玉	5世紀	墳丘削平	姫塚古墳
第3号墳	円墳	直径14	不明	不明	不明	移転復元	馬塚古墳
第4号墳	不明	不明	不明	普通円筒埴輪・形象埴輪(人物・器財)	6世紀カ	墳丘削平	狐塚古墳, 遺物は東京国立博物館所蔵
第5号墳	円墳	外径26, 内径20	上幅2.25~3.3, 下幅1.5~2.54, 深さ0.3~0.85	土師器坏・土師器甕・普通円筒埴輪	6世紀前葉	墳丘削平 半分湮滅	茨城県教育財団調査(2014年度)
第6号墳	円墳	不明	上幅2.1~5.84, 下幅0.5~1.34, 深さ0.17~0.73	普通円筒埴輪	6世紀前葉	墳丘削平 半分湮滅	茨城県教育財団調査(2014年度)
第7号墳	円墳	外径20, 内径16	上幅1.02~2.5, 下幅0.53~1.54, 深さ0.13~0.68	形象埴輪(人物)・普通円筒埴輪・朝顔形円筒埴輪	6世紀中葉	墳丘削平 半分湮滅	茨城県教育財団調査(2014年度)
第8号墳	前方後円墳カ	不明	上幅7.5~8.0, 深さ0.6~0.7	土師器(椀)・普通円筒埴輪・朝顔形円筒埴輪	4世紀末~5世紀前葉	墳丘削平	「文京1丁目古墳」



第117図 愛宕山古墳採集の埴輪 ((井・小宮山 1999) より転載)

2-45 谷田遺跡（第1地点）

所在地 水戸市谷田町 630-1
 開発面積 697.41 m²
 調査期間 平成 22 年 11 月 4 日
 調査面積 64.5 m²
 調査原因 共同住宅建築
 調査担当 米川暢敬

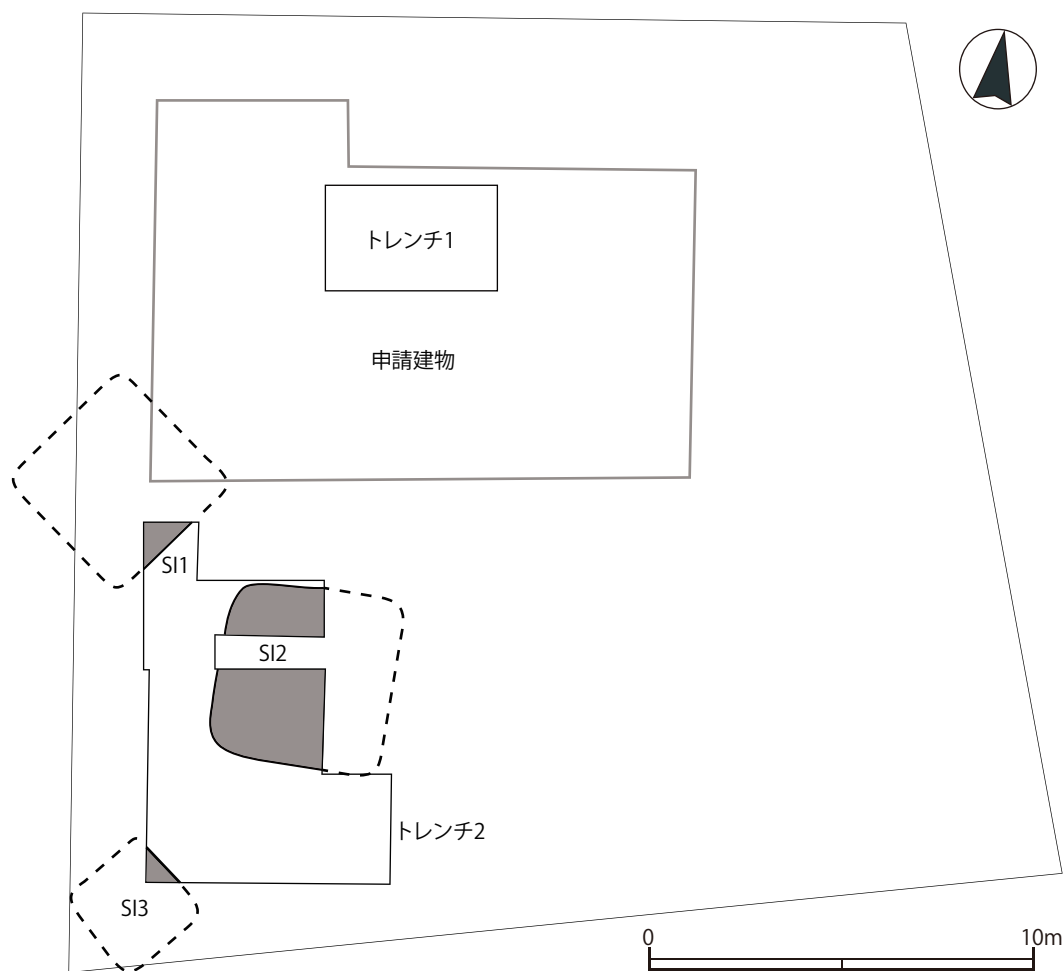
調査方法 開発対象地のうち、申請建物建築予定部分にトレンチを2本設定し（第119図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要 トレンチ1 申請建物建築予定地に 5.0m × 3.0 m。地表下 35cm の深さで関東ローム層上面が確認されたが、遺構は確認されなかった。遺物は耕作土中から土師器片が数点出土した。トレンチ2 合併浄化槽及び雨水貯留柵埋設予定地に 49.5 m² の範囲で設定した。地表下 35cm の深さで関東ローム層上面が確認されるとともに、竪穴建物跡と考えられるプラン3軒が確認された。遺物は古墳時代の土師器が少量出土した。

(2) 出土遺物 第120図1はトレンチ2から出土した土師器の椀である。内外面ともにナデ調整で、外面の一部は弱いヘラ削り調整が施されている。古墳時代中期中葉頃の所産であろう。2はトレンチ2から出土した土師器の甕である。外面は斜位のヘラ削り調整が施されている。底面に木葉痕などは見られない。古墳時代前期の土師器甕



第118図 谷田遺跡（第1地点）の位置



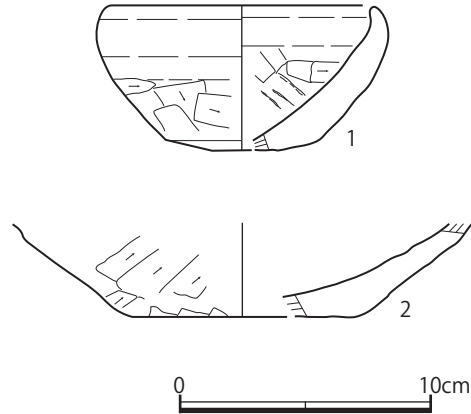
第119図 谷田遺跡（第1地点）のトレンチ配置



写真 143 トレンチ 1 全景 (南西から)



写真 144 トレンチ 2 全景 (南西から)



第 120 図 谷田遺跡 (第 1 地点) 出土遺物

と比べると厚みがあり、1 と同様に古墳時代中期中葉以降の所産と理解して差し支えないだろう。

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構が確認されたことから、事業者とその取扱いについて協議を行い、申請建物・合併浄化槽・雨水貯留樹埋設箇所について工事立会扱いとした。工事立会調査の成果については、「4-1 谷田遺跡 (第 1 地点第 2 次)」を参照されたい。(米川)

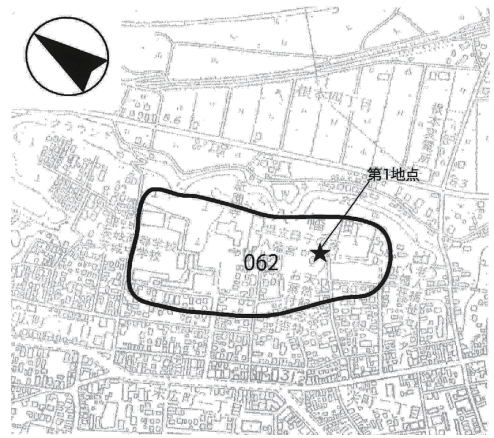
2-46 茨城高等学校遺跡 (第 1 地点第 4 次)

所在地 水戸市八幡町 8-54
 開発面積 77 m²
 調査期間 平成 22 年 11 月 24 日
 調査面積 4.0 m²
 調査原因 八幡宮拝殿及び弊殿の保存修理に伴う電気・水道管理設
 調査担当 川口武彦・三浦健太

調査方法 開発対象地のうち、地下に掘削の及ぶ管理設箇所にトレンチを 3 本設定し (第 122 図)、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要 トレンチ 1 2.0m × 0.5 m。地表下 50cm の深さまで掘削したところ、土坑 3 基と硬化面が確認されるとともに、土師器片や土師質土器片、陶磁器類が数点出土した。トレンチ 2 2.0m × 1.0m。地表下 40cm の深さまで掘削したところ、関東ローム層上面が確認されるとともに、近世以前とみられる土坑 2 基が確認され、土師器片や須恵器片が数点出土した。トレンチ 3 2.0m × 1.0m。地表下 50cm の深さまで掘削したところ、関東ローム層上面が検出されたが、遺構は確認されなかった。遺物は近代以降の磁器やガラス製品・土製品が数点出土した。

(2) 出土遺物 第 123



第 121 図 茨城高等学校遺跡 (第 1 地点) の位置



写真 145 トレンチ 1 掘削深度・遺構検出状況 (南東から)



写真 146 トレンチ 2 掘削状況 (東から)

図1はトレンチ2から出土した須恵器の盤である。口縁部及び高台部を欠失しているが、底裏に墨書が僅かに残存しており「厨カ大□」と釈読出来る。このような形状の盤は、木葉下窯跡群の須恵器盤を対象とした佐々木義則氏による分類（佐々木 2013）のC3類に相当し、9世紀第1四半期～第3四半期にかけてみられることから、9世紀代の遺物と考えられる。2は磁器の大碗である。朱と黒の上絵付で外面口縁部には一重圈線，体部には龍文，

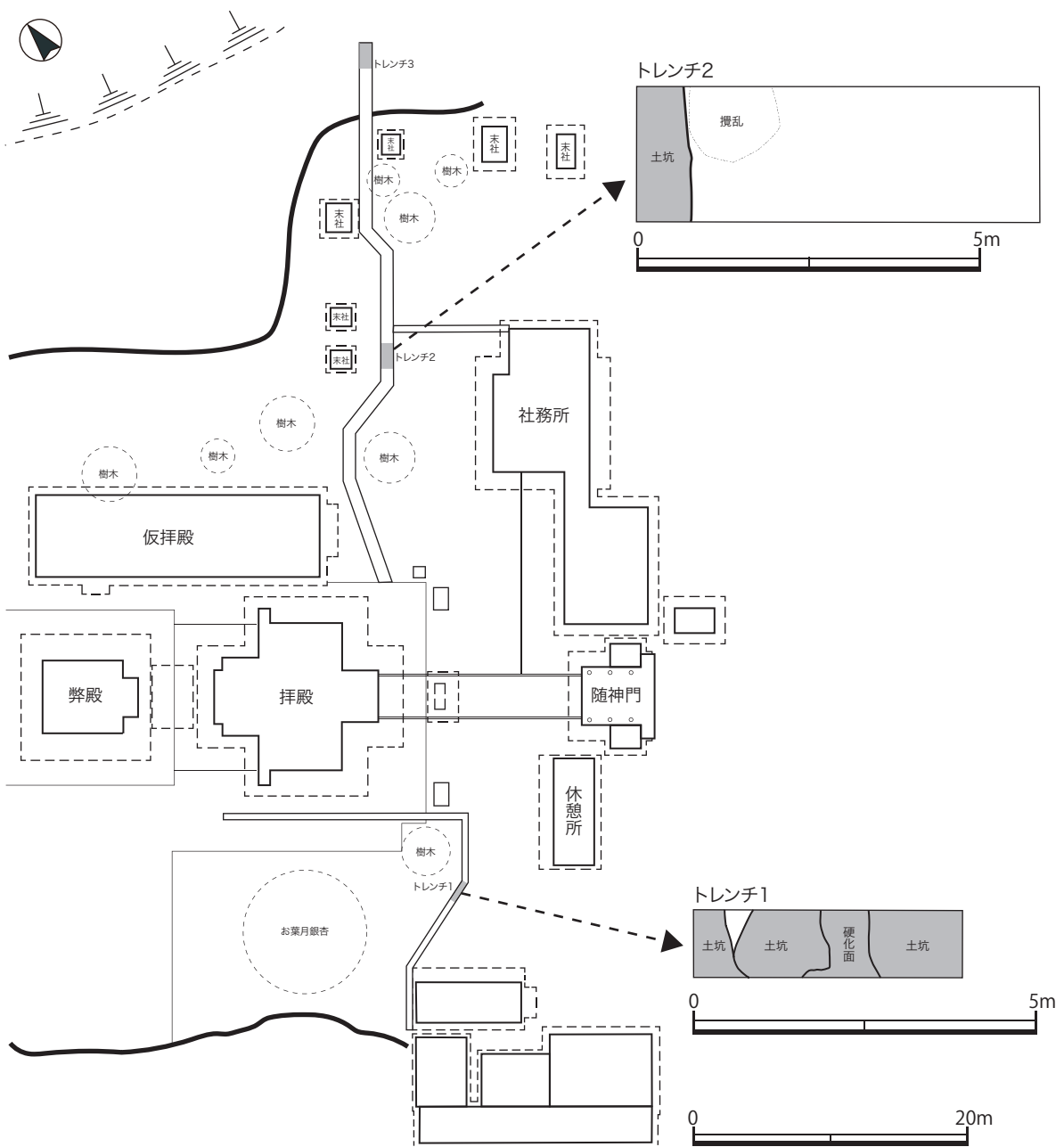


写真147 トレンチ2掘削深度(南東から)

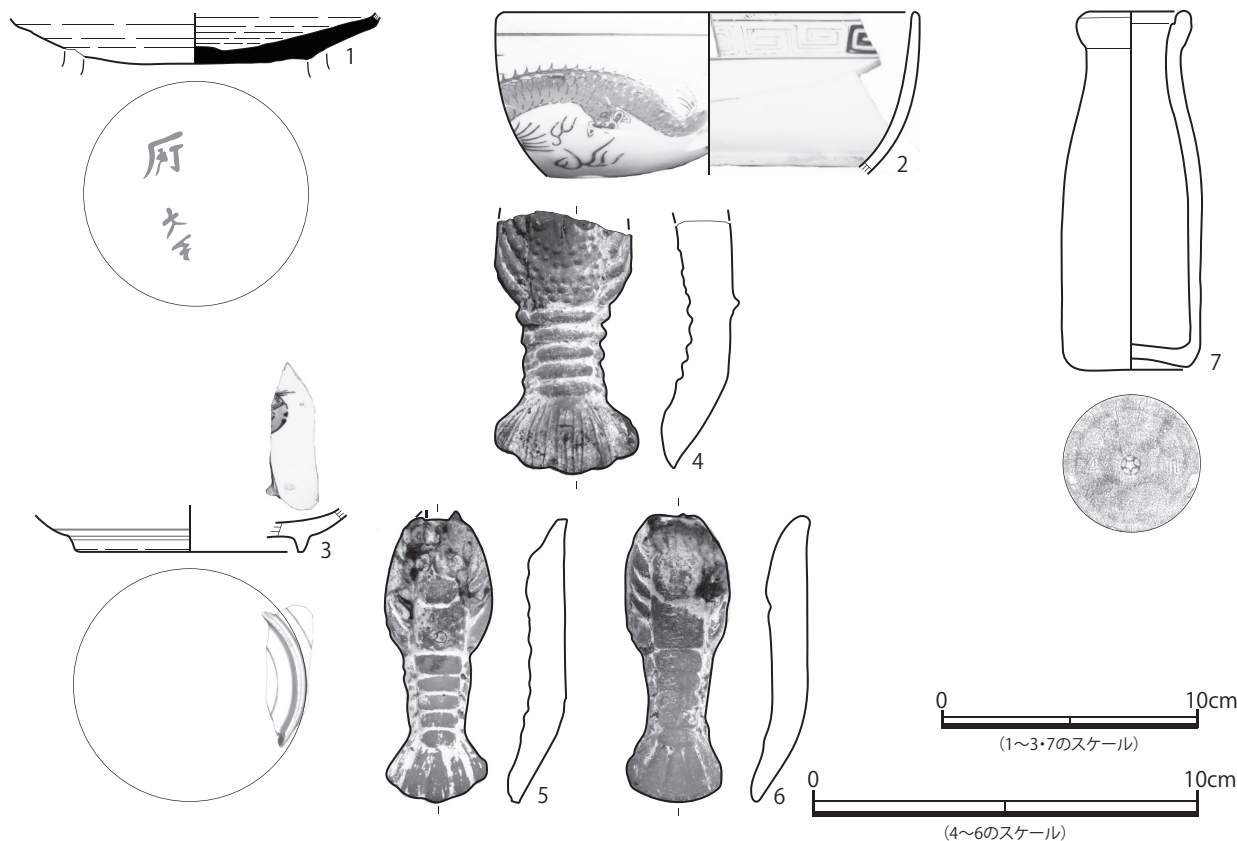


写真148 トレンチ3掘削深度(西から)

第122図 茨城高等学校遺跡（第1地点第4次）のトレンチ配置



第122図 茨城高等学校遺跡（第1地点第4次）のトレンチ配置



第 123 図 茨城高等学校遺跡（第 1 地点第 4 次）出土遺物

高台脇には二重圏線が描かれており、内面の口縁部には雷文が描かれている。産地不明だが近現代の遺物である。3 はトレンチ 3 から出土した磁器の三角高台皿である。白泥塗布の上に染付で、外面高台脇に一重圏線、高台に二重圏線、高台内に一重圏線、内面見込に文様が描かれている。畳付は無釉で、在地産の可能性が高い。19 世紀以降の製品とみられる。4～6 はトレンチ 3 から出土した土製品の人形（海老）である。いずれも型押成形で、胴部に鉄錆が付着しており、裏面中央部に針金痕が 1 箇所みられる。全面に白泥が塗布されているが、被熱による剥落が著しい。4 と 5・6 は大きさも異なり、それぞれ別の型で製作されている。産地は不明だが、近現代の製品とみられる。これらの諸特徴とトレンチ 3 が水戸八幡宮境内の縁辺部に位置していることを考慮すれば、これらは正月飾りに元々付けられていたもので、小正月（1 月 15 日）に新年の無病息災や家内安全の願いを込めて正月飾りを焼くいわゆる「どんど焼」の際に被熱したという機能的脈絡の中で理解することができる遺物群である。7 はトレンチ 3 から出土したガラス製品の牛乳瓶である。型吹き成形（割り型）で、無色透明、胴部に集中して 1 mm 以下の気泡を多く含む。外面底部脇に陽刻「丸に正」「180 ml」、底部に陽刻「4」「☆」「11」がみられる。産地は不明だが、近現代の製品である。
 （川口・関口）

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構が確認され、掘削深度は 30cm と十分な保護層が確保されるものの、設計通り施工されるかを確認するため、工事立会扱いとした。
 （川口）

2-47 下遠田遺跡（第2地点）

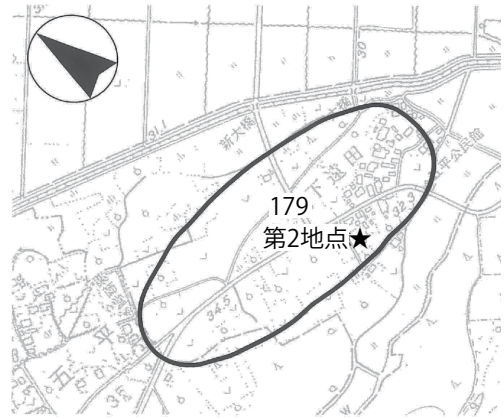
所在地 水戸市五平町字原屋敷 334-1
 開発面積 1,000 m²
 調査期間 平成 23 年 2 月 1 日
 調査面積 13 m²
 調査原因 個人住宅建築
 調査担当 川口武彦

調査方法 開発対象地のうち、申請建物建築予定部分及び浄化槽埋設部分にトレンチを2本設定し（第125図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要 トレンチ1 5.0m × 1.0m。地表下50cmの深さで関東ローム層上面が確認されたが、遺構は確認されなかった。遺物は耕作土中から近世瓦片・土師器片が各1点ずつ出土した。トレンチ2 8.0m × 1.0m。地表下50cmの深さで関東ローム層上面が確認されるとともに、時期不明の土坑1基が確認された。遺物は耕作土中より土師器片2点、須恵器片1点が出土した。

(2) 出土遺物 図化に耐えうる資料はなかった。

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構が確認され、30cm以上の保護層を確保できるものの、設計通り施工されるかを確認するため、工事立会扱いとした。（川口）



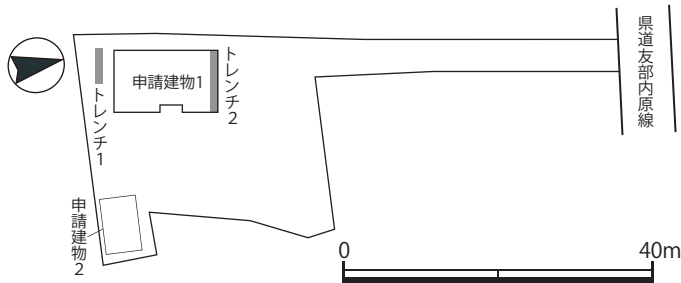
第124図 下遠田遺跡（第2地点）の位置



写真149 トレンチ1掘削状況（東から）



写真150 トレンチ2掘削状況（東から）



第125図 下遠田遺跡（第2地点）のトレンチ配置

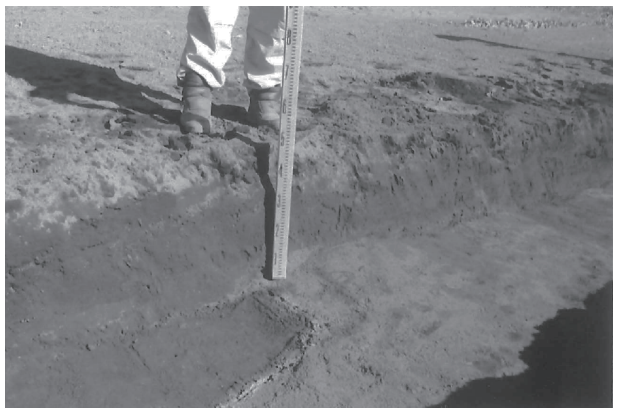
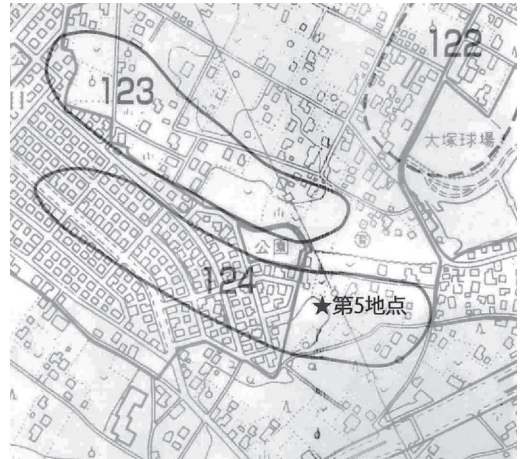


写真151 トレンチ2土坑検出深度（南から）

2-48 釜久保遺跡（第5地点）

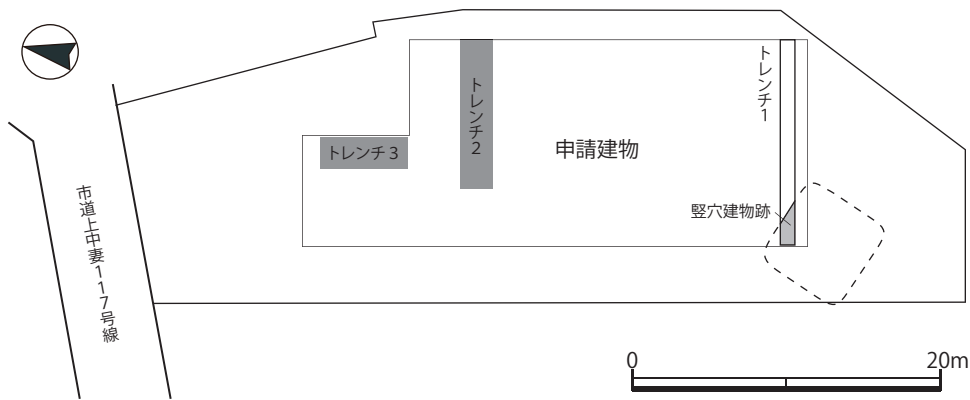
所在地 水戸市大塚町字釜久保 1612 番 2
 開発面積 998.24 m²
 調査期間 平成 23 年 2 月 8 日
 調査面積 36.0 m²
 調査原因 寄宿舍建築
 調査担当 川口武彦・三浦健太

調査方法 開発対象地のうち、申請建物建築予定部分にトレンチを 3 本設定し（第 127 図）、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。
 (1) トレンチの概要 トレンチ 1 14.0m × 1.0m。地表下 90cm の深さで関東ローム層上面が確認されるとともに西端で竪穴建物跡が 1 軒検出された。遺物は覆土上面から器面に刷毛目を有する古墳時代全景の土師器片が出土した。トレンチ 2



第 126 図 釜久保遺跡（第 5 地点）の位置

10.0m × 2.0m。地表下 65cm の深さで関東ローム層上面が確認されたが、攪乱が著しく及んでおり、遺構・遺物は確認されなかった。トレンチ 3 6.0m × 2.0m。地表下 65cm の深さで関東ローム層上面が確認されたが、攪乱が著しく及んでおり、遺構・遺物は確認されなかった。
 (2) 出土遺物 第 128 図 1 はトレンチ 1 から出土した弥生土器の壺形土器の底部片である。底面には目の細かい布目圧痕が残されており、外面には附加条縄文が回転施紋されている。後期十王台式であろう。2 はトレンチ 1 から出土した土師器の壺形土器の頸部～胴部片である。胴部の外面には斜位の刷毛目調整痕が残されており、頸部の内面には横位の刷毛目調整痕が、胴部内面には斜位の刷毛目調整痕が部分的に残されている。古墳時代前期の遺物である。3 はトレンチ 1 から出土した土師器の壺形土器の口縁部片である。外面には隆帯を横位に貼り付け、上から工具で連続的に押押し、刻み目文を創り出している。3 と同様に古墳時代前期の遺物であろう。4 はトレンチ 2



第 127 図 釜久保遺跡（第 5 地点）のトレンチ配置



写真 152 トレンチ 1 掘削状況（西から）

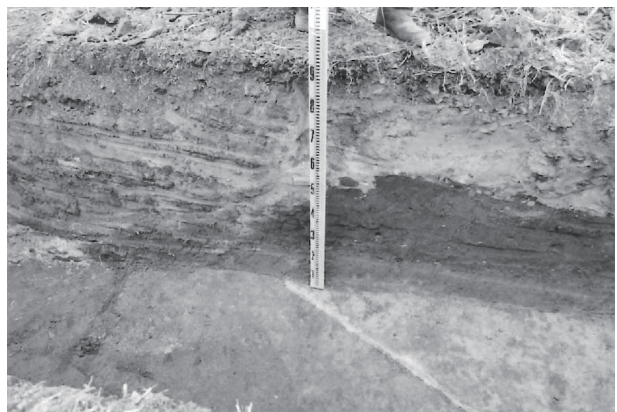


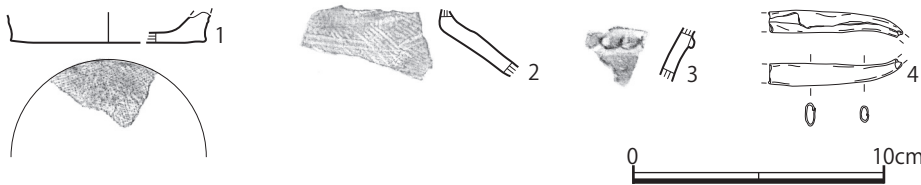
写真 153 トレンチ 1 竪穴建物跡検出深度（南から）



写真 154 トレンチ 2 掘削状況 (西から)



写真 155 トレンチ 3 掘削状況 (北から)



第 128 図 釜久保遺跡 (第 5 地点) 出土遺物

から出土した銅・真鍮製の煙管の吸口である。埋没中の土圧等により変形し、口元も欠失しているが、近世の遺物であろう。

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構が確認され、30cm 以上の保護層を確保できるものの、設計通り施工されるかを確認するため、工事立会扱いとした。(川口)

2-49 下畑遺跡 (第 3 地点)

所在地 水戸市元石川町 1749-1 番地

開発面積 600 m²

調査期間 平成 23 年 2 月 10 日

調査面積 41.5 m²

調査原因 個人住宅・農業用倉庫建築

調査担当 川口武彦・三浦健太

調査方法 開発対象地のうち、申請建物・農業用倉庫建築予定部分、浄化槽埋設部分にトレンチを計 4 本設定し (第 129 図)、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要 トレンチ 1 3.5m × 1.0 m。地表下 50cm の深さで関東ローム層上面が確認されるとともに土坑もしくは竪穴建物跡とみられるプランが 2 基確認された。遺物は確認面から縄文土器が多数出土した。トレンチ 2 2.0m × 1.0m。地表下 50cm の深さで関東ローム層上面が確認されるとともに、土坑とみられるプランが 1 基確認された。遺物は確認面から縄文土器が多数出土した。トレンチ 3 9.0m × 2.0m。地表下 40cm の深さで関東ローム層上面が確認されたが、攪乱が著しく及んでおり、遺構は確認されなかった。遺物は耕作土中より縄文土器が多数出土した。トレンチ 4 9.0m × 2.0m。地表下 30cm の深さで関東ローム層上面が確認されるとともに、土坑とみられるプランが 1 基確認された。遺物は縄文土器が多数出土した。

(2) 出土遺物 第 131 図 1 はトレンチ 4 から出土した縄文土器の深鉢形土器の口縁部片である。内外面ともに貝



第 129 図 下畑遺跡 (第 3 地点) の位置



写真 156 トレンチ 1 遺構検出状況 (東から)



写真 157 トレンチ 1 遺構検出深度 (北西から)



写真 158 トレンチ 2 遺構検出状況 (東から)



写真 159 トレンチ 2 遺構検出深度 (東から)



写真 160 トレンチ 3 掘削状況 (南から)



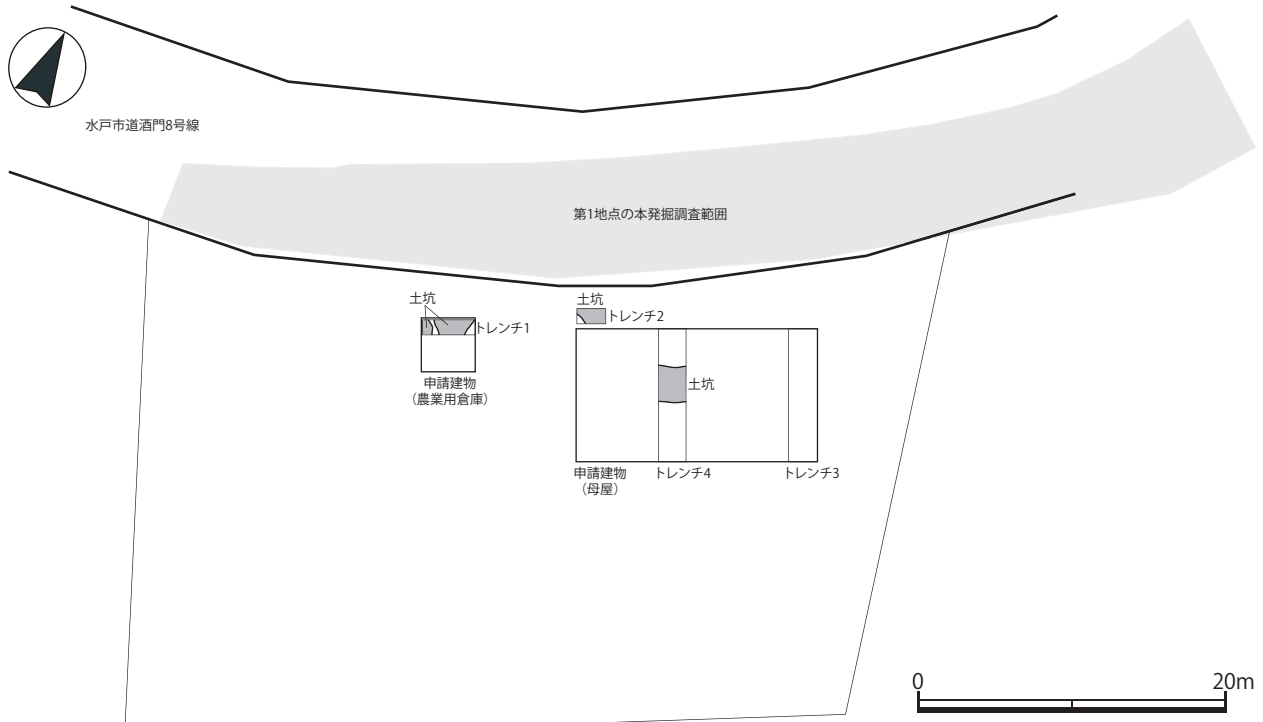
写真 161 トレンチ 3 掘削深度 (東から)



写真 162 トレンチ 4 掘削状況 (南から)

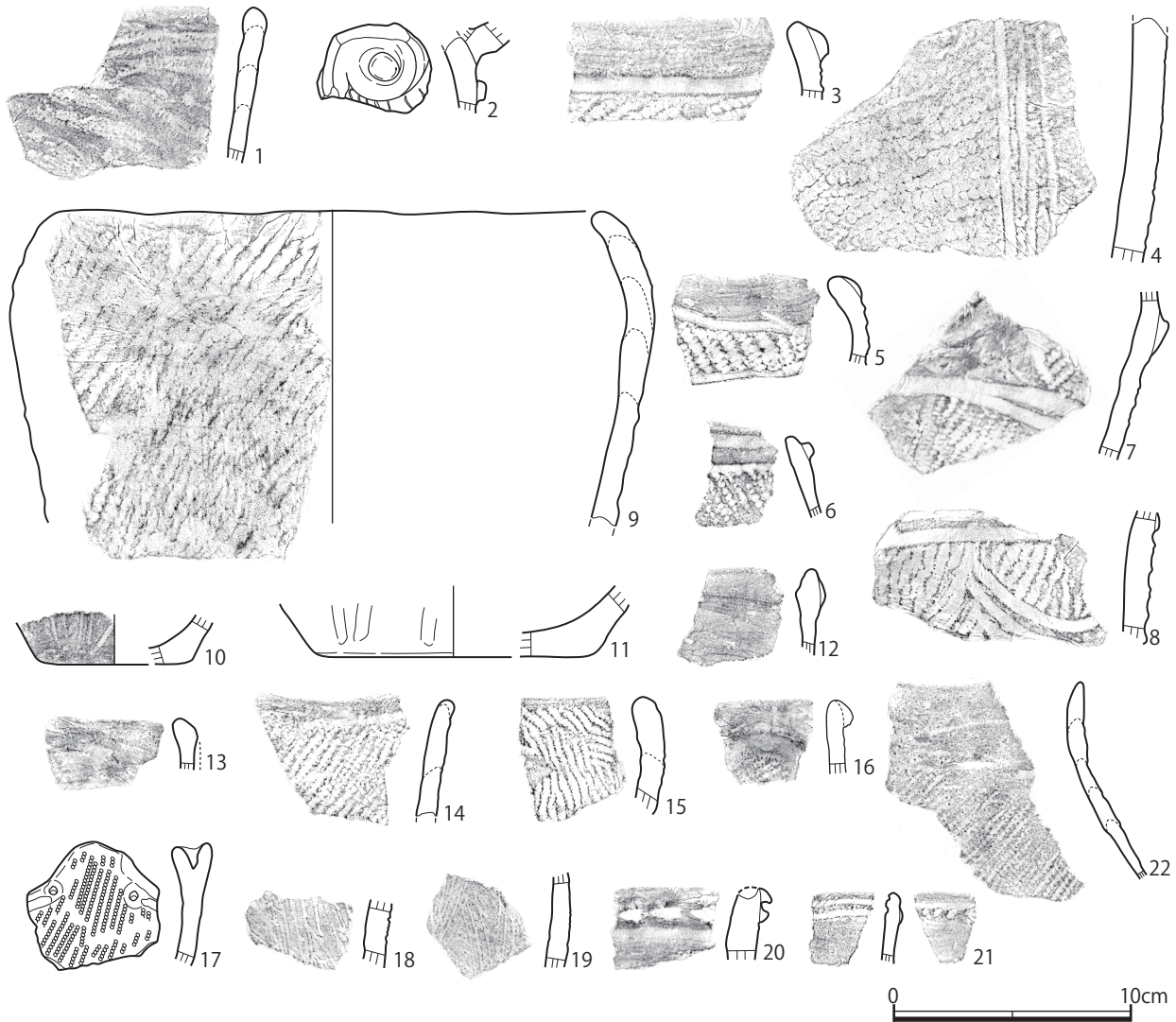


写真 163 トレンチ 4 遺構検出深度 (西から)



第130図 下畑遺跡（第3地点）のトレンチ配置

殻条痕文が施されており、外面は部分的にケズリ及びミガキ調整が施されている。早期終末期の土器であろう。2はトレンチ1から出土した縄文土器の深鉢形土器である。隆帯を円形状に貼り付け、その周囲にキャタピラ文を施している。中期後葉の加曽利E1式であろうか。3はトレンチ1から出土した縄文土器の深鉢形土器の口縁部片である。口縁部に隆帯を貼り付けて無文帯とし、その直下に幅広の横位の沈線を描き、さらにその下に単節RL縄文を回転施紋している。中期後葉の加曽利E2式である。4はトレンチ2から出土した縄文土器の深鉢形土器の胴部片である。地文に単節LR縄文を回転施紋した後、3条単位の縦位の沈線文を描いている。中期後葉の加曽利E1式であろう。5はトレンチ3から出土した縄文土器の深鉢形土器の口縁部片である。口縁部直下を無文帯とし、その直下に地文の単節RL縄文を回転施紋した後、2条の横位の沈線で磨り消すことで、区画を作り出している。中期後葉の加曽利E2式もしくは加曽利E3式であろう。6はトレンチ3から出土した縄文土器の深鉢形土器の口縁部片である。口唇部直下に地文の単節RL縄文を回転施紋した後、横位の細い隆帯を貼り付けている。中期後葉の加曽利E2式であろう。7はトレンチ2から出土した縄文土器の深鉢形土器の胴部片である。地文の単節RL縄文を回転施紋した後、隆帯を貼り付け、横位・斜位の沈線で磨り消し、上部に渦巻き文と楕円杵状文を描き出している。中期後葉の加曽利E2式もしくは加曽利E3式であろう。8はトレンチ3から出土した縄文土器の深鉢形土器の胴部片である。地文の単節RL縄文を回転施紋した後、横位及び連続する弧線状の沈線で磨り消している。中期後葉の加曽利E2式である。9はトレンチ3から出土した縄文土器のキャリパー形を呈する深鉢形土器の口縁部～胴部片である。地文の単節LR縄文を外面の全面に回転施紋している。中期後葉の加曽利E4式である。10はトレンチ1から出土した縄文土器の深鉢形土器の底部片である。縦位に垂下する5条の沈線が描かれている。中期後葉の加曽利E3式であろうか。11はトレンチ2から出土した縄文土器の深鉢形土器の底部片である。縦位に垂下する2条の沈線が描かれている。中期後葉の加曽利E3式であろうか。12はトレンチ4から出土した縄文土器の深鉢形土器の口縁部片である。口唇部直下に隆帯を貼り付けて緩やかな稜を作りだし、無文帯としている。中期後葉の加曽利E4式である。13はトレンチ2から出土した縄文土器の深鉢形土器の口縁部片である。口唇部直下に隆帯を貼り付けていたものが剥落してしまっており、隆帯の周囲は無文帯としていたと考えられる。中期後葉の加曽利E4式であろう。14はトレンチ4から出土した縄文土器の深鉢形土器の口縁部片である。口唇部直下に単節RL縄文を回転施紋している。中期後葉の加曽利E4式であろう。15はトレンチ4から出土した縄文土器の深鉢形土器の口縁部片である。口唇部直下に単節RL縄文を回転施紋している。中期後葉の加曽利E4式であろう。16はトレンチ1から出土した縄文土器の深鉢形土器の口縁部片である。地文に単節LR縄文を回転施紋した後、隆帯を貼り付け、その周囲をナデ調整を施し、円形の杵状文を作りだしている。中期後葉の加曽利E3式もしくはE4式で



第 131 図 下畑遺跡（第 3 地点）出土遺物

あろうか。17はトレンチ1から出土した波状口縁を呈する深鉢形土器の口縁部片である。波状口縁の突起部に相当し、地文に単節LR状文を回転施紋し、口縁部直下に横位の沈線を描き、突起部の直前で小さい円孔を穿孔し沈線を終結させている。後期前葉の堀之内1式の精製土器である。18・19はトレンチ2から出土した縄文土器の深鉢形土器の胴部片である。いずれも外面に櫛歯状工具による条線が描かれている。後期前葉の堀之内1式土器の粗製土器である。20はトレンチ2から出土した縄文土器の深鉢形土器の口縁部片である。口縁部直下に隆帯を貼り付け、その上から半裁竹管状の工具で連続刺突文を描いている。後期前葉の堀之内2式の精製土器である。21はトレンチ3から出土した縄文土器の深鉢形土器の口縁部片である。口縁部直下に隆帯を貼り付け、その上から半裁竹管状の工具で連続刺突文を描いている。内面には半裁竹管状の工具で2条の平行する横位の沈線を描き、その間に刻み目を連続的に施している。後期中葉の加曾利B1式の精製土器である。22は縄文土器の鉢形土器の口縁部～胴部片である。口縁部から頸部は無文帯とし、胴部には単節LR縄文を回転施紋している。内面は丁寧な横位のミガキ調整を施している。型式は未詳だが、晩期終末期の千網式・荒海式に伴う粗製土器であろうか。

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構・遺物が多数確認され、事業者とその保存について協議したが、原状保存は困難であるとの結論に達したことから、平成23年7月7日～8月12日の期間に記録保存を目的とした本発掘調査を実施した。その成果については、今後刊行を予定している『平成23年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』に収録予定である。(川口)

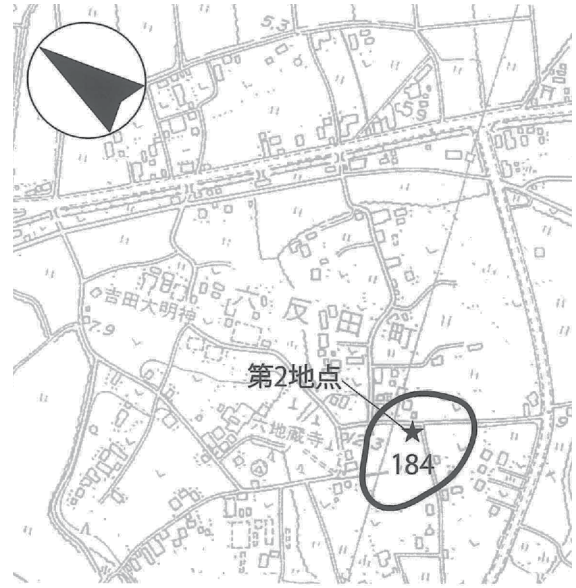
2-50 新地遺跡 (第2地点)

所在地 水戸市六反田町 955 番の一部
 開発面積 338.54 m²
 調査期間 平成 23 年 2 月 21 日
 調査面積 10.1 m²
 調査原因 個人住宅建築
 調査担当 川口武彦

調査方法 開発対象地のうち、申請建物建築予定部分及び浄化槽埋設部分にトレンチを3本設定し(第133図)、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要 トレンチ1 1.5m × 1.0m。地表下80cmの深さで関東ローム層上面が確認されたが、遺構は確認されなかった。遺物は耕作土中から土師質土器片が少量出土した。トレンチ2 1.8m × 1.0m。地表下70cmの深さで関東ローム層上面が確認されたが、遺構は確認されなかった。遺物は耕作土中から土師器片が少量出土した。トレンチ3 6.8m × 1.0m。地表下90～120cmの深さで関東ローム層上面が確認されたが、遺構は確認されなかった。遺物は耕作土中から土師器片が少量出土した。

(2) 出土遺物 第134図1はトレンチ1から出土した土師質土器の土鍋もしくは焙烙である。破片のため、内耳は残存していないが、外面は煤の付着で黒く変色しており、調理具として機能したと考えられる。中世もしくは近



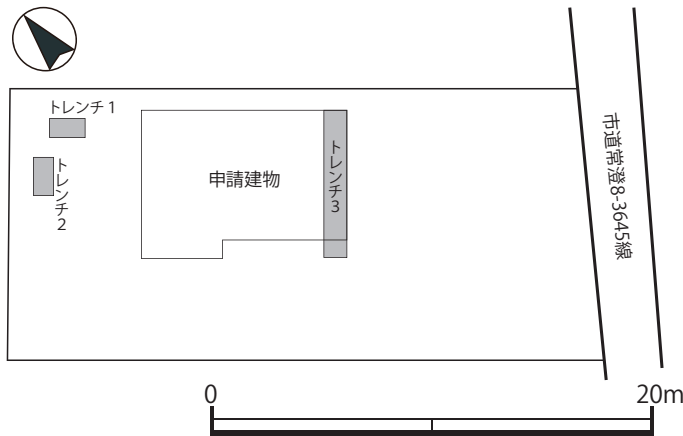
第132図 新地遺跡(第2地点)の位置



写真164 トレンチ1掘削状況(西から)



写真165 トレンチ2掘削状況(南から)

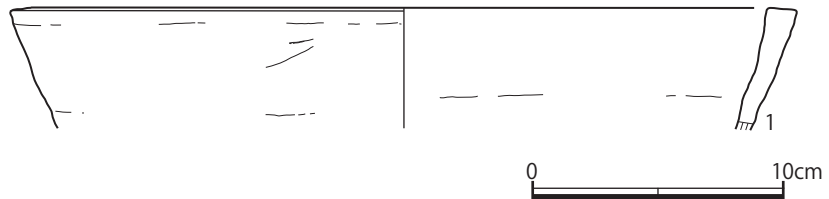


第133図 新地遺跡(第2地点)のトレンチ配置



写真166 トレンチ3掘削状況(南から)

世の遺物であろう。(川口・関口)
 (3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構が確認されなかったことから慎重工事扱いとした。(川口)



第134図 新地遺跡(第2地点)出土遺物

2-51 下本郷遺跡(第4地点)

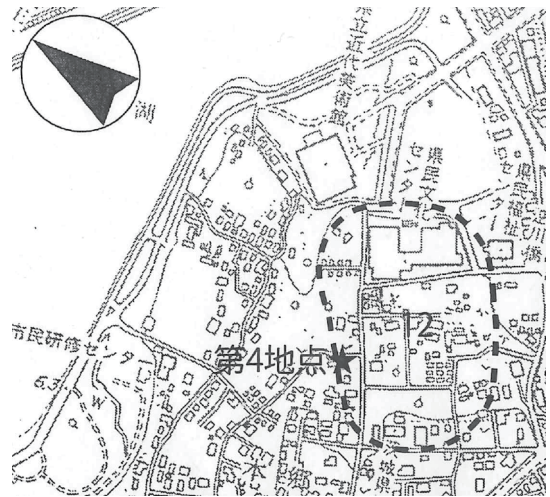
所在地 水戸市千波町24番地1ほか
 開発面積 1,393.65㎡
 調査期間 平成23年1月21日
 調査面積 0.9㎡
 調査原因 個人住宅増築
 調査担当 川口武彦・三浦健太

調査方法 開発対象地内には既存建物に加えて工作物が多数存在し、重機による進入が困難であったことから、地下に掘削が及ぶ増築部分にトレンチを1本設定し(第136図)、人力により関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

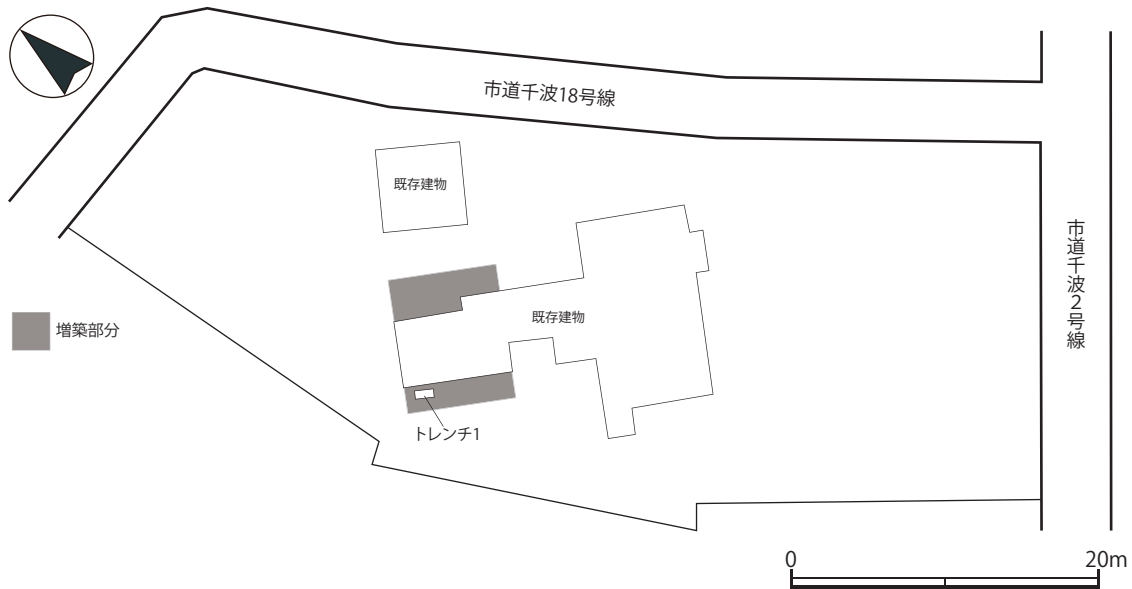
(1) トレンチの概要 トレンチ1 1.5m×0.6m。地表下80cmの深さで関東ローム層上面が確認されたが、攪乱が著しく、遺構は確認されなかった。遺物は淡泊石製の剥片が1点出土した。

(2) 出土遺物 淡泊石製の剥片は小片のため図化には至らなかった。

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構が確認されなかったことから慎重工事扱いとした。(川口)



第135図 下本郷遺跡(第4地点)の位置



第136図 下本郷遺跡(第4地点)のトレンチ配置

2-52 下本郷遺跡（第5地点）

所在地 水戸市千波町 688-1, -2, 686

開発面積 5,840 m²

調査期間 平成 23 年 2 月 22 日

調査面積 37.5 m²

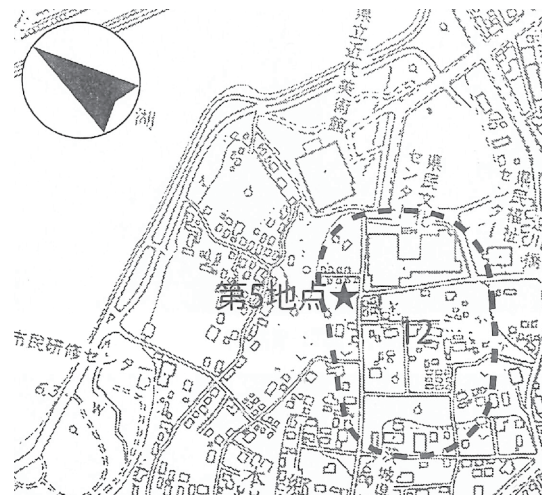
調査原因 宅地造成

調査担当 川口武彦・三浦健太

調査方法 開発対象地内のうち、西側と北側は現況が葡萄畑及び山林としての土地利用が行われており、重機による進入が困難であったことから、重機の進入が可能な南東側の道路敷設予定部分にトレンチを3本設定し（第138図）、重機により関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

(1) トレンチの概要 トレンチ1 10m × 1.5 m。地表下 80cm の深さで関東ローム層上面が確認されたが、攪乱が著しく、遺構・遺物は確認されなかった。トレンチ2 10m × 1.5 m。地表下 80cm の深さで関東ローム層上面が確認されたが、攪乱が著しく、遺構は確認されなかった。遺物は縄文土器が少量出土した。トレンチ3 5m × 1.5 m。地表下 80cm の深さで関東ローム層上面が確認されたが、攪乱が著しく、遺構は確認されなかった。遺物は縄文土器が少量出土した。

(2) 出土遺物 第139図1・2は開発対象地内で表面採集された縄文土器の深鉢形土器の胴部片である。1は外面に単節RL縄文が回転施紋されている。2は地文に単節RL縄文が回転施紋され、隆帯を貼り付けた後に隆帯に沿って沈線を描き磨り消している。1は中期後葉の加曾利E式、2は加曾利E2式であろう。3はトレンチ3から出土した縄文土器深鉢形土器で外面に条線が描かれている。中期後葉の連弧文系土器である。4は円筒埴輪の破片であ



第137図 下本郷遺跡（第5地点）の位置



第138図 下本郷遺跡（第5地点）のトレンチ配置

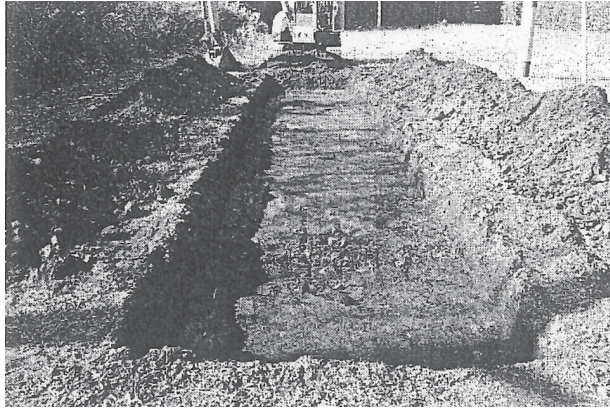


写真 167 トレンチ 1 掘削状況 (南東から)

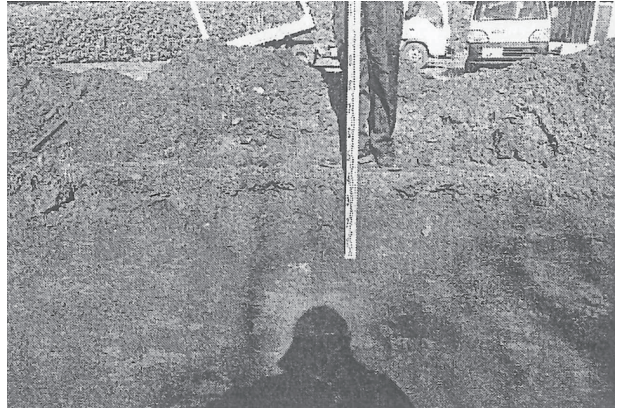


写真 168 トレンチ 1 掘削深度 (南から)



写真 169 トレンチ 2 掘削状況 (南東から)



写真 170 トレンチ 2 掘削深度 (南から)

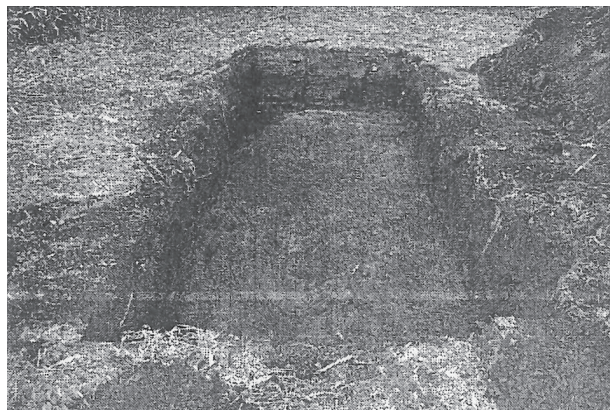
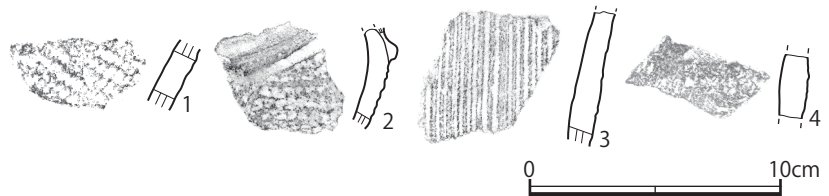


写真 171 トレンチ 3 掘削状況 (南東から)



写真 172 トレンチ 3 掘削深度 (南から)

る。器面の剥落により、凸帯や刷毛目は失われている。胎土に白雲母が特徴的に含まれ、こうした特徴を持つ埴輪は筑波山周辺か常陸太田市元太田山埴輪窯の製品である可能性が高い。近隣では国指定史跡「吉田古墳」の東側周溝からも複数個体が出土している(関口・川口 2007, 関口・川口・渥美 2009)。本資料は当遺跡内に未確認の古墳が存在することを示唆する資料として貴重である。



第 139 図 下本郷遺跡 (第 5 地点) 出土遺物

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 遺構が確認されなかったことから慎重工事扱いとした。

(川口)